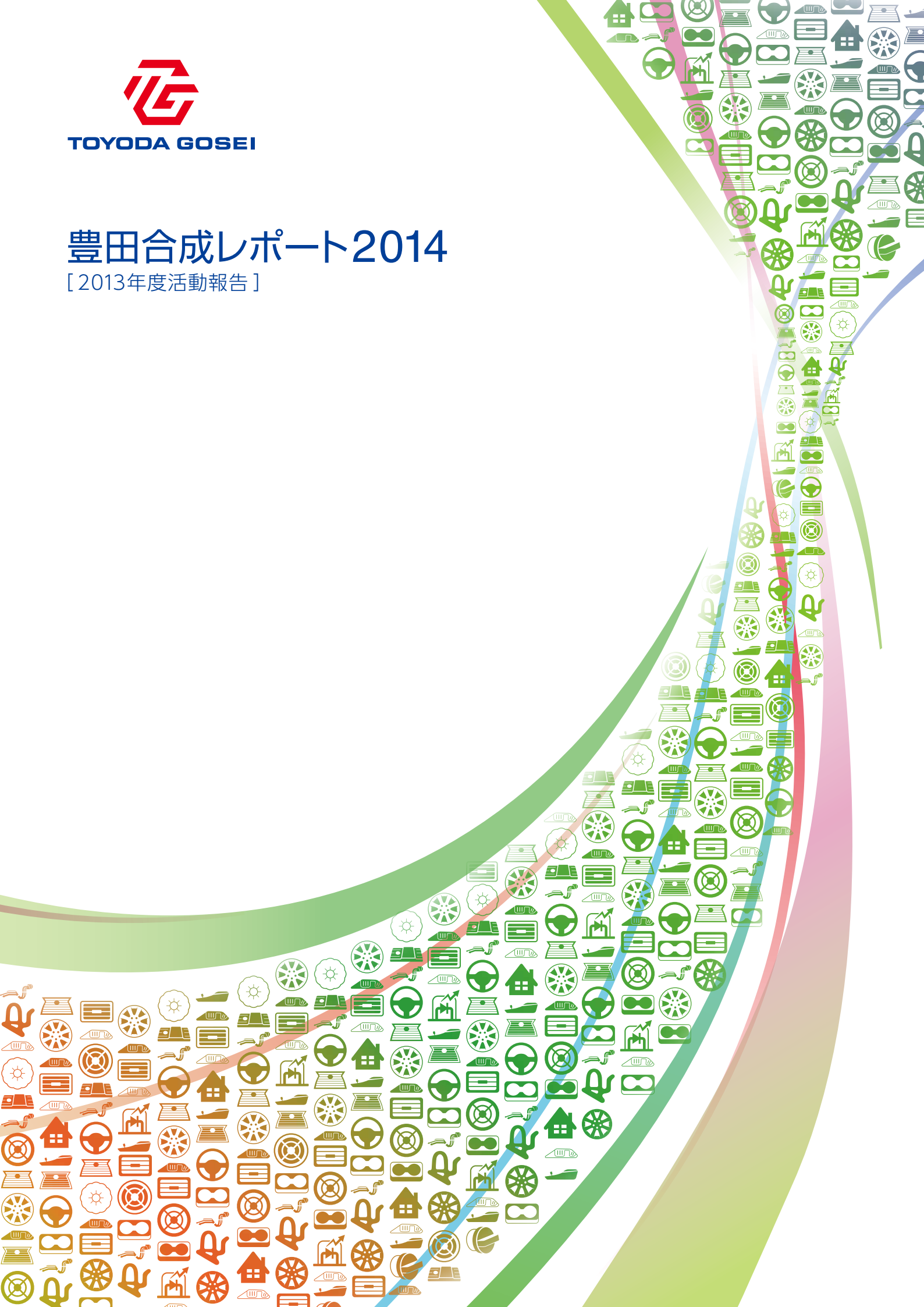




TOYODA GOSEI

# 豊田合成レポート2014

[2013年度活動報告]



# 豊田合成グループ経営理念体系

## 経営理念

### 限りない創造 社会への奉仕

#### 【お客様の満足】

私たちは、時代を先取りした研究開発とものづくり技術を進化させ、お客様に満足していただける品質・価格で、タイムリーに商品・サービスを提供します。

#### 【人間性の尊重】

私たちは、労使相互信頼・責任を基本に、個人の創造力・チャレンジ精神とチームワークによる総合力を高め、活力と働きがいのある企業風土を実現します。

#### 【社会との共生】

私たちは、グローバル企業として内外の法・ルールおよびその精神を遵守し、地域に根ざした事業活動と産業・経済・社会への貢献を通じて、社会から信頼される良き企業市民をめざします。

#### 【環境との調和】

私たちは、環境保全・省エネ・安全分野での商品提供とあらゆる企業活動を通じて、住みよい地球と豊かな社会づくりに取り組みます。

#### 【着実な成長】

私たちは、企業体質の強化と変化に対応した経営の革新を進め、高分子分野・LED分野のグローバルなトップメーカーとして着実に成長します。

経営  
理念

行動  
憲章

TG 2020  
VISION

TG Spirit

## 行動憲章

豊田合成グループで共有すべき倫理規範・価値観を示しています。

#### 【企業の社会的責任】

#### 【会社と社員の関係】

- ・健全で働きやすい職場づくり
- ・資産／機密の管理

#### 【会社の事業活動】

- ・開発／生産活動
- ・営業活動
- ・調達活動
- ・海外事業活動
- ・環境保全活動

#### 【社会との関係】

- ・企業広報活動
- ・社会貢献活動
- ・反社会的勢力排除
- ・官公庁等との関係

#### 【私的行為】

- ・健全な社会生活
- ・インサイダー取引の禁止
- ・交通安全

## TG 2020 VISION

経営理念の趣旨に則って、豊田合成グループの「2020年の目指す姿」と「取り組みの方向性」を明示しています。

#### 【目指す姿】

お客様にうれしさをお届けし  
選ばれる企業集団

#### 【活動の柱】

- ① 良いものをより安く
- ② 新しい技術をより早く
- ③ 事業の基盤をより強く

#### 【活動を支える人材】

個々の能力をより高く  
組織の連携をより強く

## TG Spirit

グローバルで共有すべき大切な価値観を示しています。

#### 【Customer Oriented】

お客様の立場で考えよう

#### 【Challenge】

高い目標を掲げ、勇気を持って  
チャレンジしよう

#### 【Ownership】

何事も主体的に責任を持って  
やり抜こう

#### 【Continuous Kaizen】

現状に満足せず、  
改善を続けよう

#### 【Respect】

一人ひとりの個性や  
意見を尊重しよう

#### 【Teamwork】

お互いに助け合い、  
チームとして成長しよう

## 豊田合成レポート2014 [2013年度活動報告] について

### 編集方針

本レポートは、豊田合成に関係する全てのステークホルダーの皆様に、豊田合成グループの姿勢・活動を深く理解していただき、より一層の信頼をいただくことを目的に、「社会・環境報告書」と「アニュアルレポート」を1冊にまとめた「統合レポート」として企画・編集しました。

報告にあたっては、当社で重要性（マテリアリティ）を考え、ステークホルダーの皆様にお伝えしたい事項を重点的に取り上げることで、当社グループの活動を理解しやすい誌面づくりに努めました。また、ステークホルダーの方のご意見や活動に取り組む従業員のコメントを紹介しています。

本レポートは、特集を含む導入パート、事業・経営・社会・環境・財務の5つの報告パートで構成しています。導入パートの特集では、グローバル化が急速に進む中、「ONE TEAM, ONE TG.」の実現に向けた当社グループの取り組みをご紹介します。報告パートでは、2013年度の活動内容とその成果をお伝えしています。

### 対象期間

2013年4月1日～2014年3月31日

上記対象期間を原則とし、必要に応じて本期間以外の内容も掲載しています。

### 対象範囲

原則として豊田合成グループ連結対象会社。

一部項目については個々に範囲を記載しています。

### 将来の見通しに関する注意

本レポートには、豊田合成の将来についての計画や戦略、業績に関する予想及び見通しが含まれています。これらの記述は過去の事実ではなく、当社が現時点で把握可能な情報から判断した仮定及び所信に基づく見込みです。また、経済動向、自動車業界における競争の激化、市場需要、税制、法律、制度変更、天災などに関するリスクや不確実性を含んでいます。従いまして、実際の業績は当社の見込みとは異なる可能性があることをご承知おきください。

### 参照ガイドライン

- グローバル・レポート・イニシアティブ (GRI)  
「サステナビリティ・レポート・ガイドライン第3版(G3.1)」※1
- 環境省  
「環境報告ガイドライン2012年版」※1  
「環境会計ガイドライン2005年版」  
※1 ガイドライン対照表はホームページに掲載しています。  
<http://www.toyoda-gosei.co.jp/csr/dl/>

### 発行日

2014年7月(次回発行、2015年夏予定/前回発行、2013年7月)

### 本報告書に関するお問い合わせ先

総務部 広報室(本社)

TEL. 052-400-1055 FAX. 052-409-7491

施設環境部 環境管理室(北島技術センター)

TEL. 0587-34-3291 FAX. 0587-34-3309

本レポートは、当社ホームページでもご覧いただけます。

<http://www.toyoda-gosei.co.jp/>

## 目次

- 1 豊田合成グループ経営理念体系
- 2 編集方針/目次
- 3 トップメッセージ
- 5 特集

## 「ONE TEAM, ONE TG.」の実現に向けて

拠点間の連携を深め、グローバルで競争力を強化

### 事業報告

- 11 事業概要
- 12 事業別報告

### 経営報告

- 15 コーポレートガバナンス
- 16 コンプライアンス
- 17 リスクマネジメント

### 社会報告

- 18 お客様との関わり
- 21 従業員との関わり
- 26 株主との関わり
- 27 サプライヤーとの関わり
- 28 地域社会との関わり

### 環境報告

- 31 グローバルに環境保全活動を推進
- 32 第5次環境取り組みプランの活動と結果
- 34 温暖化防止
- 36 資源有効利用
- 38 環境負荷物質管理・低減
- 39 環境経営
- 43 環境効率の高いLEDの普及を推進
- 44 環境コスト/第三者意見

### 財務報告

- 45 経営成績及び財政状態の報告・分析
- 47 5年間の連結財務サマリー
- 48 連結貸借対照表/連結損益計算書

### コーポレートデータ

- 49 グローバルネットワーク/国内ネットワーク
- 52 会社データ/取締役・監査役・執行役員/株式の状況

# 「ONE TEAM, ONE TG.」の年度スローガンのもと、 グループ3万人が一体となり、世界中のお客様に 喜んでいただけるグローバル企業を目指します。



豊田合成株式会社  
取締役社長

荒島 正

## はじめに

当社グループはゴム・樹脂やLEDなど高分子・LED分野の専門メーカーとして、世界18ヶ国と地域に64のグループ会社を有し、自動車部品及びLED製品のグローバルサプライヤーとして事業を展開しています。

近年、環境志向の高まりを背景に、ハイブリット車や電気自動車の市場はさらに拡大傾向にあります。当社はこれに対応し、軽量化・小型化を図った各種自動車部品や、より安全な“くるま社会づくり”に貢献するため、エアバッグをはじめとする自動車の各種安全装置の開発などを積極的に行っています。また、省エネでエコな次世代の光として需要が高まるLEDでは、さらなる高光度・高効率性を目指した技術開発を行い、低炭素社会の実現に向けた活動も積極的に推進しております。

## 2013年度を振り返って

2013年度の業績は、自動車業界におきましては、これまで成長を続けてきた東南アジアなどの新興国で生産台数の伸びが鈍化しましたが、好調な北米や中国市場の下支えと国内市場の新型車投入効果などにより、世界市場全体としては、堅調に推移してまいりました。

また、LED業界におきましては、スマートフォンやタブレット型端末などのモバイル端末やLED照明の普及拡大により市場の成長が続く一方で、新興企業の市場参入により、価格競争は一層激化してまいりました。

このような情勢の中で当社グループは、将来の持続的成長に向け、「製品競争力の向上による事業拡大」と「伸びる市場での積極的な事業展開」を重点として取り組んでまいりました。

「製品競争力の向上による事業拡大」として自動車部品事業では、トヨタ自動車(株)様の新型ハリアーに搭載された「アクリル透明ラジエータグリル」の開発において、外観品質の向上が認められプロジェクト表彰(技術の部)を受賞しました。また、エアバッグの展開速度を従来よりも速くし、性能を大幅に向上させたほか、設計仕様を共通化するとともに、シンプルで造り易い製品構造を実現したニーエアバッグを開発しました。

オプトエレクトロニクス事業では、従来の蛍光灯に比べ寿命は約6倍で、消費エネルギーや重量は約半減という特長を持った

「スリムベースライト(LED蛍光灯)」を開発しました。また、多様な目的に合わせ光をコントロールできる「サンケンネオビュー(LED照明器具)」が、「グッドデザイン賞」を受賞しました。(サンケン電気(株)と共同開発)

「**伸びる市場での積極的な事業展開**」では、設立以来初めて海外売上高が国内売上高を上回り、海外市場への対応の重要性が更に高まった状況の下、グローバルでの投資を積極的に行ってまいりました。

米州地域では、需要の高まりに対応し、新会社の設立や既存工場の能力増強を行いました。豪亜地域では、エアバッグ需要の高まりに対応し、インドネシアでの工場を拡張したほか、オートモーティブシーリング製品のさらなる拡販に向けて中国(天津)での工場を拡張しました。欧州地域では、欧州自動車メーカーとのビジネス拡大と収益基盤の強化を図るため、ドイツでのウエザストリップ製品を生産する新会社を設立しました。このように、さらなる飛躍への基盤固めを目指し、グローバルで事業を強化してまいりました。

## 2014年度の取り組み

自動車業界におきましては、新興国の部品メーカーとの熾烈な価格競争や、グローバルでの開発競争など、企業間競争のさらなる激化が予想されます。また、国内では、今後も拡大が見込まれる軽自動車市場への対応を積極的に行う必要があります。

オプトエレクトロニクス事業では、照明・車載分野を中心にさらなる拡大が見込まれますが、バックライト分野では、タブレット型端末の普及一巡などにより成長スピードの鈍化が予想されます。また、競争激化による低価格化も進行するなど、当社グループを取り巻く経営環境は、より一層厳しさを増しております。

このような状況の下、当社グループは、「TG 2020 ビジョン」に掲げた「世界のお客様にうれしさをお届けし選ばれる真のグローバルサプライヤー」を目指すため、

- ① 不良をつくれない・流さない「ものづくり」による着実な品質向上
- ② 工法・材料革新によるダントツ製品造りとグローバル展開
- ③ 市場・顧客ニーズに応える商品企画・開発と先端技術の追求
- ④ 技術・製造・販売が一体となった拡販活動

を重点方針に掲げ、「ONE TEAM, ONE TG.」のスローガンの下、持続的成長を実現する技術開発と拡販活動ならびにものづくり力の強化に当社グループ一丸となって取り組んでまいります。

## 持続可能な社会を目指した 「環境保全・社会貢献活動」

当社グループは、よき企業市民として社会とともに成長していくために、地球環境保全に寄与する取り組みや地域社会に根ざしたボランティア活動をグローバルで推進しております。

「**環境保全の取り組み**」では、2011年度に策定した「第5次環境取り組みプラン」の一環として、国内の事業所で使用する高天井用照明1千台を水銀灯から自社製LED照明に切り替えました。従来の水銀灯照明に比べ、約6割のCO<sub>2</sub>排出量の削減効果が見込まれ、2015年度末までに残りの2千台も順次切り替えていく計画です。

「工場緑化の推進」「従業員の環境意識の向上と一体感の醸成」「地域社会との融和」を目的に行っている「工場の森づくり活動」は5年目を迎え、その活動範囲を当社及び海外子会社へ拡大してまいりました。今年度は新たに国内子会社や米国の海外子会社にも展開し、累計で世界16拠点に約24万本を植樹してまいりました。

このような活動が評価され、日本経済新聞社による「環境経営度調査」では自動車部品メーカーとしてトップの9位となり、7年連続で上位20社入りを果たすことができました。

「**社会貢献の取り組み**」では、東日本大震災への継続した復興支援として、岩手県と宮城県に当社製LEDを搭載したLED防犯灯などを寄贈しました。また、被災地でのスポーツ支援も積極的に行いました。さらに、社内食堂では東北物産品の販売も行い、被災地のニーズに沿った復興支援に取り組んでまいりました。

グローバルでのボランティア活動では、「グローバル一斉社会貢献活動」を継続し、約7千人が参加する規模にまで拡大してまいりました。また、タイの障がい者児童支援施設や米国の高齢者福祉施設を訪問し日用品を寄贈するなど、世界各国においても近隣地域への支援活動を積極的に取り組んでおります。

## おわりに

当社グループは、「お客様の満足」、「社会との共生」、「環境との調和」などを経営理念に掲げ、「ONE TEAM, ONE TG.」のスローガンの下、従業員約3万人が一体となり、より良い製品の提供や社会貢献活動を通じ、「世界のお客様にうれしさをお届けし選ばれる真のグローバルサプライヤー」を目指していきたく思います。

ステークホルダーの皆様には、今後とも、変わらぬご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

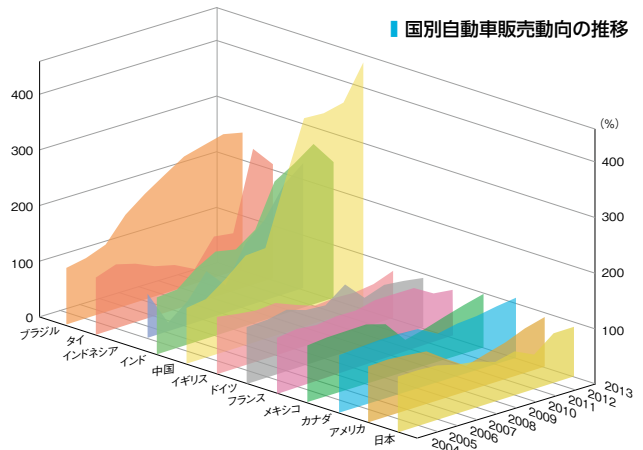
# 特集

# 「ONE TEAM, ONE TG.」

拠点間の連携を深め、グローバルで競争力を強化

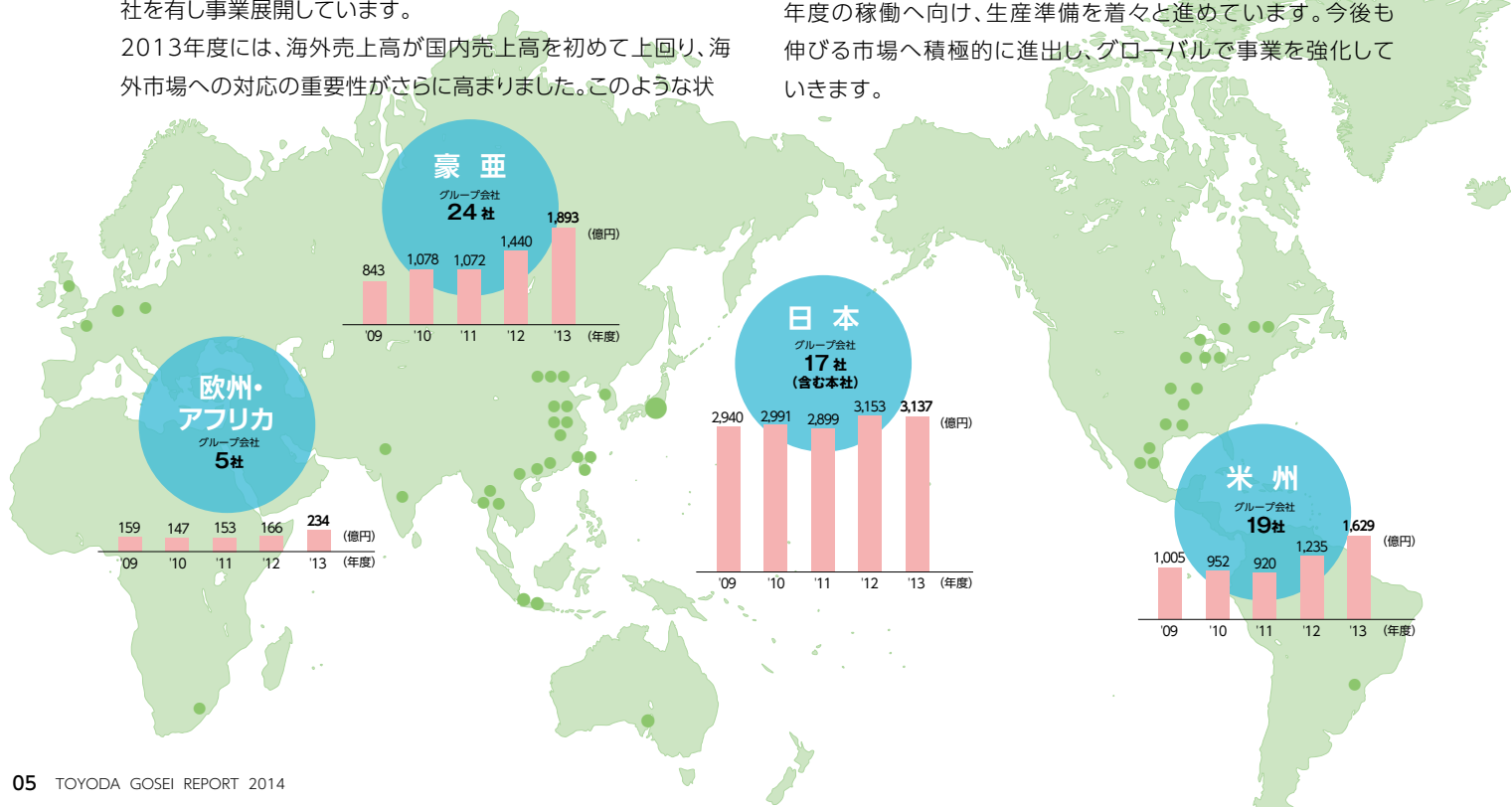
## 新興国への対応が成長の鍵

日本の自動車業界のグローバル化は、ここ数年で従来よりも更に進展しています。国別の自動車販売台数の成長率を見ると、北米、欧州、日本はほぼ横ばいに推移する一方、中国、インド、ブラジルなどは突出した伸びを示しています。そのため、今後は新興国を中心とした世界市場への対応が成長の鍵を握ると言っても過言ではありません。こうした動きを受け、自動車メーカー各社は、生産を現地化する動きが顕著になっています。豊田合成グループは、1977年にアメリカ・イリノイ州に米国事務所を開設以来、北米やアジア、中国、欧州へ積極的に拠点を設立してきました。現在では、18の国・地域に64のグループ会社を有し事業展開しています。2013年度には、海外売上高が国内売上高を初めて上回り、海外市場への対応の重要性がさらに高まりました。このような状



2004年=100 ※インドネシアは2005年=100としてグラフ化  
出典：マークラインズ

況の下、ドイツとメキシコに新会社を設立したほか、アメリカ・カナダでの分工場の稼働やインドネシア工場の拡張などを行いました。また、南米初の拠点であるブラジル工場では、2014年度の稼働へ向け、生産準備を着々と進めています。今後も伸びる市場へ積極的に進出し、グローバルで事業を強化していきます。



# の実現に向けて

## 強みの再確認と相互研鑽を図る グローバルサミットを開催

これまで以上に海外市場の重要性が高まった中で、豊田合成が持続的成長へ向け当社の強みを再認識するとともに、国内外の拠点が相互に研鑽しあう場が必要だと考え、2013年9月24日から4日間、グローバルサミットを日本で開催しました。

当日は、海外拠点のトップと国内の出席者を合わせ、40名近い外国人を含め約100名が参加しました。社長の荒島による基調講演では、サミットの目的や私たちの日常業務の中で大切にしていることなどが紹介されました。その後、販売・技術・生産など、各分野の代表者が基本方針や中長期の取り組みを説明したほか、設計者自らが新製品や新技術のプレゼンテーションを実施しました。また、ゴム・樹脂それぞれの領域の主要工場を見学し、各工程の取り組み内容を現地現物で確認しました。このほかにも、不安全な状態・行為の事例を紹介し改善につなげるための「安全KY道場」や、からくり機構による改善事例を紹介した



荒島社長 基調講演



設計者のプレゼンテーション



工場見学



安全KY道場

「からくり道場」の視察も行われました。さらに、海外の各拠点による成功事例の発表を通じ、これまで以上の情報共有がされたことで、豊田合成の強みが再認識されました。

## サミットを契機に拠点間の連携が進む

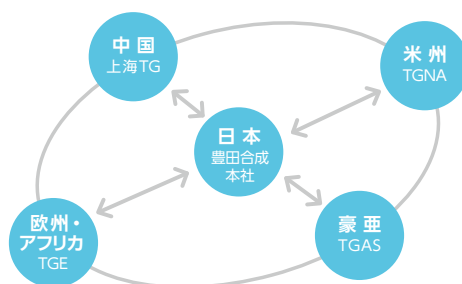
グローバルサミット終了後は、海外拠点間での「良い取り組みの共有」が活発に行われるようになりました。

1つ目に挙げられるのは、ミニサミットの開催です。めっき・エアバッグ・押出・ハンドルの革巻きなど同一の工程を持つ生産拠点の関係者が、互いに課題の共有を図り解決策を出し合い、最適な工程を追求するという活動が自主的に行われています。

2つ目は「からくり」を用いた改善活動の活性化です。各拠点が、「からくり道場」の事例紹介で得たアイデアをもとに、より効率的な工程の確立に向けた取り組みが行われています。

そのほか、環境負荷低減については、取り組みが先行している本社の担当者が北米拠点を訪れ、課題の設定や現地担当者の指導を行っており、今後は他の地域へも展開していく予定です。さらに、チェコ拠点の労務管理手法をアメリカ拠点で開催する北米人事労務会議の場で発表するなど、ベストプラクティスの情報共有が海外拠点間で進んでいます。

豊田合成グループは、TG2020ビジョンに目指す姿として「世界のお客様にうれしさをお届けし選ばれる真のグローバルサプライヤー」を掲げています。今回のグローバルサミットは、その実現に向けた活動の一環です。今後も「ONE TEAM, ONE TG.」をキーワードに、オープンマインドで共に連携・成長し、「真のグローバルサプライヤー」になるための活動を続けていきます。



# 海外拠点レポート

米州、豪亜、欧州・アフリカにおける2013年度の海外拠点の動向及び今後の展望と、グローバルサミットに出席した拠点長から今後の取り組みについて報告します。

## 米州

### 外資系メーカーへの販売が拡大 さらなる収益構造の改善に向けた活動を推進

#### ■ 地域概況

2013年度は、北米自動車生産台数が約1,650万台と堅調に推移し、昨年度からの回復基調が続いています。今後も需要の増加や、北米地域における完成車メーカーの投資拡大に伴い、米国・メキシコを中心とした自動車生産台数は、緩やかに増加すると見込んでいます。また、部品メーカー各社においても、日系自動車メーカーやデトロイト3 (GM、クライスラー、フォード) をはじめとする、外資系自動車メーカーからの受注の増加に伴い、米国・カナダ・メキシコで、事業基盤を拡充する動きが活発化しています。

#### ■ 2013年度の活動結果

2013年度は、2012年度に立案した「2018年北米販売戦略」に基づき、拡販・収益向上に努めた結果、外資系自動車メーカーへの販売拡大といった、活動の成果が徐々に表れてまいりました。この他にも2013年度は、顧客の増産への対応や、新規拡販に対する諸施策を実施するため、カナダのTGミント(株)ストラトフォード分工場を稼働させたほか、ゴムホースの生産拠点として豊田合成ラバーメキシコ(株)をメキシコのマタモロス地区に設立しました。また、技術力の向上、品質確保の取り組みが評価され、トヨタモーターエンジニアリング アンド マニファクチャリング ノースアメリカ(株)様からExcellent Awardsとして、豊田合成テキサス(有)が「Launch Performance Tundra」を受賞、TGオートモーティブシーリングメキシコ(株)が「Quality Performance」を受賞、さらに、豊田合成ノースアメリカ(株)が北米の豊田合成グループを代表して「Value Improvement」を受賞しました。今後も本社、その他の地域とのグローバルな連携を強化し、拡販・収益向上のための活動を継続的に推進し

てまいります。

この他にも、社会貢献活動も重要な活動として、積極的に取り組んでいます。2014年3月には、豊田合成グループのグローバル活動である「工場の森づくり」を、TGケンタッキー(有)で開催しました(北米地区初)。地域住民や取引先など4,000名を超える皆様にボランティアとして参加していただき、約3万5,000本の苗木を植樹しました。

#### ■ 今後の取り組み

2014年度の北米地域は、引き続き堅調に推移していくと予測されます。北米地域の重要性を再認識し、全拠点が「一丸」となり、さらなる拡販と安定した生産を行い、収益力を高めるため、継続して「安全」「品質」「ものづくり力の強化」「人づくり」「CSR、コンプライアンス」の5つをキーワードに事業活動を推進します。「安全」については、北米中央安全委員会を中心とした活動を通じ、良い事例を拠点間で共有し、重大災害を絶対に起こさない感性の高い人づくり・職場づくりを目指します。「品質」については、2014年1月から開始した品質安心宣言活動を継続し、品質問題を発生させない人・工程づくりを推進します。「ものづくり力の強化」については、グループ間の連携をさらに強化し、製造・技術一丸となった工程革新と円滑な新製品立ち上げを行うほか、北米全体の最適生産のレイアウト整備を進め、収益構造の改善を図ります。「人づくり」については、管理職教育、ミドルマネジメント教育を各拠点で段階的に実施。組織力を向上させ、将来の成長のためのコア人材の育成・確保を進めます。「CSR、コンプライアンス」については、「工場の森づくり」をはじめとする、地域とのふれあいを通じた社会貢献活動の推進、教育・研修などによる従業員一人ひとりのコンプライアンス意識の醸成を図る活動を推進します。

#### MESSAGE

グローバルサミットに参加して、ものづくりの強化や事業横断の考え方を共有できたとともに、品質の差別化管理及び人材育成の重要性を再認識し、「ONE TEAM」を実感することができました。北米事業の持続的成長のためには国を越えた連携が重要となるため、グローバルでのベンチマーキング、方策実現のためのアイデアを参考に、他地域の良い事例を取り入れながらレベルアップを図っていきます。「品質安心宣言活動」を推進していく他、昨年度行ったチェコ拠点とのISシステムの情報交換など、地域をまたいだ取り組みも積極的に進めていきます。

Toyota Gosei  
North America  
Corporation

社長  
小山 享





豪 亜  
(アジア)

## 販売活動の強化に向けて、確実な技術移転と現調化、 内製化を図り、地域内での競争力向上に取り組む

### ■ 地域概況

経済成長著しいアジアですが、状況は国・地域によって大きく異なります。インドネシアでは、自動車販売が2013年度も120万台を超えるなど10%（前年比）以上の伸びを継続しており、2012年度後半に販売が開始されたLCGC（Low Cost Green Car、1,000CCクラス）の販売も好調に推移しています。インドでは、高金利と燃料価格の上昇を受けて自動車販売が低迷していましたが、2014年2月に自動車販売の物品税の引き下げが発表され、上昇の兆しが見えています。

また、自動車メーカー各社は競争力の強化を図るため、現地調達を中心とした最適調達化を推進しております。

### ■ 2013年度の活動結果

タイでは、2013年5月に新製品展示会を開催し、新製品・新技術のPRとアジア地域における豊田合成グループの認知度向上を図りました。インドネシアでは、アセアン地域の新車安全性能評価プログラムであるASEAN N-CAPへの対応として、運転席エアバッグに加え助手席エアバッグの生産をスタート。また、従来はタイから納入していた革巻きハンドルの

現地内製化を実施し、顧客へ納入を開始しました。さらに、今後の車両増販へ対応し工場建屋の拡張を行い、芯金及び樹脂部品の内製化を着手しました。インドではタイから輸入していた押出素材の現地生産を開始し、配練・押出・2次加工に至るボディシーリング部品の一貫生産・販売を実現しました。

### ■ 今後の取り組み

2014年度は、アジア地域としては、人件費が高騰傾向にあるため、工程の簡易自動化や改善による工数低減が重要であるとともに、価格競争力を保つため、継続した原価低減活動を実施していきます。タイでは、トヨタ自動車(株)様以外の顧客への拡販活動を精力的に実施していきます。インドネシアでは、部品の現地調達化を図る一方、低価格小型車向けのハンドル芯金、樹脂カバー成形の内製化を推進し、さらにフューエルホースなど機能部品の組み付け工程を新設する計画です。インドでは、押出ラインの増設などの生産設備の拡充、ハンドルのダイキャスト製品の内製化とさらなる現地調達化を推進し、現地のローカルサプライヤーとの価格競争力の強化を図ります。

## MESSAGE

グローバルサミットを通して、日本や他拠点の活動状況を知り、豪亜地区に不足しているもの、自社で改善できるものが何かを知ることができました。また、各地域と相互研鑽する意識や情報交換・協調の必要性とともに、グローバルでの当社製品のPRをより強化する必要性や、一つの地域の受注による他の地域への影響を認識しました。このサミットを機に、労働災害防止、コンプライアンス強化、QCサークル活動のさらなる強化を図り、豪亜全体が豊田合成のグローバル化を引っ張ってゆく気構えで頑張っていきたいと思えます。

Toyoda Gosei  
Asia Co., Ltd.

社長  
一木 教二



豪 亜  
(中国)

## 日系自動車メーカーの販売・生産が回復基調 「安全」「品質」を最優先に競争力向上を図る

### ■ 地域概況

尖閣諸島問題などによる反日感情の高まりによって低迷していた日系自動車メーカーの販売は、2013年度に持ち直し回復基調となりました。一方、中国地域全体では、前年比13.9%増の2,198万台と過去最高を更新。販売・生産ともに5年連続で世界一になりました。伸び率も過去2年の5%以下から2桁に回復しています。

### ■ 2013年度の活動結果

2013年度はトヨタ自動車(株)様に対する受注活動と並行し、他の自動車メーカー向けにビジネスを拡大するための活動を精力的に行いました。中国においては、長期にわたり技術・営業が一体となって拡販活動に取り組み、グローバルサプライヤーとしての確固たる基盤を構築。顧客との信頼関係をより強固なものとし、新車開発において製品設計段階から顧客と共同で取り組み

始めています。こうした取り組みが実り、品質や研究開発、供給、環境保全などの分野で顧客から数多くの表彰を受賞しました。

#### ■ 今後の取り組み

2014年度は豊田合成(上海)管理有限公司の技術機能の強化をはかり技術・営業が一体となった販促活動を行います。そのために評価設備を導入するとともに、研究開発区に移転します。また、豊田合成(佛山)橡塑有限公司では燃料部品拡

販のため工場拡張を計画、豊田合成(佛山)汽車部品有限公司では新規顧客とのビジネス拡大に伴い工場拡張を計画中です。中国の豊田合成グループが一丸となり、さらなる生産性の向上と現地調達強化、人材の育成に力を注ぎます。環境問題への関心が高まる中国では、環境負荷の高い自動車には通行規制を課すなど環境対策強化が進んでいます。環境分野で高い技術を誇る日系自動車メーカーには追い風であり、精力的にPRし拡販に努めていく考えです。

#### MESSAGE

グローバルサミットでは、本社役員や他地域の幹部社員との対話を通して現地スタッフのモチベーションの高揚につながりました。また日本・他地域の取り組みを知り、中国拠点の改善のヒントを得ることができました。現在はTGスピリット浸透に向けた活動や「ONE TEAM, ONE TG.」精神の醸成を目指した社内報発行の推進。さらに製品・部品評価の現地化のための技術機能強化を進めるとともに、2014年度よりQCサークルの中国大会を開催し、TQM活動の強化をしていきます。

Toyoda Gosei  
(Shanghai) Co., Ltd.  
総経理(社長)  
大西 亮



### 欧州・ アフリカ

## 欧州メーカーを中心に新規ビジネスを獲得 現地生産化、製品開発基盤強化を図る

#### ■ 地域概況

欧州の自動車業界は完成車の生産能力過剰が改善されず、主要自動車メーカーが販売奨励金を積み増すなど、熾烈な価格競争が継続。販売台数も欧州(EU、EFTA)30カ国で1,231万台と1995年以来の低水準にとどまりました。一方アフリカ地域では、拡大する中間所得層が市場を牽引。消費者嗜好の多様化に対応するため、日系自動車メーカーを中心に新車種の投入が図られました。

#### ■ 2013年度の活動結果

2013年度はこれまでの取引実績で信頼を培ってきたオートモーティブシーリング事業において、英国自動車メーカーから新規ビジネスを獲得。内外装事業では日系自動車メーカーから内装製品を中心に新たな受注を得たほか、ドイツ自動車メーカーから、ミリ波レーダ対応エンブレムの発注がありま

した。セーフティシステム事業においては、日系自動車メーカーから新規開発車向けエアバッグを受注しました。また、ウェザーストリップなどを生産する「豊田合成メテオール(株)」を設立し、メテオール社(ドイツ)の資産を譲り受けました。これにより、欧州自動車メーカーとのビジネスを拡大するとともにメテオール社が保持する固有技術などを活用することで、欧州における事業基盤の強化を図ります。

#### ■ 今後の取り組み

2014年度は、内外装部品の生産拡大に伴う現地設計の基盤作りや、機能部品である樹脂フューエルフィルターパイプの現地生産化の検討に着手するほか、オートモーティブシーリング製品における欧州ニーズを素早く新製品へ反映させる仕組みづくり、そしてセーフティシステム製品では欧州顧客への開発と設計の強化に取り組めます。

#### MESSAGE

私たちにとって今回のグローバルサミットは、他拠点の良い事例や改善点を知るとともに、海外で働く仲間との親睦や情報交換を図るよい機会になりました。また、各拠点が豊田合成グループのために一丸となり成長していくことを再認識しました。サミットを受けて、海外技術連絡会で紹介された他地域の活動を参考に拡販活動の強化、コンプライアンスへの意識向上、スタッフの問題解決能力の育成に努めるなど、グローバル企業としてさらなる発展を目指す取り組みに力を入れたいと考えております。

Toyoda Gosei  
Europe N.V.  
社長  
市岡 徹美



豊田合成グループは真のグローバルサプライヤーを目指し、伸びる市場に事業を展開し、事業基盤の強化を図っています。ここでは2013年度の主な事業展開を紹介します。

## 米州

1 アメリカ・カナダで  
分工場が稼働

2013年7月、米州市場における需要拡大に対応し、アメリカでは燃料用樹脂チューブを、カナダではインストルメントパネル構成部品をそれぞれ新設した分工場での生産を開始しました。



アメリカ：TG フルイドシステムズ USA (株)  
ハウエル分工場



カナダ：TG ミント(株) ストラトフォード分工場

2 メキシコに  
新会社を設立

2013年7月、米州市場における競争力と供給体制の強化を目的に、メキシコにゴムホースなどを生産する新会社(豊田合成ラバーメキシコ株)を設立しました。



豊田合成ラバーメキシコ(株)



GDBR インダストリアコメルシオ(株)

3 ブラジルの新会社で  
生産準備を開始

2013年3月に設立したブラジルの拠点において、本格稼働へ向けて、生産設備を順次導入しています。

## 豪 亜

4 インドネシアの  
工場を拡張

2013年7月、アセアン地域におけるエアバッグの需要拡大に対応し、インドネシアの工場を拡張しました。



(株)豊田合成セーフティシステムズ インドネシア

欧州・  
アフリカ

## 5 ドイツに新会社を設立

2014年1月、欧州自動車メーカーとのビジネス拡大と欧州における事業基盤の強化を目的に、ドイツにウェザーストリップなどを生産する新会社(豊田合成メテオール(株))を設立しました。



豊田合成メテオール(株)



# 事業概要

高分子分野・光半導体分野のベストパートナーとしてグローバルに事業を展開しています。

## ■事業領域



### オートモーティブシーリング製品

- ドアガラスラン
- ドアウェザストリップ
- オープニングトリムウェザストリップ
- ラゲージウェザストリップ



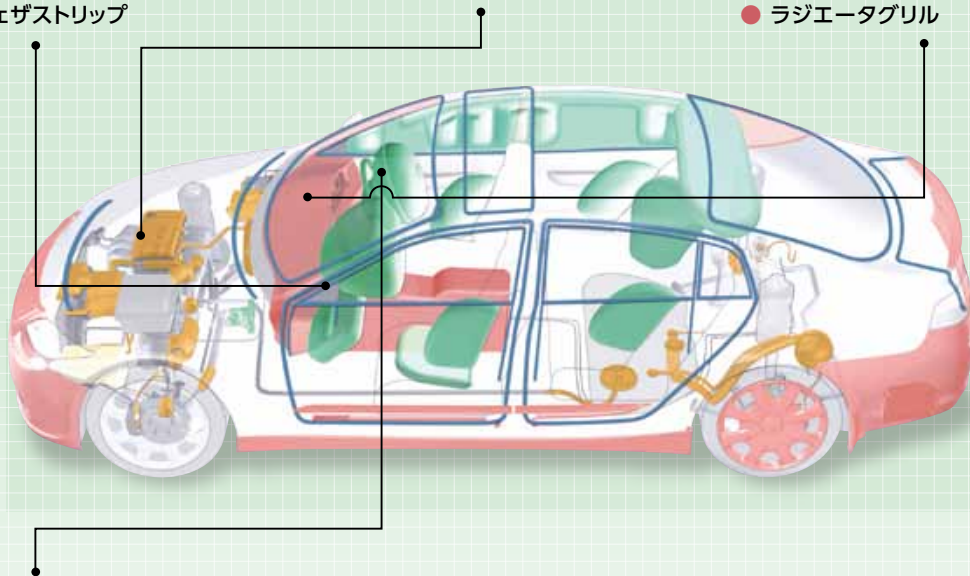
### 機能部品

- 燃料タンクモジュール構成部品
- パワートレイン系部品
- シャシー・ドライブトレイン系部品



### 内外装部品

- インstrumentパネル・構成部品
- LED応用内装製品
- 自動車アクセサリ用品
- ラジエータグリル



### セーフティシステム製品

- エアバッグモジュール
- ハンドル
- ポップアップフードアクチュエータ



### オプトエレクトロニクス製品

- LEDランプ・チップ・モジュール



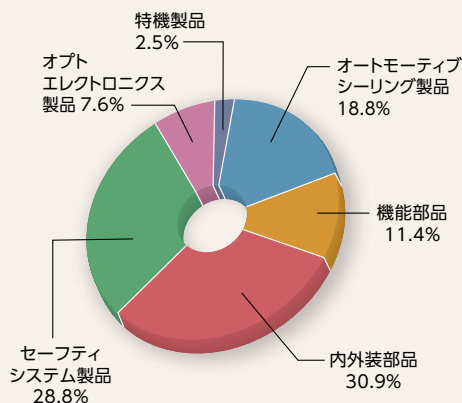
### 特機製品

- 通信機器部品
- 空調製品
- 住宅関連部品
- 建設・産業機械部品

## ■分野別売上高

(億円未満切り捨て)

	2013年度		2012年度		増減率 (%)
	金額 (億円)	構成比 (%)	金額 (億円)	構成比 (%)	
オートモーティブシーリング製品	1,296	18.8	1,157	19.3	12.0
機能部品	786	11.4	660	11.0	19.0
内外装部品	2,130	30.9	1,859	31.0	14.6
セーフティシステム製品	1,987	28.8	1,675	28.0	18.6
自動車部品事業計	6,200	89.9	5,352	89.3	15.8
オプトエレクトロニクス製品	520	7.6	548	9.1	▲5.0
特機製品	173	2.5	94	1.6	84.0
合計	6,894	100.0	5,996	100.0	15.0



# 事業別報告



## オートモーティブシーリング製品

### 2013年度のハイライト

#### ■ 環境に配慮した表面処理剤の適用拡大

地球環境に配慮したものづくりとして、環境負荷物質であるVOC(揮発性有機化合物)の低減を目的とした水系表面処理剤を適用しています。従来のドアウェザーストリップ用の表面処理剤に対し各製品の要求性能に特化した改良を施し、オープニングトリムウェザーストリップ、サンルーフウェザーストリップへと適用製品の拡大を実施しています。



- ①ドアガラスラン
- ②オープニングトリムウェザーストリップ
- ③ドアウェザーストリップ



ドアの機能やデザインに対する多様なニーズに応え、常に最適なドアシール構造を提案



コンパクトカー向け  
軽量オープニングトリム  
ゴム材料や金属インサートを工夫し、  
これまでにない軽量化を実現

### 2013年度(連結)

売上高：1,296億円 売上構成比：18.8%



## 機能部品

### 2013年度のハイライト

#### ■ 軽量化(樹脂化)部品のグローバル生産拡大

近年の燃料高騰や環境意識の向上により、自動車部品においても軽量化かつ環境負荷低減が求められています。2013年度は、日本で量産化した樹脂フューエルフィルターパイプをグローバルで量産化するための生産準備を開始しました。2014年度はターボダクトやフューエルフィルターリードなどの樹脂化による軽量化部品の生産を拡大していきます。また、ハイブリッドシステムや電気自動車、燃料電池自動車といった代替エネルギー自動車に向け、樹脂・ゴムのフレキシブル性、電気絶縁性、難熱伝導性などの特性を活かした材料・製品開発を引き続き進めていきます。

#### ● 燃料タンクモジュール構成部品

燃料タンクまわりを中心に高機能な部品開発、環境規制を先取りした製品づくりを推進しています



#### ● ホース・ターボダクト・ブーツ類

制動・エンジン・駆動システムを支えるホース、ブーツ部品などを開発



### 2013年度(連結)

売上高：786億円 売上構成比：11.4%



## 内外装部品

### 2013年度のハイライト

- 新意匠インパネモジュールの開発・量産
- 透明グリルの開発・量産

競争が激化する国内外の自動車市場で勝ち残っていくために、ものづくり改革に取り組み、ムダやロスを排除するとともに、材料調達から製品までのリードタイムを短縮する生産技術開発に力を注ぎ、企業体質の強化を図っています。海外生産においては生産拠点の増強を図り、また生産技術開発を海外生産拠点へ展開していくことで、グローバルでの競争力にも一層の磨きをかけていきます。

2013年度は、新意匠インパネモジュールの生産を開始しました。また、2色成形技術を活かしたアクリル透明ラジエータグリルの生産を開始しています。さらにミリ波レーダ対応エンブレムでは国内のみならず海外メーカーへも拡販を進めています。



インストルメントパネル  
新規デザインを用いたインパネモジュール



コンソールボックス  
リッドが前後にスライドし、開閉時の操作性を向上



LEDマップランプユニット



ラジエータグリル  
2色成形技術を活かしたアクリル透明ラジエータグリル

### 2013年度(連結)

売上高：2,130億円 売上構成比：30.9%



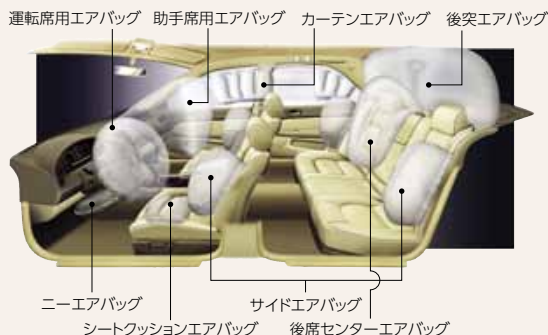
## セーフティシステム製品

### 2013年度のハイライト

- インドネシアにおけるセーフティシステム製品の生産能力増強

運転席用エアバッグの他に、新開発の軽量・小型な助手席用エアバッグ、サイドエアバッグ、カーテンエアバッグ、ニーエアバッグをグローバルで量産化。また、車内乗員だけでなく歩行者保護装置として、ボンネット後部を瞬時に持ち上げ、歩行者頭部とボンネット下のエンジンなどとの衝撃を緩和するポップアップフードアクチュエータを量産しています。

今後は次世代製品として、多様な衝突形態に対応し、さらに乗員保護性能を高めた高性能エアバッグの開発に取り組むとともに、これまでの衝突安全に加え、予防安全との融合技術開発も積極的に展開していきます。開発の領域では、車内乗員の安全から歩行者の安全へと拡大させ、歩行者保護エアバッグの開発を推進しています。また、設計・生産技術革新による低コスト化を実現し、エアバッグの普及が望まれる中国、インド、ASEAN、ブラジルなどの新興国市場への対応にも力を入れています。2013年度は、ASEAN諸国での自動車安全性評価テスト導入によるエアバッグ需要の高まりに対応し、インドネシア工場を拡張するとともに、生産設備を新たに導入し、生産能力の増強に着手しました。



歩行者保護エアバッグ(開発中)  
前面衝突時に展開し、歩行者を保護するエアバッグ



ポップアップフードアクチュエータ  
歩行者頭部保護装置

### 2013年度(連結)

売上高：1,987億円 売上構成比：28.8%



## オプトエレクトロニクス製品

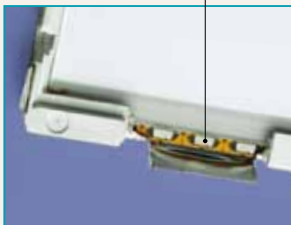
### 2013年度のハイライト

#### ■ タブレット型パソコン用LEDを事業のコアに、照明用LEDを第2の柱として事業拡大

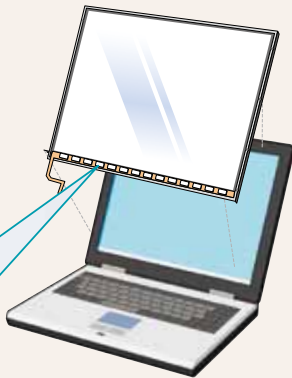
世界トップクラスの明るさ、低消費電力の白色LEDを軸にラインアップしています。ハイエンドノートパソコン、タブレット型パソコン市場をコアビジネスに、照明用LED市場を第2の柱と位置づけ事業展開しています。当社製LEDの高光度・高効率技術は、市場で評価いただいております。今後も、これらの技術と、より優れたコストパフォーマンスを有するLEDチップ、パッケージを開発・供給し、事業の拡大を目指します。



PC用白色LED/パッケージ



ノートパソコン用バックライト光源



照明用白色LED/パッケージ



LED蛍光灯

### 2013年度(連結)

売上高：520億円

売上構成比：7.6%



## 特機製品

### 2013年度のハイライト

#### ■ 特機主要製品「空気清浄機」の受注拡大

国内では、2013年度に新方式による除加湿空気清浄機の生産立ち上げと、加湿空気清浄機の新規受注により売上拡大を図るとともに、2014年度モデルも継続受注し売上は拡大の予定です。その他、自動車技術を活かした建設機械用部品、防振技術を応用した住宅用部材、当社LEDを使用した懐中電灯などの製品や社内開発部門とのコラボレーションにより新たな分野での製品開発にも挑戦しています。

また、中国子会社で生産している携帯電話筐体については、2013年度に続きスマートフォン向けグローバル機種2機種を受注し、ムダのない効率的な生産立ち上げに取り組んでいます。



携帯電話筐体



空気清浄機



ワイヤー充電式LED懐中電灯

### 2013年度(連結)

売上高：173億円

売上構成比：2.5%

# コーポレートガバナンス

健全経営と組織の効率化を図り、  
環境変化に即応できる企業体制を構築しています。

## 迅速かつ効率的、健全な企業経営の実現のために

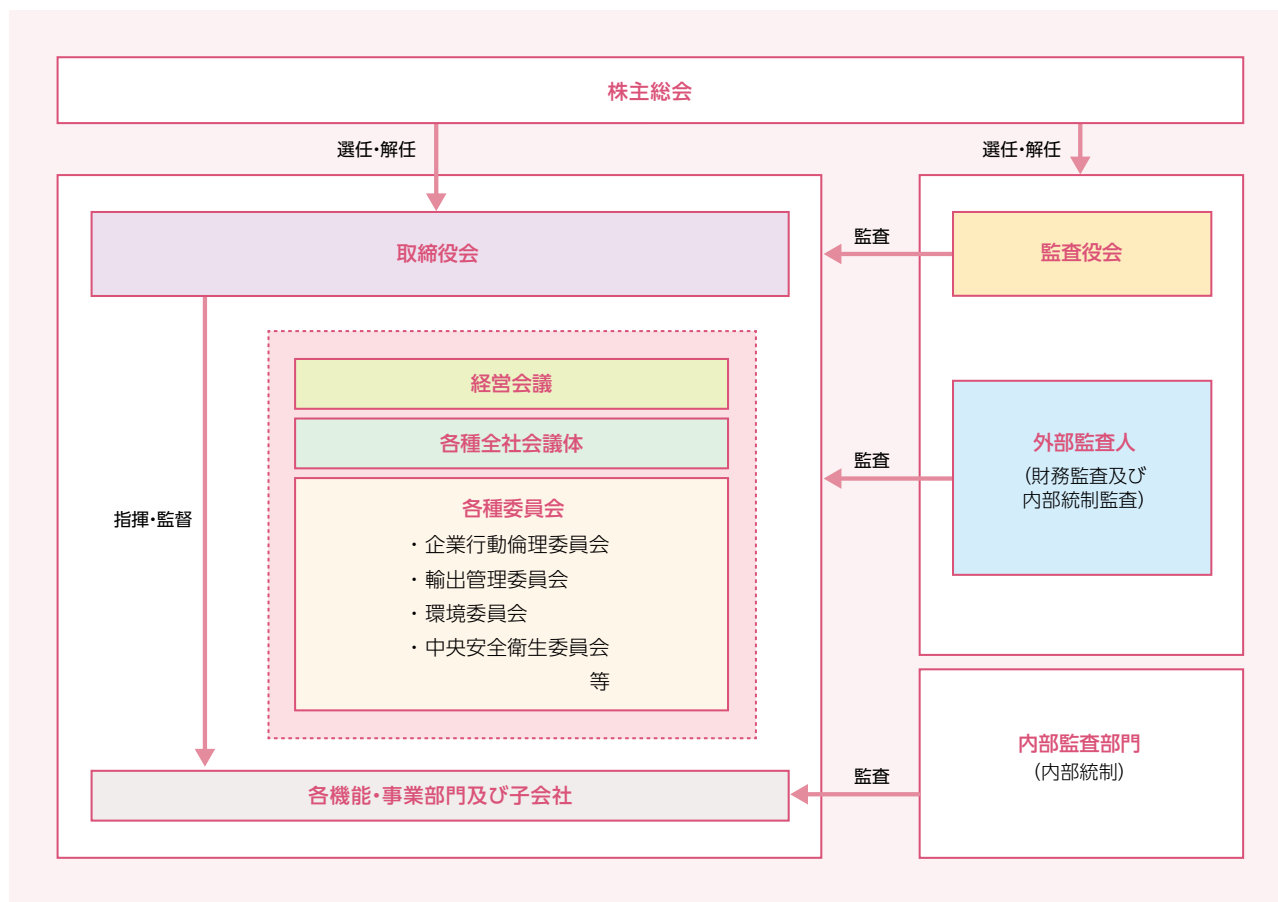
当社は、効率的で健全な企業経営を目指したコーポレートガバナンスの充実・強化を行い、株主価値の安定的向上を経営の最重要課題としています。そのため、株主の皆様やお客様をはじめとする全てのステークホルダーの期待に応えられるよう、環境変化に迅速かつ的確に対応できる組織体制と、公正で透明性のある健全な経営システムを構築し維持しています。

具体的には、株主総会、取締役会、監査役会などの法定の機関を設置すると同時に、会計監査人が公正に監査できる環境を整備しています。経営環境の変化に対応した機動的な経営体制の構築、ならびに経営責任の一層の明確化を図るために、取締役の任期は1年とし、執行役員制度を導入することによって、業務執行と経営監督を分離しています。また各種会議体・委員会を

設置することにより、重要事項の審議・決定、業務執行のチェックができる体制を整えるとともに、内部監査機能の充実を図ることによって、適正かつ効率的な事業運営を目的とした内部統制システムを整備しています。

グループの健全な内部統制環境の醸成を図るために、グループ各社と「経営理念」を共有するとともに、共通の「行動憲章」を定め、展開しています。また、子会社の経営の自主性を尊重しつつ、定期的に事業報告を受けるとともに、事前報告、承認制度を通じて子会社の業務の適正性と適法性を確認しています。さらに、重要な子会社には非常勤取締役、監査役を派遣することで子会社の業務執行を、監視・牽制しています。

## ■コーポレートガバナンス体制図





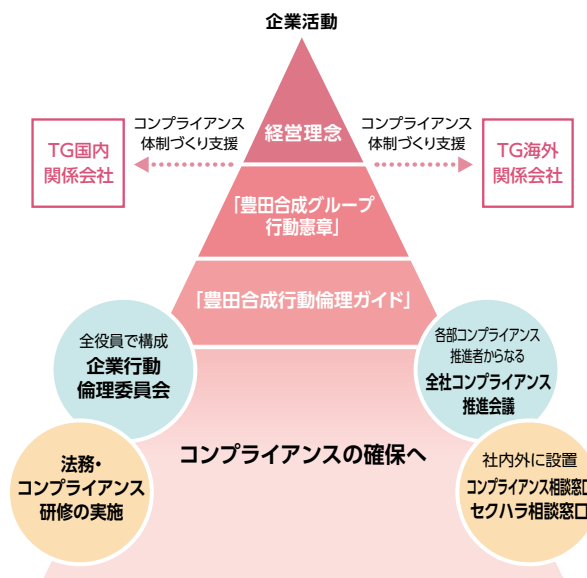
# コンプライアンス

良き企業市民を目指し、コンプライアンスの確立のための取り組みを進めています。

## 豊田合成グループとしてコンプライアンスを徹底

当社では、法令遵守はもちろんのこと、企業倫理の観点からも従業員一人ひとりが高い倫理観を身につけて行動できるよう、コンプライアンスの徹底を図っています。1997年に、社長を委員長とし全役員がメンバーとなる「企業行動倫理委員会」を組織し、2009年には部内への情報展開が主な役割であった法務連絡者に代わり、各部門のコンプライアンス活動において、自ら主導するコンプライアンス推進者を各部門に設置するなど、経営と現場が一体となってコンプライアンスの徹底にあたっています。また、従業員が日常の事業活動でコンプライアンス面での問題に直面した場合のために、社内外にコンプライアンス相談窓口を設け、問題の早期解決にあたっています。一方、コンプライアンス面での行動の指針として、豊田合成グループ共通の価値観と行動規範を定めた「豊田合成グループ行動憲章」を制定し、当社も含めた国内外グループ各社でこれを具体化した行動指針をそれぞれ策定しています。当社では「豊田合成行動倫理ガイド」を策定し、全従業員に配布しています。

## コンプライアンスへの取り組み



## ◆ コンプライアンスの浸透を図るための継続的な啓発活動

当社は全従業員にコンプライアンスの浸透を図るため、様々な啓発活動を継続的に実施しています。階層別・リスク別従業員研修を定期的に行うとともに、マンガ形式で事例を紹介する「コンプライアンス塾」の社内報掲載、裁判例などを深掘りして解説する「コンプライアンス通信」の社内掲示板配信など、各種啓発ツールを用いた従業員に対する意識付けに力を注いでいます。また、全社各部門がそれぞれ抱える潜在リスクを洗い出し、発生防止策を考えて実行する「課題解決活動」を継続。従業員が自部門の抱えるリスクを認識し、自ら予防できるよう全社レベルでのコンプライアンス活動を推進しています。

こういった活動によるコンプライアンスへの理解度を確認するため、毎年、全従業員を対象にコンプライアンス定着度アンケート

を実施しており、2013年度は11月を「コンプライアンス月間」と定め、結果のフィードバックと不具合点の改善活動を行いました。また、当該コンプライアンス月間には各階層へのコンプライアンス研修も集中的に実施しました。

## ■ 主な研修

研修名	回数	受講者数
新入社員研修	2回	48名
新任管理職研修	1回	51名
指名者法務研修(中堅社員向け)	5回	256名
営業部門独禁法研修	7回	124名
個別部門向けの研修	3回	142名

## ◆ 国内外関係会社の体制強化

国内外関係会社が、豊田合成の会社方針に基づいた自律的なコンプライアンス活動に取り組めるよう積極的なサポートを行っています。

2013年度は、国内関係会社を対象にコンプライアンス連絡会を開催し、様々なサポートと情報共有を行いました。特に、新規設立会社に対してはコンプライアンス体制整備の支援を行

いました。海外関係会社に対しては、全海外関係会社のトップが一堂に会する場として2013年9月に開催された「グローバルサミット」において独禁法遵守や贈収賄防止について徹底を図り、豊田合成グループ全体としてコンプライアンス体制の強化に努めました。

# リスクマネジメント

従業員研修や製品の品質保証活動によるリスク管理にとどまらず、情報セキュリティ対策や災害対策も進めています。

## 大規模地震を想定した対策を強化・充実

当社は、経営や事業を脅かす企業リスクに対応できるよう、リスクマネジメントを行っています。2011年に発生した東日本大震災

を機に、2012年1月に発足した「危機管理統括プロジェクト」を中心に、大規模地震を想定した対策の強化・充実を図っています。

### ◆ 危機管理統括プロジェクトによる取り組み

2012年度に発足した危機管理統括プロジェクトでは、初動対応のさらなる整備・充実、速やかな生産復旧に向けた復旧対応手順の明確化の2つを柱に、危機管理の充実による有事対応力の強化を進めています。2013年度は、各拠点に配備したMCA無線<sup>\*1</sup>、衛星電話、タブレット型パソコンを用いた通信訓練、安否情報システム運用訓練に加え、出退勤・出張データを毎時取り込んだフォローアップシステムの運用開始などを行いました。また机上訓練による生産復旧のためのフロー図の作成や行動手順の明確化を行う一方、代替生産場所の事前選定、被

災に備えた情報システムのバックアップ、ネットワーク環境の見直しを行い、DR<sup>\*2</sup>、DC<sup>\*3</sup>の運用を段階的に開始しました。さらに体験型模擬訓練（レジリエント訓練）を4回行い、次々と発生する予期せぬ出来事に対応する実践力の強化を図りました。今後も各拠点・部門との連携を強化し、初動対策・生産復旧・設計機能復旧への対応力の充実を図る考えです。

※1 MCA無線：日常の業務から緊急・災害時まで様々な用途で使用される無線

※2 DR：Disaster Recovery（被害を受けたシステムを復旧・修復する体制）

※3 DC：Data Center（コンピュータやデータ通信などの装置を設置・運用することに特化した施設の総称）

### ◆ 災害時の初動対応と復旧への早期対応

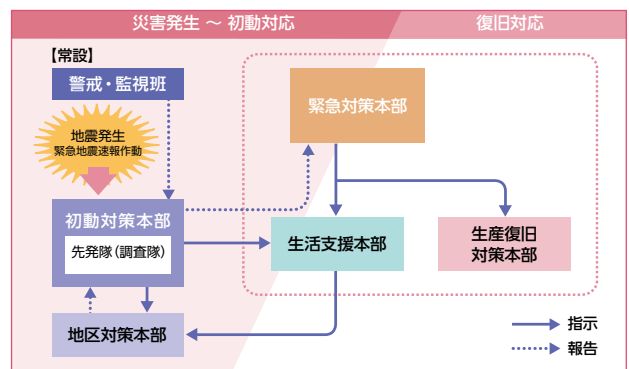
当社は「人命第一」と「早期復旧」を基本に建物・設備の耐震対策を行っています。2013年度は、各種災害対応マニュアルに基づく定期訓練を継続的に実施したほか、「地震速報システム」や、「安否情報システム（社員と家族の安否を確認）」の運用訓練のレベルアップを図りました。このほか代替設備の所在、従業員の技能特性など早期復旧に必要なデータベースを構築し、定期的なメンテナンスを実施。さらに、前述の初動対策本部室へ緊急対応用のサーバを設置し、各種情報が使用できる体制を整えています。

2011年の東日本大震災では、人的被害や生産及び品質に大きな影響はありませんでしたが、今後も危機管理意識を持って、一層の体制整備を図っていきます。

### ◆ 情報セキュリティ対策の強化と意識向上

当社は、機密管理を強化するために情報管理の徹底を図っています。2013年度も引き続き、当社の機密管理規程に基づき、全部門において年1回の遵守状況を点検するとともに、該当部門の現地監査を実施しています。国内関係会社、海外統括会社及び中国全拠点（2013年度から新規）は自主点検を実施しています。また、情報システムセキュリティ運用標準を公布するとともに、「機密情報管理のてびき」を発行しており、このてびきを活用して、新入社員教育（中途採用者含む）や各部門の機密保持責任者を通じ、全社員の機密管理教育を実施しています。このてびきについては必要に応じて内容の改訂を行っています。また、セキュリティニュースを随時発行するなど、さらなるセキュリティ強化と従業員の意識向上を図っています。

### ■ 災害対応イメージ



### ■ 対策強化例

	区分	実施事項
過失による漏洩防止	ハード	● デジタル複合機・図面専用印刷機の社員IDカード認証による放置印刷持ち出し防止
	ソフト	● 全パソコンのデータ暗号化 ● 電子メールのセキュリティ強化（上司CCの義務化）
悪意による不正漏洩防止	ハード	● 持出点検（点検2回/月） ● 監視カメラの増強 ● パソコン固定ワイヤー設置 ・ ノートパソコン ・ デスクトップパソコン ・ 外付け HDD
	ソフト	● ファイルサーバのアクセス権の制限強化 ● 持出制限・牽制機能強化 ● システム利用記録、アクセス記録取得監視 ● 不正接続防止（本館・ISセンター・技術センター）
モラル対策		● 機密管理規程の見直し ● 機密管理の社内啓蒙 ● 各部門に対する現地点検

# お客様との関わり

「お客様第一」「品質第一」を念頭に、魅力ある商品とサービスを提供しています。

## 開発から生産まで一貫した品質保証体制

当社は、「世界のお客様にうれしさをお届けし選ばれる真のグローバルシステムサプライヤー」を目指しています。品質保証については、品質基本方針のもと、開発から生産にいたるまで一貫した品質保証体制で事業活動を推進しています。具体的には、品質マネジメントシステムの国際規格であるISO9001\*1とISO/TS16949\*2の認証を全事業所で取得しています。また、TQM\*3の基本理念に基づき、事業所ごとに品質目標を立て、魅力ある製品づくりに取り組んでいます。さらに、2010年度より国内・海外全拠点で製品の品質を同一にするため、品質向上のノウハウやルールを盛り込んだ「品質システムグローバルスタンダード」を発行し、現地スタッフにも理解できる「品質バイブ

ル」として全拠点に展開を図っています。

\*1 ISO9001 認証取得:JQA-QM7318,QMA11826/12256/12238/13130/12841

\*2 ISO/TS16949 認証取得:JQA-AU0094/0091/0160/0124

\*3 TQM: Total Quality Management の略でモノ・サービスはもちろん、経営品質の向上のために「お客様第一」を基本に「絶えまない改善」と「全員参加」による「品質・仕事の質」「人と組織の活力」を高める活動

### 品質基本方針

「品質至上」、「後工程はお客様」の考えを全員が認識し「相互に連携」して、顧客の信頼と満足を得る良い製品及びサービスを提供する。

## TQM活動による企業体質の強化

豊田合成グループは「お客様第一」を念頭に、トップからスタッフ・ライン職の第一線まで全従業員がそれぞれの立場で絶え間ない改善を行い、「品質・仕事の質」や「人と組織の活力」を向上させるTQM活動を推進しています。

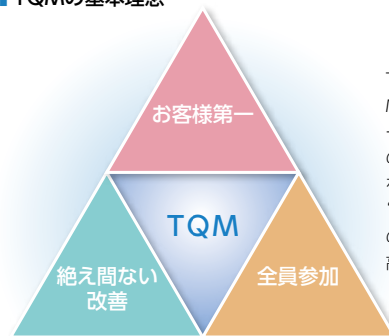
2013年度は小集団活動(QCサークル)のグローバル展開の第一歩として、日本での小集団活動(QCサークル)発表大会にタイとインドの拠点から優秀事例を招待し、取り組み者本人による発表を行いました。

今後は、小集団活動(QCサークル)をベースにグローバルにTQM活動を展開し、豊田合成グループ全体の企業体質の強化を進めていきます。



小集団活動(QCサークル)発表大会

### TQMの基本理念



TQMとは、Total Quality Managementの略でモノ・サービスはもちろん、経営品質の向上のために“お客様第一”を基本に“絶え間ない改善”と“全員参加”による「品質・仕事の質」や「人と組織の活力」を高める活動

### 豊田合成におけるTQM活動

階層	実施事項
管理職	職場マネジメント改善
スタッフ職	小集団活動(グループ改善) SQC/QE実践力向上(技術系) SQC: Statistical Quality Control(統計的品質管理) QE: Quality Engineering(品質工学)
ライン職	小集団活動(QCサークル)

## お客様ニーズに即した営業活動

営業部門は、当社の第一線に立ち、グローバルで多様なお客様の要望にお応えすべく、技術や調達のキーマンから開発情報やニーズに耳をかたむけ、販売促進につなげる役割を担います。お客様との良好な関係を育みながら、お客様が必要としている

事柄や抱えている問題点など様々な情報を収集し、解析します。その内容を社内関係部署との連携により多様なお客様のニーズに対応した、独自提案をプレゼンテーションするなどしてお客様との信頼関係を構築しています。

## 製造工程や市場品質の監視と対策推進

自動車の基本機能にかかわる保安部品の製造工程に対しては、自工程完結を進めるとともに、当社起因の重要な品質不具合を絶対発生させないようにするため、自動化による“不良をつくれぬ・流さない「工程づくり」”、そして、品質の感性を高め、“ミスをしなない「人づくり」”の両軸で活動しています。さらに、国内・海外の全工程で専任監査員による監査・改良活動を実施しています。このほかにも、これまで国内で取り組んできた品質安心宣言活動を、海外拠点においても拠点長主導で推進し、世界の顧客から“品質の豊田合成”と評価されるようグローバルで活動に取り組んでいます。

また、市場において品質問題が発生した場合は、自動車メーカーを通じて情報が伝達され、速やかに社内関係部署に伝達、回収した不具合品の解析などにより迅速な原因調査、処置対応と再発防止策を講じる体制を確立しています。自社のみで原因究明、解決が困難な場合、自動車メーカーの品質部門と一体になり、テスト車両による検証などを行い、より迅速かつ的確な再発防止と次製品への未然防止に努めています。



市場での信頼性向上活動

### VOICE

品質保証部  
山下 博喜



当社では、“品質の感性を高めミスをしなない「人づくり」”及び“不良をつくれぬ・流さない「工程づくり」”を両輪とした「品質安心宣言活動」に2012年より取り組んでいます。具体的には、現場の係長が主体となって「人・工程づくり」を進めて、社長が全ての現場でその工程を確認していきました。また、優れた活動は全社に水平展開し実行していきました。その結果、品質に対する意識がさらに向上して改善活動に拍車がかかり、2013年までに全係で「安心宣言」が完了しました。今後もこの活動を継続、発展させ、お客様に安心していただけるよう努力してまいります。

## 優秀サプライヤーとしてお客様から表彰

当社の製品は、世界各国の自動車メーカーなどに納入され、その基本性能を支えています。各メーカーでは、毎年優秀なサプ

ライヤーを表彰しており、当社は多数の納入先から表彰を受けています。

### 2013年度 品質に関する受賞

表彰名	受賞会社	表彰元
Excellent Award-Quality Performance	TGオートモーティブシーリングメキシコ株式会社	Toyota Engineering & Manufacturing North America
Supplier Excellence 2013	TGミズーリ株式会社	Yamaha Motor Corporation, USA.
Achievement in Quality Management	豊田合成南アフリカ株式会社	Toyota South Africa Motors(Pty) Ltd.
最佳品質賞	天津豊田合成有限公司	重慶長安鈴木汽車有限公司
市場5年半減達成賞	豊裕株式会社(豊裕股份有限公司)	國瑞汽車股份有限公司
Quality	TGキルロスカオートモーティブ株式会社	Toyota Kirloskar Motor Private Ltd.
In Recognition of the outstanding Performance and Support	株式会社豊田合成セーフティシステムズインドネシア	PT. Hino Motors Manufacturing Indonesia
Zero PPM Quality Achievement	株式会社豊田合成セーフティシステムズインドネシア	Krama Yudha Tiga Berlian Motors

## TOPICS 上海モーターショー2013

### 中国での「顧客との繋がり強化」と「知名度向上」をねらい初出展

2013年4月20日から29日に、最大市場である中国の上海国際博覧センターで開催された「上海モーターショー」に、売り上げ・知名度向上をねらい、初出展しました。上海モーターショーは、世界中から約2,000社の自動車・部品メーカーが出展し、80万人以上が来場する大規模なモーターショーです。

当社はゴム・樹脂を主体とした高分子分野のグローバルサプライヤーとして、「世界のお客様にうれしさをお届けする豊田合成」をテーマに、環境・安全・快適に貢献する製品を中心に紹介しました。会期中は一般の来場者とともに、顧客(日系、民族系)VIPから管理者層まで、数多くご来場いただき、当社の技術力や事業内容を幅広く理解していただくことができました。



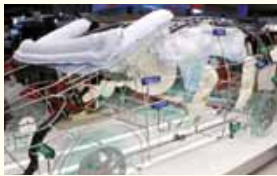
## 東京モーターショー2013に出展

2013年11月23日から12月1日まで、東京ビッグサイトで開催された「東京モーターショー」に出展しました。

当社は、「ONE TEAM, ONE TG. ゴム・樹脂の高分子技術で、安全・快適で環境に優しいクルマづくりに貢献」をテーマに、各種エアバッグなどを搭載した「安全・環境ワイヤーモックデモカー」や、体験型の「エアバッグ体験シミュレータ」、めっき・塗装などの加飾技術を用いた「高意匠ラジエータグリル」などを展示しました。当社ブースは自動車メーカーのブースに近いという立地の良さもあり、連日、多くの方にご来場いただきました。また、社長によるプレスブリーフィングを実施し、その模様を国内外のメディアにネット配信するなど、情報発信の強化に取り組んだ結果、幅広いお客様に当社をPRすることができました。



### 安全



#### 360度フルカバーエアバッグ

ワイヤーモックに、各種乗員・歩行者用保護エアバッグやポップアップフードアクチュエータを搭載。



#### ミリ波レーダ対応エンブレム

ミリ波レーダを透過する専用エンブレム。加飾技術を駆使し、デザイン性にも優れる。



#### エアバッグ体験シミュレータ

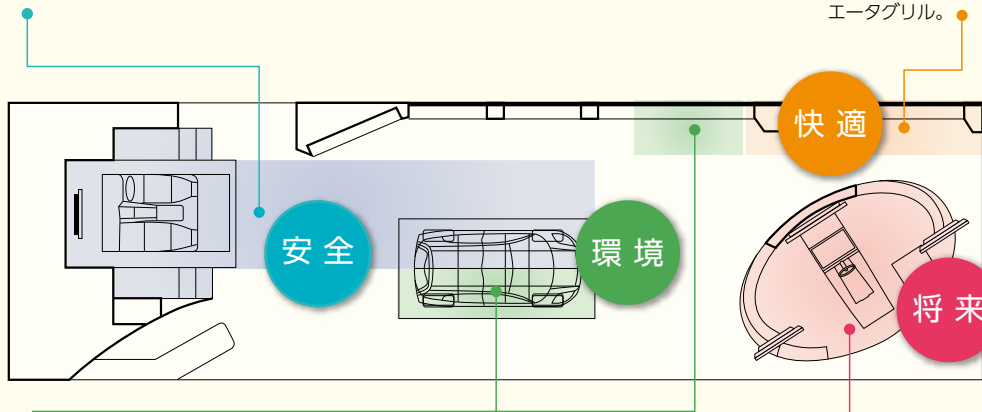
エアバッグの展開状況が疑似体験できるシミュレータ。常に人だかりができ、大変好評でした。

### 快適



#### 高意匠大型ラジエータグリル

樹脂成型技術やめっきなどの加飾技術を駆使し、ユーザーの多様なデザイン嗜好に対応した大型ラジエータグリル。



### 環境



#### ドアウェザーストリップ、オープントリム、ガラスラン

工法(ゴムの発泡成形)や材料の見直しにより、軽量化を実現した各種ウェザーストリップ。



#### 樹脂フューエルフィラーパイプ

金属からの樹脂化により、1kg以上の軽量化を実現。

### 将来



#### インタラクティブスマートハンドル

人とクルマの重要な接点であるハンドルに、より「安全・便利・快適」な機能を搭載したコンセプトモデルを参考出品。



# 従業員との関わり

「人間性の尊重」と「安全最優先」を基本として、健康で安心して働ける職場づくりを目指しています。

## 自分で考え行動するグローバル人材を育成

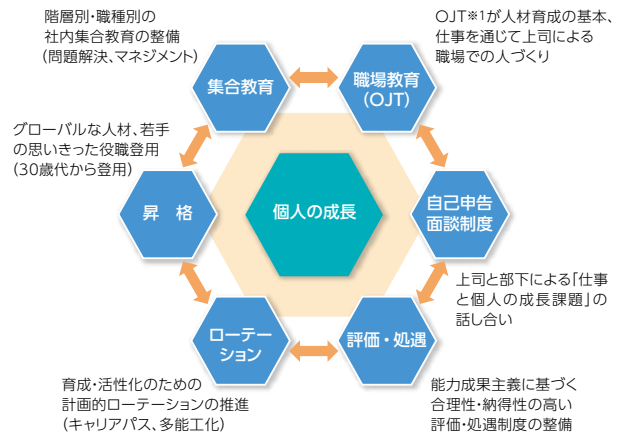
当社では、「グローバルでの人材育成とオール豊田合成の総合力発揮」をビジョンに据え、全従業員がお互いを尊重し、能力を高め合うことで、さらなる職場力の向上と従業員のやりがいの追求を目指しています。

グローバルで戦うための人材育成として若手社員を対象とした語学教育に力を入れるとともに、海外拠点でナショナルスタッフとともに働くなどの1年間の海外実務研修(育成出向制度)を通じて、将来グローバルで活躍できる人材を計画的に育成しています。

### ■人材育成の柱

- 高い専門性と広い視野を併せ持ったプロ人材の育成
- グローバルに多様な人材を登用して地域課題への対応を強化
- 地域・事業を越えた人的資源の相互補完とチームワークの発揮

### ■人事諸制度



※1 OJT: On the Job Training (実地研修)

## ◆教育プログラムを充実し人材育成を活性化

当社はグローバル化に対応でき、課題形成・解決能力の高い人材の育成を図るために、教育プログラムの充実に力を注いでいます。

2012年度からは、QC的な仕事の進め方が実践できる人材育成に積極的に取り組んでいます。早い時期から問題解決アプローチができるようになるため、若手社員向けの問題解決基礎教育を入社5~6年から3年次に研修時期を早めました。特に職場の上司が部下のOJTをしっかり指導できるように、自らの業務の問題解決の実践場面で上司を関与させる仕組みづくりを行いました。

一方で、新入社員や若手社員を対象にした語学研修にも力を入れています。新入社員は内定から入社までの間、英語eラーニングを自己啓発として実施、入社後はネイティブ講師による集中研修で英語学習へのモチベーションを高めるほか、若い年代からグローバル人材としての育成に取り組んでいます。

2011年度にスタートした20代、30代の従業員への「若手社員語学力育成プログラム」もさらにコンテンツの充実を図り、2013年度は延べ280名が業務に直結する英語スキルを学びました。なお、当社では人材育成を継続的に活性化させるため、

2009年度から専門教育を除き、外部講師から社内講師に変更しています。経験豊富な従業員が現場で培った知識やスキルを伝えることによって、実務に即した知識や技能を習得できるようになりました。今後も教育プログラムのブラッシュアップを図り、人材育成を推進します。

若手社員語学力  
育成プログラム受講者  
延べ280名

### ■教育体系

階層	階層別教育	基礎専門教育	海外関係教育
室長・次長	室長・次長マネジメント研修	技術者教育体系 技能系教育体系	出向者現地スタッフ教育 語学教育
GL・課長	GL・課長マネジメント研修 GL方針展開研修		
T L	TLマネジメント研修		
係長	係長マネジメント研修		
一般	4級問題解決フォロー研修 入社3年次研修 中堅リーダー養成プログラム		
新入社員	新入社員教育 新入社員英語研修		

## ◆グローバル人材育成

世界の国々で事業を行っていくためには「地域に根ざした豊田合成」として、当該国・地域の経済・社会への貢献が必要であり、海外関係会社の現地化が欠かせません。そこで当社は経営の現地化を図るため、ナショナルスタッフも一体となったグローバル人材の育成を推進しています。2013年度は北米・欧州・豪亜の幹部人材11名を対象にした「グローバル・エグゼクティブ・セミナー」、中国における将来の部長候補17名を対象にした「ミ

ドル・マネジメント研修」を実施。また、海外拠点から当社に人材を赴任させて実務研修を行う「逆出向 (ICT: Intra Company Transferee) 企業内転勤」もスタートさせました。現在、インドから1名、中国



グローバル・エグゼクティブ・セミナー

から1名、タイから2名が出向しており、今後はこれをさらに拡大していきます。このほか(財)海外産業人材育成協会(HIDA)からタイ、ベトナムのナショナルスタッフ10名を受け入れ、1カ月から6カ月の実地研修を実施するなどの取り組みを進めています。

グローバル人材  
育成研修参加者

42名

#### ■グローバル人材育成研修

研修名	参加国数	参加者数
グローバル・エグゼクティブ・セミナー	9カ国	11名
ミドル・マネジメント研修	1カ国(中国)	17名
HIDA	2カ国	10名
ICT	3カ国	4名

### 人材の雇用

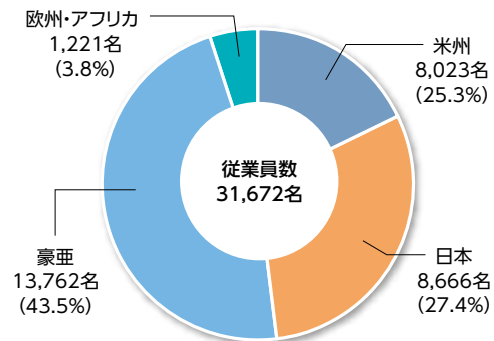
当社では、雇用の安定を図るとともに、従業員が働きやすい環境や制度を整備し、多様性を尊重した公正で公平な採用・育成を図っています。

#### ■従業員の構成(単独)

	2012年度			2013年度		
	男性	女性	計	男性	女性	計
従業員	6,068名	695名	*6,763名	5,975名	688名	*6,663名
平均年齢	41.4歳	36.4歳	40.9歳	42.0歳	37.1歳	41.5歳
平均勤続年数	17.4年	11.9年	16.8年	18.0年	12.7年	17.5年

\*従業員合計は出向者445名を含まない

#### ■所在地別従業員数(連結)※2013年度



### 職場マネジメントアンケートの実施

当社は従業員の仕事への意欲や上司・職場に対する考えを調査する「職場マネジメントアンケート」を年1回実施しています。これは職場における問題点を把握して風土向上や人材育成に活用することを目的にしたものです。この結果に基づき各部署が

弱点項目を計画的に改善する取り組みを進めています。また、改善が促進されるように社内外のよい取り組み事例を紹介するとともに、課題が多い部署への個別サポートも実施しています。

### 仕事と家庭が両立できる社内支援

従業員一人ひとりが「ワーク」と「ライフ」のバランスを考え、自主性を重んじながら自分の働き方を選択できるような制度の充実を図り、より一層の安心感と意欲を持って就労できるよう支援しています。2013年度も、育児・介護関連では従業員ニーズに応え「育児デー」「働くママ交流会」「TGファミリーデー」「祝日社内託児」を実施しました。中でも介護支援については、「介護支援セミナー」の開催や「介護支援ガイドブック」を配布するなど、介護両立支援を強化しました。また、支援制度などが利用し

やすい職場環境づくりのための啓発活動も行ってきました。今後も継続的な支援を実施するとともに、より充実した施策を展開していきたいと考えています。

2011年4月に策定した行動計画が、ワークライフバランスの考えに基づき次世代育成支援に積極的に取り組む企業として、2012年7月に厚生労働省より2度目の認定を受けました。現在策定した行動計画に基づき職場理解活動を中心に、さらなる取り組みを推進しています。



TGファミリーデー  
(従業員家族による会社見学会)



祝日託児所



次世代認証マーク：くろみん



介護支援ガイドブック

## ダイバーシティ※の推進

当社は、多様な個性を活かし、個人の能力が十分に発揮できる風土の醸成に取り組んでいます。また、定年退職者や障がい者に対

して、雇用を促進し、安心して働ける制度を確立しています。

※ダイバーシティ：多様性を意味し、人種・国籍・性別・年齢を問わずに人材を活用すること

### ◆ 多様な人材育成を推進

2010年度以降、多様な人材の活躍の場の促進に向け、「ダイバーシティ」を推進する専任組織を発足させ、特に女性が活躍する職場の促進に取り組んでいます。管理職を中心に、女性従業員に対する意識や行動の改革を強化し、会社の方針やダイバーシティの意義など意識づけを徹底する研修を実施し、女性従業員に対しても、働き方や将来的な志向を考察・啓発するための場を提供しています。女性従業員とその上司を対象に実態調査を実施し、女性従業員の仕事に対する考え方、上司の部下育成方法や登用に対する考え方、能力評価、昇給昇格スピードなどを調査しました。洗い出された現状の課題に基づき、女性従業員の活躍における3カ年育成計画を立て、2013年度は当社初となる「TG 女性のためのキャリ

アデザインフォーラム」を開催しました。今後も職場開発など具体的な取り組みを行ってまいります。

.....  
TG 女性のための  
キャリアデザイン  
フォーラム開催  
.....



女性活躍推進に向けた管理職研修



TG 女性のためのキャリアデザインフォーラム

### ◆ 障がい者が働きがいを持ち、定着できる職場づくり

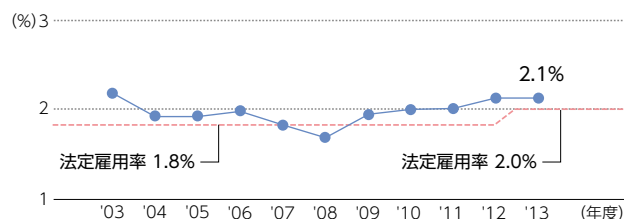
当社は障がい者雇用に積極的に取り組んでいます。2013年度は、法定雇用率2.0%以上を雇用目標とし、109名の障がい者を雇用（2014年2月1日現在）、雇用率は目標を超える2.1%に達しました。

「障がい者雇用推進委員会」を主体に、採用から配属・教育、定着、啓発の各活動を推進。特に定着に重点を置き、定期面談などを通して現状把握、職場環境の改善を図っています。障がいがある人が適応できる仕事の開拓を行い、採用から配属までを計画的に実施する体制を整備していま

.....  
障がい者雇用率  
**2.1%**  
.....

す。また、豊田合成グループとして特例子会社のTGウェルフェアとともに、さらなる障がい者雇用促進に向けた取り組みを進めていきます。

#### ■ 障がい者雇用率の推移

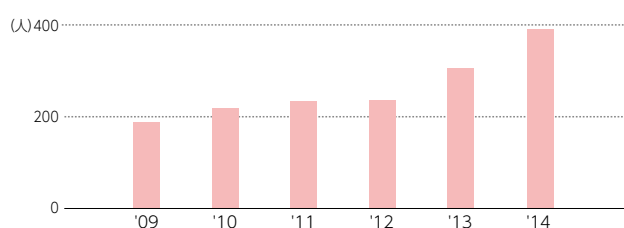


### ◆ 定年後も安心して働ける制度を構築

2006年4月より「定年後再雇用制度」を設け、定年後でも安心して働ける制度を構築しています。

また、定年後のワークライフバランスを促進し、多様な働き方を実現するため、2013年度より短日、短時間勤務を拡充しました。

#### ■ 定年後再雇用者の推移 (累計)



#### VOICE

人材開発部  
高木 暁仁



当社では、ダイバーシティの推進において、国籍や性別・年齢などにとらわれず、多様な思考・価値観などの個性を受け入れることで、変化し続けるビジネス環境やニーズに対応し、企業と個人の成長・幸せにつなげていこうという考え方で取り組んでいます。

2013年度、女性活躍推進の分野で、自分の将来を本気で考え、将来のありたい姿に向け踏み出すためのきっかけ作りや、社内外の女性との交流から色んな気づきを得ることを目的に、当社初となる「TG 女性のためのキャリアデザインフォーラム」を開催しました。

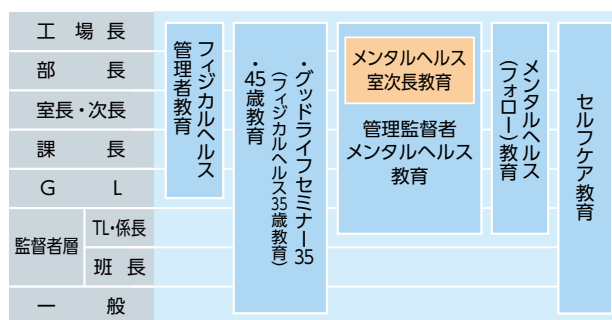
今後も、一人ひとりの個性を活かし、従業員がイキイキと働き続けられる「環境・風土づくり」に取り組んでいきます。



## メンタルとフィジカルの健康維持を図る

従業員の健康管理は、メンタルヘルスとフィジカルヘルスを大きな柱とし、心身の健康維持・増進を図るための様々な施策を実施しています。

### 健康教育体系



### 管理監督者へのメンタルヘルス教育の継続

2013年度は、新任の管理監督者と室・次長から課長・GLまで層を広げ、階層別のメンタルヘルス教育を定期開催し、職場の効率運営と円滑なコミュニケーションを促しました。各事業所で

は、資格を取得した看護師がカウンセリングの充実を図っています。相談者は減少傾向にあり、着実な効果が現れています。

### 健康管理意識の向上

2007年度から35歳の従業員を対象にした「グッドライフセミナー35」を開催し、生活習慣病予防など日常生活における健康管理教育を行っています。

2010年度からは「禁煙プログラム」を開始し、禁煙に挑戦する従業員を支援する活動を推進するとともに、たばこの自動販売機を社内から撤去し、売店でのたばこの販売を中止しました。また、

2011年度より45歳の従業員を対象に開始した食事の摂り方や運動の種類、アルコールとの付き合い方などを指導する実践型教育を継続しています。

感染症対策として、季節性インフルエンザの予防や新型インフルエンザ発生に備えて「手洗い・うがいの徹底」など注意を促しています。

## ゼロ災害を目指して活動を推進

当社は、社長自らが全社総括安全衛生管理者として陣頭指揮をとり、「安全人づくり」と「安全職場づくり」を両輪に、災害「ゼロ」を目指して活動しています。2013年度は、重大・休業災害「ゼロ」を達成しましたが、不休業災害は依然として発生していま

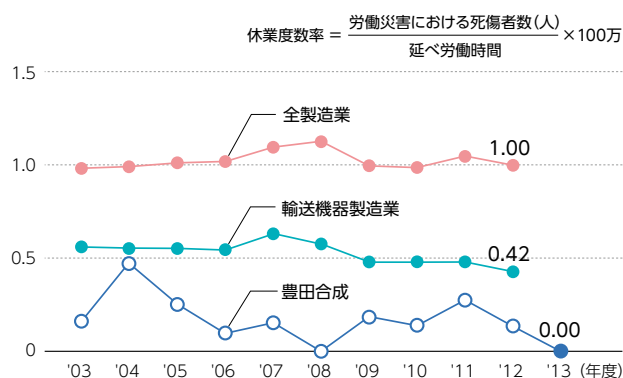
す。今後も過去災害の周知・伝承活動、安全KY道場<sup>※</sup>の活用、安全こだわり活動、各種安全点検などの展開を通じて豊田合成グループ全員が、安全で健康に働くことができる環境づくりを推進していきます。

※ 不安全な事例を紹介した道場

### 2013年度の主な活動

実施事項	
安全人づくり	1 ● 過去災害の再発防止のため、過去災害の周知・伝承活動
	2 ● 安全教育の充実による安全人づくり (1) 管理監督者への安全教育実施 (2) 安全KY道場の構築と活用 (3) 職場単位の安全こだわり活動による安全意識の向上
	3 ● OSHMS運用による安全活動とマネジメント力向上
安全職場づくり	4 ● 重大災害につながる金型・クレーン取回しの安全確保
	5 ● 点検空白域のない工場／拠点全域点検
	6 ● 老化を視点とした点検・対策の実施
	7 ● 外来工事の安全性確保の強化

### 労働災害発生率(休業度数率)の推移



## ◆ 安全KY道場の開設と活用

2013年10月に安全KY\*道場を開設しました。安全KY道場は「危険に対する感受性」と「問題解決能力」を養成し、危険を事前に予測しケガを未然に防ぐ(安全意識・能力の向上)ことをねらいとしています。設置した事例は、過去に発生した災害や日常業務で想定される不安全行為を基にマネキンを用いて立体的に再現したものであり、危険・不具合箇所を見つけ出す訓練を通して社内の安全ルールを学ぶこともできます。

\* KY: Kiken (危険) Yochi (予知)



安全KY道場

### VOICE

安全健康推進部

山本 知世留



私たちは、当社グループで働く全従業員からケガ人を出さず、入社したときの元気な姿で帰宅してもらえるようにOSHMS\*1の運用を柱として様々な活動を展開しています。年々災害発生件数は減少していますが、災害「ゼロ」は達成できていません。また歩行中の災害や不注意による災害が増加傾向にあることから「安全意識・能力の向上」に力を入れています。

今後も豊田合成グループ全体の安全・衛生活動を推進していきます。

\*1 OSHMS: 労働安全衛生マネジメントシステム

## 労働組合との協調を図り、働きやすい職場を創造

労使関係の基本理念である「相互信頼・相互責任」のもとに、会社と労働組合が賃金・職場環境・労働時間などの労働者に関する案件について話し合います。

「中央労使懇談会」「部門労使協議会」などを定期的で開催し、特に「部門労使協議会」では、職場に密着した課題について、部長自らが組合員と直接話し合い、働きやすい職場づくりを目指しています。



中央労使懇談会

# 株主との関わり

企業価値の向上と積極的な情報開示で、  
当社の実績をご理解いただけるよう努めています。

## 業績と利益還元

当期の売上高につきましては、自動車部品事業が自動車生産台数増加や欧米系自動車メーカーへの積極的な拡販に加え、円高修正による為替影響もあり大幅な増収となり、全体では 6,894 億円(前期比 15.0%増)と、過去最高の売上となりました。

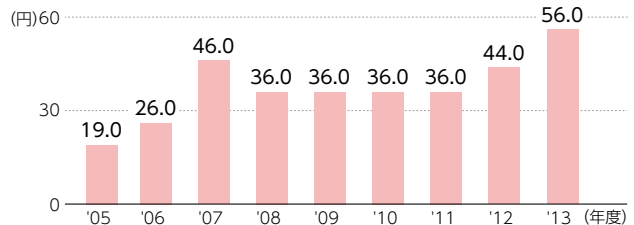
利益につきましても、自動車部品事業の増販効果とグループの総力を挙げた原価低減活動などの合理化効果により、経常利益は 458億円(前期比 24.7%増)、当期純利益は262億円(前期比 22.3%増)となり、いずれの利益も増益を確保することができました。

この結果、1株当りの年間の剰余金の配当は56円とさせていただきました。

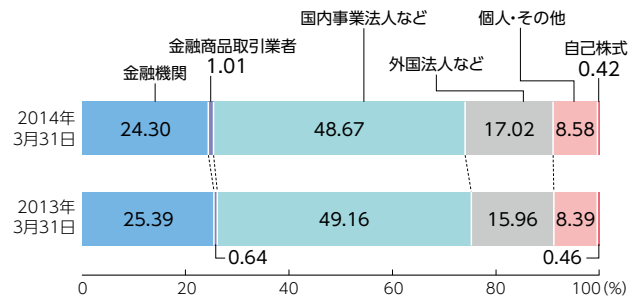


業績のご報告

### 配当金推移



### 株式保有者別分布状況



## 適正な情報開示

当社では、ホームページやIRツール(決算短信、決算説明会資料など)での定期的な情報発信と、決算説明会の開催やIRイベント出展などを推進し、適切な情報開示に努めています。

具体的には、機関投資家や証券アナリストを対象に決算説明会を年2回開催するとともに、ホームページ上でも同説明会の資料や財務情報を適宜公開しています。また、個別面談にも積極

的に対応し、国内外から多くの投資家の皆様に情報を提供しています。また、機関投資家や証券アナリスト向けに個別で工場見学を実施し、当社の技術力をPRしたほか、海外機関投資家を含めたIRイベントにも参加して、開かれた企業として適切な企業価値評価を得られるよう努力しています。

### 主なIR活動

対象者	IR活動
国内機関投資家 証券アナリスト	個別面談、決算説明会、工場見学会
海外機関投資家	個別面談、IRイベントへの参加
個人株主・投資家	株主総会後の工場見学会
	「業績のご報告」発行
	ホームページによる財務・IR情報の発信
	「豊田合成レポート」発行



決算説明会

# サプライヤーとの関わり

当社はサプライヤーとの協力関係を築き、  
ともに発展・成長していきます。

## 調達基本方針

当社の調達基本方針は、「競争力のある製品づくりを進めるために、調達環境変化、顧客及び競合先動向を的確かつスピーディに捉え、コンプライアンスに努め、オープンで公正な取引

により、当社にメリットのある調達基盤を構築することにより、グローバル最適調達を実現する」ことです。また、「当社を支えてくれているのはサプライヤーである」という考えのもと、現地・現物・現実主義で、社内を動かし、仕入先の体質強化策を展開していきます。

## 調達方針説明会を開催

当社を取り巻く環境と目指すべき方向を提示し、その上で年度の調達基本方針をしっかりと理解していただくために、調達方針説明会を毎年4月に行っています。

調達方針説明会には、製品、加工、資材、設備、金型のサプライヤー170社に参加いただき、「当社の課題と今後の取り組み」のほか、今年度の「調達方針」として、安全、品質、量、原価、技術、グローバル展

開、CSRなどを取り上げています。毎年、各分野で功績のあったサプライヤーを表彰し、感謝の意を表し、参加いただいた全てのサプライヤーに一層のレベルアップをお願いしています。



調達方針説明会

## サプライヤーとの連携強化

年4回、サプライヤー約100社に参加いただき、調達連絡会を実施しています。内容は、生産情報の展開や品質の取り組み、コンプライアンス活動、安全活動、地震対策、機密管理、化学物質

管理など、継続テーマについてその内容の充実を図るとともに、人材育成のための当社主催による教育、各種講演会の開催なども行い、サプライヤーとの連携を深めています。

## 品質向上、安全・防火、コンプライアンスなどの取り組み

重要な品質問題を絶対に発生させないための標準作業整備や不良流出防止活動、競争力向上のための原価低減活動に加え、サプライヤーにおける金型や製品設計領域への参画など、ともに発展・成長するための取り組みを展開しています。特に品質面では品質連絡会を定期的に開催し、品質向上のために必要な情

報をサプライヤーと共有しています。また、防火、防災、安全では東日本大震災の被災地訪問やサプライヤー各社間の相互見学などを通じて現地・現物・現認による有事に備えた体制づくりをお願いしています。さらにはサプライヤーの経営面の相談や収益確保のための原価低減活動も積極的に進めています。

## グリーン調達を推進

環境面においては、当社の「グリーン調達ガイドライン(第3版)」を基に、継続的に活動を展開しています。ガイドラインは、「環境マネジメントシステムの構築」、「法令順守と環境パフォーマンスの向上」、「化学物質管理」の3つから構成されています。

「環境マネジメントシステムの構築」、「法令順守と環境パフォーマンスの向上」については、環境負荷低減に向けたサプライヤーの社内の組織、体制面の充実と生産活動のレベルアップを図り、

ISO14001の認証取得、省エネや排出物削減による成果が出ています。「化学物質管理」については、グローバルで増加する化学物質規制に対応するため、「納入品の化学物質の成分把握」を行っています。また、欧州ELV<sup>\*1</sup>規制、欧州REACH規則<sup>\*2</sup>、VOC<sup>\*3</sup>管理などへの対応をサプライヤーと一体となって進めています。

\*1 ELV:End of Life Vehicle(使用済み車両)

\*2 欧州REACH規則:Registration, Evaluation, Authorization and Restriction of Chemicals(化学物質の登録・評価・認可・制限に関する規則)

\*3 VOC:Volatile Organic Compounds(揮発性有機化合物)

## VOICE

調達部  
三浦 ゆき



仕入先関連行事などサプライヤーとの接点が多く、会社の代表である事を忘れずに緊張感を持って業務に関わっています。

調達方針説明会や調達連絡会などの運営を通じたサプライヤーへの情報発信部署としてサプライヤーにとって有益かつ、為になる情報をタイムリーに提供できるよう心がけています。今後もサプライヤーの意見に耳を傾け、サプライヤー目線で情報提供ができるよう努力していきます。

# 地域社会との関わり

地域における良き企業市民として、住民とふれあひながら、住み良い地域社会づくりに取り組んでいます。

## ボランティア活動をさらに拡大

当社は自動車部品メーカーとして交通安全への啓発活動はもちろん、「社会福祉」「環境保全」「青少年育成」「地域防犯」の4つの活動を柱とし、地域の人々とのふれあひを通して、より良い地域社会づくりに取り組んでいます。

従業員のモチベーションを高め、ボランティア活動の輪を広げるきっかけづくりとして、表彰制度の導入や新入社員に対する社会貢献教育など、従業員の意識向上と支援体制の整備に努めています。これにより、従業員は様々な活動を通して地域の人々とふれあひを図っています。また、海外拠点でもボランティア活動を

中心に、地域社会と密接な関係づくりを推進しています。

2013年度は、ボランティア参加人数が国内延べ2万2,000名以上と2012年度の約2倍の参加がありました。また、2年目となったグローバル社会貢献活動においても、約7,000名の従業員が参加し、ボランティアの輪を広げ、地域の人々との絆を強めました。

東日本大震災復興支援においては、当社のLED技術の特色を活かした防犯灯を寄贈し、明るい街づくりに貢献しました。

## 社会福祉



### ハートフルメニュー

8事業所の食堂で、1食ごとに10円が募金される「ハートフルメニュー」を導入。集められた募金で車イスやリハビリ器具を購入し、3カ所の地域福祉施設へ寄贈しました。



### 車イスドクターズ

従業員の有志でサークルを結成し、地域の老人福祉施設や病院などを毎月訪問し、年間500台以上の車イスの修理・調整・清掃を行っており、この活動は1996年から続けています。



### 障がい者授産施設の物品販売

障がい者授産施設に通う方たちの自立を支援するために、毎月8事業所で手づくりパンや焼き菓子を販売する場を提供。収益金は施設の運用資金として活用されています。

## 環境保全



### 工場の森づくり

従業員の環境意識の向上や社内コミュニケーションの促進などを目的に2009年から始めた工場の緑化活動。2013年度は、国内外の3拠点で4万5,000本の植樹を実施しました。



### エコ先端工場

2011年から環境保全を目的に平和町工場をモデル工場として、河川の「生態系調査」「浄化活動」及び「エコ体験学習」など地域の方とともに活動を行っています。



### 地域の清掃活動

各事業所の定期的な清掃活動に加え、年2回「全社一斉地域清掃活動」を実施。従業員の家族や地域の学生など2,500名以上が参加しています。

## 青少年育成



### 一宮少年少女発明クラブ

子どもたちに「ものづくり」を楽しむ場を提供し、創造性豊かな人間の育成を目的に、開設当初から企画・運営など全面的に支援。2013年度は、125名に参加いただきました。



### スポーツ支援

青少年の健全育成のため、地域の小中学生を対象に、バレーボール／ハンドボール／バスケットボール部の選手が指導を行っています。また、定期的に障がい者との交流も図っています。



### 防犯パトロール

地元小中学校の近隣や駅周辺などの重点防犯エリアを従業員ボランティアが巡回する「防犯パトロール」活動を開始しました。清須市・稲沢市・一宮市・あま市・森町で活動を実施しています。

## 地域防犯



### 青色防犯パトロール

2012年7月より、青色灯の付いた「青色パトロール車」を導入。活動範囲を従来の3倍に拡大し、機動力のある防犯活動を開始しました。2012年度から清須市、稲沢市、一宮市で活動を実施中。



### LED防犯灯の寄贈

「犯罪のない明るいまちづくり」を目指し、2009年より、当社のLED防犯灯を地域に寄贈しています。2013年度までに清須市・稲沢市・一宮市へ寄贈しました。



### 交通安全立哨

交通事故の撲滅と交通弱者を守るために、交通安全を推進する啓発活動をしています。毎月ゼロの日に、各事業所周辺に従業員が自主的に立ち、地域の人々へ交通安全を呼びかけています。

## 地域防犯



### 愛のバレンタイン作戦

事業所周辺にある14カ所の保育園や幼稚園に従業員約50名が出向き、紙芝居やビデオを利用して園児たちに交通安全の大切さを伝える活動をしています。2013年度で28回目を迎えました。



### 飲酒運転根絶パトロール

森町工場では交通安全関係団体と協力し、2008年より地域を巡回しながら飲酒運転防止を呼びかける活動をしています。2013年度も飲酒運転根絶を目指しパトロールを行いました。

## 海外ボランティア



### 恵まれない子どもたちへの寄附

メキシコのTGオートモーティブシーリングメキシコ(株)で、会社近隣の3つの地域の恵まれない子どもたちに、450個のおもちゃを寄附。社内のペットボトルや空き缶を回収したものを換金し、購入資金としています。

## 海外ボランティア



## 高齢者福祉施設への寄贈

アメリカのTGミズーリ(株)で、従業員から集めた日用品(ボディソープ、香水など)を地域の高齢者福祉施設に寄贈しました。

## 東日本復興支援活動



## LED街路灯などの寄贈

明るく安全な街づくりに活用いただくため、被災地のニーズも踏まえ、当社製「高効率LED光源」を用いた、LED防犯灯やLED電球などを寄贈しました。



## 東北物産品の販売

被災地に行かなくても、復興支援ができることを社員に知ってもらうために、東北地方で人気の銘菓や、食料品などを取り扱った「東北物産展」を、国内13拠点の食堂で開催しました。

## その他の活動



## 新入社員への社会貢献教育

ふれあいを通じて「障がい」を正しく理解し、「サポートのあり方」や「思いやりの心」を学び、社会性・協調性の向上、視野の拡大を目的に「新入社員と障がい者のふれあい交流会」を実施しました。



## ボランティア表彰制度

ボランティアに対する従業員のモチベーションを高め、その輪を広げるきっかけづくりを目的に、優れたボランティア活動を行った従業員を表彰しています。



ボランティアマーク

## VOICE



総務部

山田 史子

私たちは、工場の森づくり、グローバル一斉社会貢献活動、東日本大震災復興支援活動、防犯パトロール、車イスドクターズ、一宮少年少女発明クラブなど、社会貢献につながる様々な活動を行っています。ボランティア活動には従業員の理解が不可欠。自主的に、継続的に、楽しみながら活動に参加していただけるよう、一人でも多くのサポーターを増やしていきたいと考えています。

# グローバルに環境保全活動を推進

国内外関係会社、仕入先を含めた豊田合成グループは、地球規模で広がる環境問題に対応するために、環境保全活動を推進しています。

豊田合成グループは環境基本方針に基づいて、車のライフサイクル全般を考慮した様々な活動を行っています。

開発、生産、販売までの事業活動から廃棄に至るまで環境に配慮するとともに、法規制や時代によるニーズの変化にもいち早く対応し、環境保全活動に取り組んでいます。また、従業員一人ひとりの環境意識を向上させ、活動の活性化を推進しています。2011年度から2015年度までの環境取り組みの実行計画である「第5次環境取り組みプラン」に基づき、今後も活動を継続していきます。

より高い目標への挑戦

## 環境基本方針

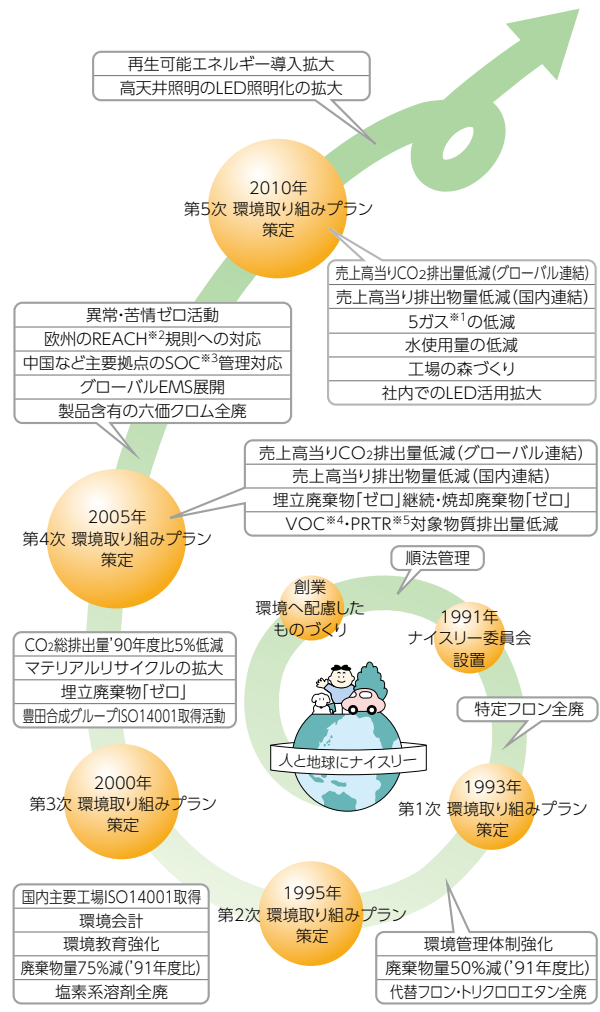
### 1 環境に配慮した事業活動の推進

開発・生産・販売の事業活動から廃棄までの全ての段階で、環境と深く関連していることを認識し、社内全部門はもとより、国内外関係会社、仕入先を含めた豊田合成グループとして、顧客・行政などとも協力・連携し、環境に配慮した事業活動を行う。

### 2 企業市民としての取り組み

良き企業市民として、地域・社会の環境活動に取り組むとともに、各団体の環境活動への参加、支援・協力を行う。また、社員一人ひとりが地域・社会の一員として環境活動に取り組むための啓発を行うとともに、社会貢献・ボランティア活動を支援する。

### 3 こうした活動の情報を広く発信するとともに、各層からの意見を聴取し、さらなる改善活動に努める。

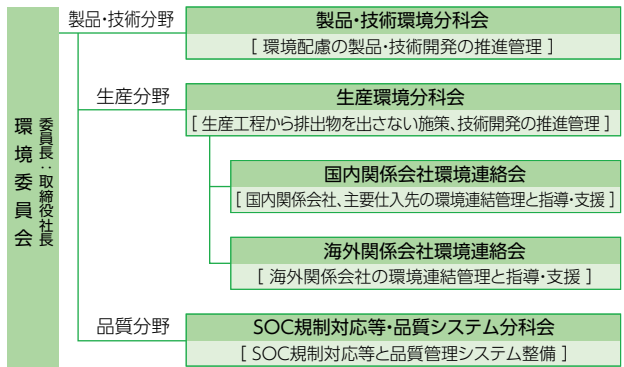


※1 HFC(ハイドロフルオロカーボン)、PFC(パーフルオロカーボン)、SF<sub>6</sub>(六フッ化硫黄)、CH<sub>4</sub>(メタン)、N<sub>2</sub>O(亜酸化窒素)  
 ※2 Registration, Evaluation, Authorization and Restriction of Chemicals (化学物質の登録・評価・認可・制限に関する規則)  
 ※3 Substances of Concern (環境負荷物質)  
 ※4 Volatile Organic Compounds (揮発性有機化合物)  
 ※5 Pollutant Release and Transfer Register (環境汚染物質排出・移動登録制度)

## 環境推進組織

豊田合成グループとしての環境に関する方針や重要な取り組み事項は、社長を委員長とする「環境委員会」で審議・決定しています。「環境委員会」は、製品・生産・品質分野の3つの分科会で構成されており、下部組織の連絡会やワーキンググループと連携を図って、専門的な視点から環境保全・管理活動を推進しています。

### 環境組織体制図



環境委員会、各分科会から工場などへの展開は、各工場ISO14001システムなどに従い専門委員会を設置して対応しています



# 第5次環境取り組みプランの活動と結果

製品の提供を通して、低炭素・循環型社会と自然共生社会の構築に寄与することを目指し、豊田合成グループは「第5次環境取り組みプラン」を策定し、様々な活動に取り組んでいます。

テーマ	実施事項	2013年度の活動結果				掲載ページ																														
温暖化防止	<b>① CO<sub>2</sub>排出量の低減</b> <b>【生産】</b> ・ 効率の悪い設備・機器の更新や既存設備の改良 ・ 高天井照明のLED照明化拡大 ・ 再生可能エネルギー（太陽光発電）の拡大 ・ 断熱塗料の適用（建屋、設備）拡大	<b>▶ 生産における取り組み事例</b> ..... ・ 真空成形設備の内製コンパクト化による省電力化 ・ ウレタンハンドル成形工程の油圧ポンプ台数削減 ・ 金型のコンパクト化				P34																														
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>項目</th> <th>2015年度目標</th> <th colspan="2">2013年度実績</th> <th>評価<sup>[2]</sup></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">グローバル連結</td> <td>売上高当りCO<sub>2</sub>排出量</td> <td>'03年度比33%減</td> <td>69<sup>[1]</sup></td> <td>'03年度比31%減</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>国内連結</td> <td>売上高当りCO<sub>2</sub>排出量</td> <td>'03年度比28%減</td> <td>76<sup>[1]</sup></td> <td>'03年度比24%減</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>豊田合成</td> <td>売上高当りCO<sub>2</sub>排出量</td> <td>'03年度比26%減</td> <td>76<sup>[1]</sup></td> <td>'03年度比24%減</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td></td> <td>CO<sub>2</sub>排出量</td> <td>'03年度比13%減</td> <td>11.9万t-CO<sub>2</sub></td> <td>'03年度比1%減</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>		項目	2015年度目標	2013年度実績		評価 <sup>[2]</sup>	グローバル連結	売上高当りCO <sub>2</sub> 排出量	'03年度比33%減	69 <sup>[1]</sup>	'03年度比31%減	○	国内連結	売上高当りCO <sub>2</sub> 排出量	'03年度比28%減	76 <sup>[1]</sup>	'03年度比24%減	○	豊田合成	売上高当りCO <sub>2</sub> 排出量	'03年度比26%減	76 <sup>[1]</sup>	'03年度比24%減	○		CO <sub>2</sub> 排出量	'03年度比13%減	11.9万t-CO <sub>2</sub>	'03年度比1%減	○					
		項目	2015年度目標	2013年度実績		評価 <sup>[2]</sup>																														
	グローバル連結	売上高当りCO <sub>2</sub> 排出量	'03年度比33%減	69 <sup>[1]</sup>	'03年度比31%減	○																														
		国内連結	売上高当りCO <sub>2</sub> 排出量	'03年度比28%減	76 <sup>[1]</sup>	'03年度比24%減	○																													
		豊田合成	売上高当りCO <sub>2</sub> 排出量	'03年度比26%減	76 <sup>[1]</sup>	'03年度比24%減	○																													
		CO <sub>2</sub> 排出量	'03年度比13%減	11.9万t-CO <sub>2</sub>	'03年度比1%減	○																														
	<b>【物流】 範囲：納入物流、工程内物流、調達物流</b> ・ 輸送効率の向上 ・ 積載効率の向上 ・ 顧客近隣生産による物流動線の短縮 ・ 生産量に応じた配車手配	<b>▶ 物流における取り組み</b> ..... ・ 直納化の推進				P35																														
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>項目</th> <th>2015年度目標</th> <th colspan="2">2013年度実績</th> <th>評価<sup>[2]</sup></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>豊田合成</td> <td>売上高当り物流CO<sub>2</sub>排出量</td> <td>'03年度比37%減</td> <td>63<sup>[1]</sup></td> <td>'03年度比37%減</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>		項目	2015年度目標	2013年度実績		評価 <sup>[2]</sup>	豊田合成	売上高当り物流CO <sub>2</sub> 排出量	'03年度比37%減	63 <sup>[1]</sup>	'03年度比37%減	○																							
		項目	2015年度目標	2013年度実績		評価 <sup>[2]</sup>																														
豊田合成	売上高当り物流CO <sub>2</sub> 排出量	'03年度比37%減	63 <sup>[1]</sup>	'03年度比37%減	○																															
<b>【製品】</b> ・ 軽量化のための製品設計・材料開発の推進 ・ 新エネルギー動向に対応した新領域製品・技術の開発	<b>▶ 製品における取り組み事例</b> ..... ・ インタークーラー冷却配管の樹脂化 ・ インフレーターダンパーの開発(軽量化)				P35																															
<b>② 5ガス*の低減</b> ・ マグネシウム鋳造や LED 製造用ガス (HFC、PFC、SF <sub>6</sub> ) の代替化等の推進	<b>▶ 5ガスから代替ガスへの切り替え</b> .....				P36																															
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>項目</th> <th>2015年度目標</th> <th colspan="2">2013年度実績</th> <th>評価<sup>[2]</sup></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>豊田合成</td> <td>5ガス排出量</td> <td>'03年度比75%減</td> <td>0.6万t-CO<sub>2</sub></td> <td>'03年度比68%減</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>		項目	2015年度目標	2013年度実績		評価 <sup>[2]</sup>	豊田合成	5ガス排出量	'03年度比75%減	0.6万t-CO <sub>2</sub>	'03年度比68%減	○																								
	項目	2015年度目標	2013年度実績		評価 <sup>[2]</sup>																															
豊田合成	5ガス排出量	'03年度比75%減	0.6万t-CO <sub>2</sub>	'03年度比68%減	○																															
環境負荷低減	<b>③ 排出物の低減</b> <b>【生産】</b> ・ 歩留り向上による発生源対策の推進 ・ ゴム・樹脂・金属の社内リサイクルの推進 ・ 埋立廃棄物ゼロ化の継続	<b>▶ 生産における取り組み</b> .....				P36																														
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>項目</th> <th>2015年度目標</th> <th colspan="2">2013年度実績</th> <th>評価<sup>[2]</sup></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国内連結</td> <td>売上高当り排出物量</td> <td>'03年度比48%減</td> <td>52<sup>[1]</sup></td> <td>'03年度比48%減</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>豊田合成</td> <td>売上高当り排出物量</td> <td>'03年度比50%減</td> <td>52<sup>[1]</sup></td> <td>'03年度比48%減</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>海外関係会社</td> <td>売上高当り排出物量</td> <td>'03年度比38%減</td> <td>64<sup>[1]</sup></td> <td>'03年度比36%減</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>		項目	2015年度目標	2013年度実績		評価 <sup>[2]</sup>	国内連結	売上高当り排出物量	'03年度比48%減	52 <sup>[1]</sup>	'03年度比48%減	○	豊田合成	売上高当り排出物量	'03年度比50%減	52 <sup>[1]</sup>	'03年度比48%減	○	海外関係会社	売上高当り排出物量	'03年度比38%減	64 <sup>[1]</sup>	'03年度比36%減	○											
		項目	2015年度目標	2013年度実績		評価 <sup>[2]</sup>																														
	国内連結	売上高当り排出物量	'03年度比48%減	52 <sup>[1]</sup>	'03年度比48%減	○																														
	豊田合成	売上高当り排出物量	'03年度比50%減	52 <sup>[1]</sup>	'03年度比48%減	○																														
	海外関係会社	売上高当り排出物量	'03年度比38%減	64 <sup>[1]</sup>	'03年度比36%減	○																														
	<b>【物流】 範囲：納入物流、工程内物流、調達物流</b> ・ 包装仕様のスリム化の推進 ・ 容器のリターナブル化の推進	<b>▶ 物流における取り組み</b> ..... ・ 通い箱のクリーン化				P37																														
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>項目</th> <th>2015年度目標</th> <th colspan="2">2013年度実績</th> <th>評価<sup>[2]</sup></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>豊田合成</td> <td>売上高当り梱包材使用量</td> <td>'03年度比70%減</td> <td>28<sup>[1]</sup></td> <td>'03年度比72%減</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>		項目	2015年度目標	2013年度実績		評価 <sup>[2]</sup>	豊田合成	売上高当り梱包材使用量	'03年度比70%減	28 <sup>[1]</sup>	'03年度比72%減	○																							
		項目	2015年度目標	2013年度実績		評価 <sup>[2]</sup>																														
	豊田合成	売上高当り梱包材使用量	'03年度比70%減	28 <sup>[1]</sup>	'03年度比72%減	○																														
<b>【製品】</b> ・ リサイクルしやすい製品設計と技術開発の推進	<b>▶ 製品における取り組み</b> .....				P37																															
<b>④ 水使用量の低減</b>	<b>▶ 水使用量低減と水の有効利用</b> ..... ・ めっき工程における減圧脱水装置による排水再利用				P37																															
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>項目</th> <th>2015年度目標</th> <th colspan="2">2013年度実績</th> <th>評価<sup>[2]</sup></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>豊田合成</td> <td>売上高当り水使用量</td> <td>'03年度比30%減</td> <td>56<sup>[1]</sup></td> <td>'03年度比44%減</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>		項目	2015年度目標	2013年度実績		評価 <sup>[2]</sup>	豊田合成	売上高当り水使用量	'03年度比30%減	56 <sup>[1]</sup>	'03年度比44%減	○																								
	項目	2015年度目標	2013年度実績		評価 <sup>[2]</sup>																															
豊田合成	売上高当り水使用量	'03年度比30%減	56 <sup>[1]</sup>	'03年度比44%減	○																															

\* 5ガス：フロン系ガス等〔HFC：Hydrofluorocarbon(ハイドロフルオロカーボン)、PFC：Perfluorocarbon(パーフルオロカーボン)、SF<sub>6</sub>：六フッ化硫黄〕、メタン(CH<sub>4</sub>)、窒素系ガス(N<sub>2</sub>O：亜酸化窒素)  
 [1] 基準年の数値を100とした場合の数値 [2] ○：年度目標達成、×：年度目標未達成

事業報告  
 経営報告  
 社会報告  
 環境報告  
 財務報告  
 コーポレートデータ

テーマ	実施事項	2013年度の活動結果	掲載ページ											
環境負荷物質管理・低減 環境負荷低減	<b>5 VOC※1排出量の低減</b> ・塗料の水系化・低溶剤化や洗浄シンナーの代替化・ 使用量適正化による低減の推進	▶VOC排出量低減における取り組み事例…………… ・水系表面処理の適用拡大	P38											
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>項目</th> <th>2015年度目標</th> <th colspan="2">2013年度実績</th> <th>評価<sup>[2]</sup></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>豊田合成</td> <td>売上高当りVOC排出量</td> <td>'03年度比65%減</td> <td>31<sup>[1]</sup></td> <td>'03年度比69%減</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>		項目	2015年度目標	2013年度実績		評価 <sup>[2]</sup>	豊田合成	売上高当りVOC排出量	'03年度比65%減	31 <sup>[1]</sup>	'03年度比69%減	○	
	項目	2015年度目標	2013年度実績		評価 <sup>[2]</sup>									
豊田合成	売上高当りVOC排出量	'03年度比65%減	31 <sup>[1]</sup>	'03年度比69%減	○									
地域社会との連携	<b>6 製品含有化学物質の管理充実</b> ・グローバルな製品含有化学物質管理の推進	▶EU REACH 規則、中国などの規制・法令対応……………	P38											
	<b>7 工場の森づくりの推進 (サステナブルプラント)</b> ・10年間('09年度～)で、国内外の約60拠点に約60万本を植樹する ・再生可能エネルギー(太陽光発電)の導入拡大 <b>8 社会貢献活動の推進</b>	▶工場の森づくりの取り組み事例…………… ・国内外3拠点に植樹(累計16拠点、約23万6,980本)  ▶地域社会における取り組み事例 ・地域清掃活動を実施…………… ・グローバル一斉社会貢献活動を実施……………	P41 P28 P29											
	<b>9 環境政策への貢献</b>	▶日本自動車部品工業会、日本ゴム工業会などの環境政策に参画	—											
環境意識の向上・マネジメント 環境経営	<b>10 環境意識の向上</b>  <b>11 連結環境マネジメントの強化</b>	▶環境意識の向上 ・体系的な環境教育の実施…………… ・環境月間などでの啓発活動……………  ▶連結環境マネジメント強化 ・国内、海外拠点ISO14001取得、審査状況…………… ・環境監査(内部環境監査、外部環境審査)…………… ・グローバル連結環境マネジメント…………… ・国内関係会社の取り組み(豊信合成株式会社)…………… ・海外関係会社の取り組み…………… (豊田合成(張家港)塑料製品有限公司)	P39 P40 P39 P39 P40 P42 P42											
	<b>12 ビジネスパートナーと連携した環境活動の推進</b>	▶調達方針の浸透推進…………… ・調達方針説明会の開催 ・環境負荷物質管理体制のグローバル展開	P27											
	<b>13 環境情報の開示</b>	▶環境情報の開示 ・「上海モーターショー2013」に出展…………… ・「東京モーターショー2013」に出展…………… ・「豊田合成レポート2013」の発行	P19 P20											
	<b>14 製品開発における環境影響評価(LCA※2)の推進</b>	▶CO <sub>2</sub> 、製品リサイクル性への取り組み度合いの見える化	—											
環境にやさしいLEDメーカーとしての貢献	<b>15 社内でのLED活用拡大</b>	▶社内でのLED活用拡大…………… ・国内事業所蛍光灯照明のLED化 ・高天井照明のLED化	P43											
	<b>16 LED事業の拡大</b>	▶LED事業の拡大…………… ・照明用LED事業の拡大   GOOD DESIGN AWARD 2013年度受賞 調光調色ベースライト(NVR2ZA)   会議やイベントには昼白色で演出 飲食やパーティには電球色で演出	P43											

※1 VOC : Volatile Organic Compounds(揮発性有機化合物)

※2 LCA : Life Cycle Assessment [製品の産生・使用・廃棄にいたるライフサイクルでの環境影響(CO<sub>2</sub>排出量等)を評価すること]

[1] 基準年の数値を100とした場合の数値 [2] ○ : 年度目標達成、× : 年度目標未達成

# 温暖化防止

車両の軽量化や多様なエネルギーへの対応を強化するとともに生産性の向上と物流の効率化を図り、CO<sub>2</sub>排出量の低減を推進しています。

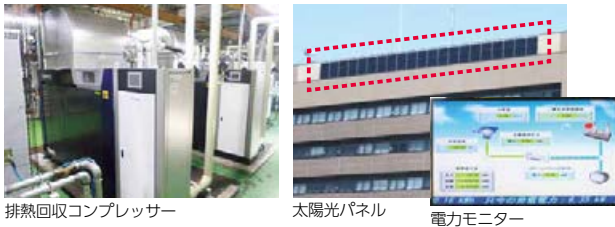
※1 Scope1：企業自身が直接排出した温室効果ガス排出量（化石燃料・天然ガスなど）  
 ※2 Scope2：間接的に排出した温室効果ガス排出量（電力など）  
 ※3 Scope3：企業が間接的に排出するサプライチェーンでの温室効果ガス排出量（製造、輸送、出張、通勤など）

## 生産 エネルギーのムダ削減とCO<sub>2</sub>排出量の低減

豊田合成グループは、生産性向上とエネルギー使用量の低減によって温暖化防止を進めています。これまでに、ピーク電力の抑制、使用電力低減のため、「工場ムダ取り隊」による休日のムダなエネルギーの低減活動や省エネ対策の定着化を行っています。また、一部工程に電力量を「見える化」するモニターを設置して解析することで、ムダを発見して対策しています。国内外関係会社には豊田合成で行った省エネの取り組み事例を紹介し、改善につながる活動を継続的に行っています。

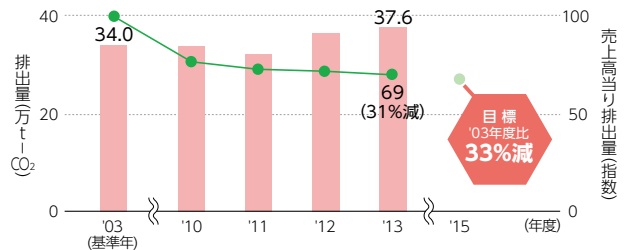
2013年度は、コンプレッサの排熱をボイラーの給水予熱に活用、高天井照明のLED化などを行いました。さらに、「2017年度までに全購入電力ピーク実績の1%相当を再生可能エネルギーにする」という目標の達成に向けて、北島技術センターに太陽光発電を設置しました。また、国内関係会社に加え海外関係会社でも、現地・現物で省エネ診断を行い、具体的な改善案を提示する活動をスタートさせました。

そのほか、国内の省エネ法などで管理が求められるScope1※1、Scope2※2に加え、近年開示要求が強まるScope3※3についても、各カテゴリーの精度向上に向けた準備を進めています。

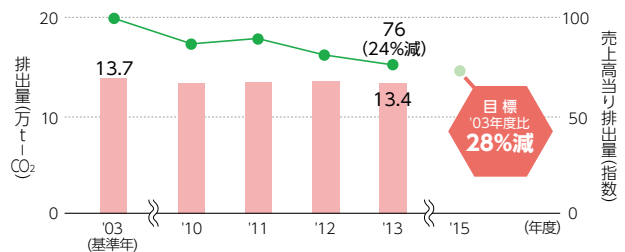


排熱回収コンプレッサ 太陽光パネル 電力モニター

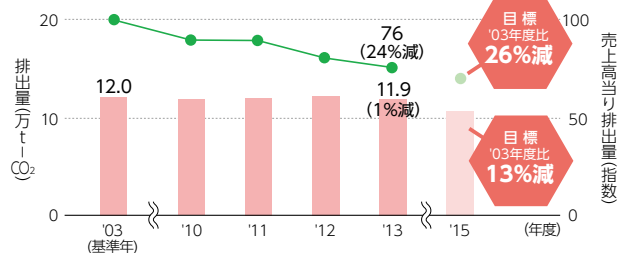
### CO<sub>2</sub>排出量・売上高当りCO<sub>2</sub>排出量(指数)※4の推移(グローバル連結)



### CO<sub>2</sub>排出量・売上高当りCO<sub>2</sub>排出量(指数)※4の推移(国内連結)



### CO<sub>2</sub>排出量・売上高当りCO<sub>2</sub>排出量(指数)※4の推移(豊田合成)



※4 売上高当りCO<sub>2</sub>排出量(指数)は'03年度を100とした数値

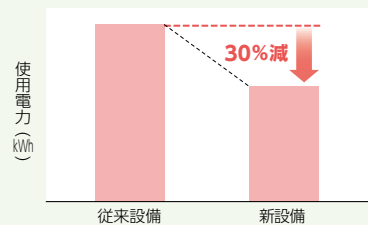
#### 【CO<sub>2</sub>換算係数について】

国内のCO<sub>2</sub>換算係数※5は、1990年の経団連係数を使用しています。なお、本報告書での換算では、火力平均で換算したコージェネのCO<sub>2</sub>削減効果をCO<sub>2</sub>排出量に反映しています。また、海外のCO<sub>2</sub>換算係数は、GHGプロトコル(2001年)を使用しています。

※5 電力:0.3707t-CO<sub>2</sub>/MWh、A重油:2.69577t-CO<sub>2</sub>/kL、LPG:3.00397t-CO<sub>2</sub>/t、都市ガス:2.1570t-CO<sub>2</sub>/千Nm<sup>3</sup>、灯油:2.531155t-CO<sub>2</sub>/kL、LNG:2.68682t-CO<sub>2</sub>/t、ガソリン:2.36063t-CO<sub>2</sub>/kL

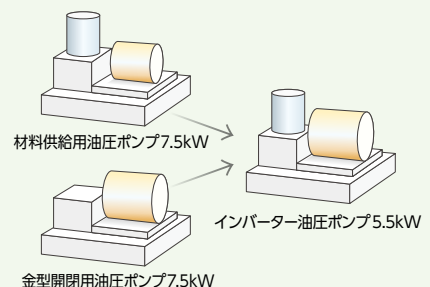
### 事例紹介 生産 真空成形設備の内製コンパクト化による省電力化

インストゥルメントパネルなどサイズが大きい製品を成形する真空成形設備を汎用機から自社内製機に変更し、使用電力を約30%低減しました。自社内製機では上下に装着する金型のうち下側を固定式とすることで油圧ユニットを半減させるとともに、必要な時だけ電源が入るクイックヒーターを搭載して使用電力を減らしました。また、設備の小型化も実現しています。



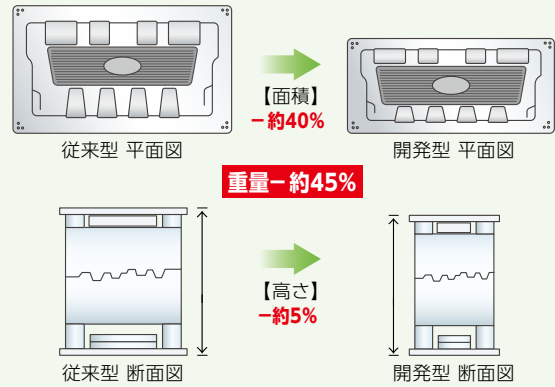
### 事例紹介 生産 ウレタンハンドル成形工程の油圧ポンプ台数削減

ウレタンハンドル成形工程にインバーターポンプを導入し、使用電力を60%低減しました。従来、この工程では材料供給用と金型開閉用の2種類の油圧ポンプが使用されていましたが、実動タイミングが異なることからインバーターポンプによる共有化を進め、ポンプの数を37基から17基まで減少させました。省電力に加え、ポンプ稼動による騒音・熱の発生低下などにつながり、作業環境の向上にも寄与しています。



## 事例紹介 生産 ▶ 金型のコンパクト化

従来に比べ体積が約半分のコンパクト金型を開発し、使用する射出成形機をダウンサイジングすることで、使用電力を9%低減しました。従来は製品不良や金型の変形・破損を防ぐため大型の金型を使用してきましたが、ノウハウを盛り込みシミュレーションを行うことで、強度維持に影響を与えない部分を削ぎ落とした最適な金型を開発しました。今後はサイズが大きな製品から金型のコンパクト化を進めるとともに、金型の仕入先にも技術情報を公開し、一体となって国内の競争力強化を図っていきます。



## 物流 ▶ 輸送ロス低減活動の推進

輸送におけるCO<sub>2</sub>排出量を低減するために、積載効率の向上や物流動線の短縮、生産量に応じた配車(現地、現物、現実)を基本に活動しています。2012年度の一宮物流センターの拡張という大きな変化を経て、2013年度は各ルートの輸送効率を検証し、さらなる改善を進めました。一例として、各生産拠点から顧客への輸送状況を再調査し、納入量が多い場合は、当社物流センター

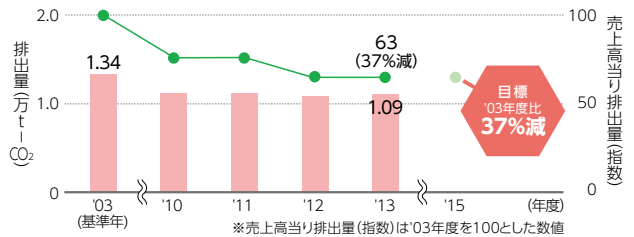
を経由せず顧客へ直接納入する「直納化」により、輸送効率をさらに高めることができました。今後も従来からの活動に加えて、新しいアイデアを取り入れた輸送ロスの低減活動を推進していきます。

### 物流CO<sub>2</sub>排出量低減活動の3つの柱

- ① 輸送及び積載効率を高め配車便数を少なくする活動
- ② ルート変更や顧客近隣生産による動線短縮
- ③ CO<sub>2</sub>排出量の少ない輸送手段を追求

### 物流CO<sub>2</sub>排出量・売上高当り物流CO<sub>2</sub>排出量(指数)\*の推移(豊田合成)

(範囲: 納入物流、工程内物流、調達物流)



## 製品 ▶ 車両軽量化とCO<sub>2</sub>排出量低減

当社では製品・技術開発において軽量化に取り組んでいます。2013年度はインタークーラー冷却配管の樹脂化やインフレーターダンパーの軽量化、ウェザーストリップの発泡化の促進など、軽量化への取り組みを積極的に行いました。また、軽量化の取り

組み重点製品を決め、それぞれの製品について軽量化の目標値を設定しました。これらについては2017年度までに平均で20%の低減を目指しています。

## 事例紹介 製品 ▶ インタークーラー冷却配管の樹脂化

エンジンまわりの部品であるインタークーラー冷却配管を金属から樹脂に変更し、約40%の軽量化を実現しました。材料選定では、耐LLC(自動車用冷却水)性、耐熱性などに対応できる材料を最適選定し、冷却水の流量を確保しつつ、三次元曲がりの中空配管形状を形成できる新工法を採用し、最適成形条件を設定することで、機能を損なうことなく軽量化することができました。また、樹脂化によって配管の曲げ角度などの形状制約が緩和され、搭載設計の自由度も向上しました。今後は適用車種を拡大していく計画です。



## 事例紹介 製品 ▶ インフレーターダンパーの開発(軽量化)

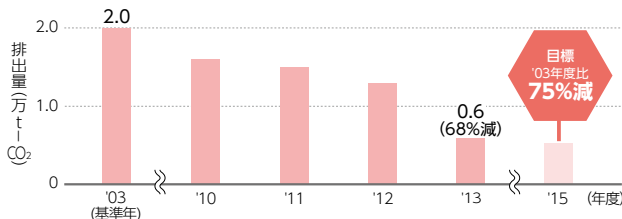
エアバッグのガスを発生させるインフレーターにダンパーの役割を持たせることによって約10%の軽量化を実現しました。従来、ステアリングには不快な振動を打ち消すダンパーが装着されていましたが、同じステアリングに装着されるインフレーターにダンパーの役割も持たせることを考案、開発したことで、上下・左右の振動に対応し、従来に比べて制振効果が3倍以上向上しました。今後は同種の製品に拡大していく考えです。



## 温室効果ガス(5ガス)の低減

CO<sub>2</sub>以外の温室効果ガス5種類のうち、当社が使用する3つのガスの低減活動を行っています。LEDチップ製造で使用するクリーニングガスの代替ガスへの切り替えは2013年度に完了しました。また、ハンドル芯金の生産で使用するシールドガスの代替ガスへの切り替えは、2014年度末までに完了する計画です。これらの取り組みにより2003年比で68%低減しました。

■ 温室効果ガス(5ガス)排出量(CO<sub>2</sub>換算)の推移(豊田合成)



## 資源有効利用

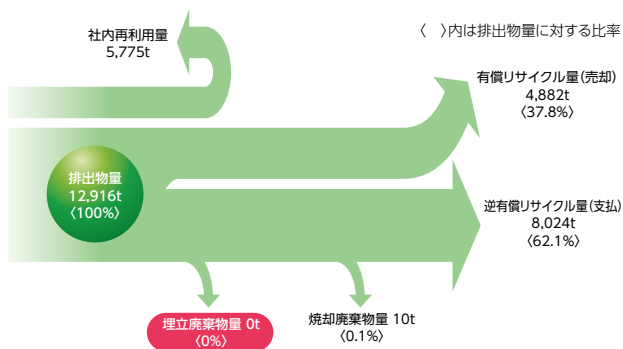
排出物の低減やリサイクル設計を通して資源を有効に利用するとともに、資源循環型社会の実現に貢献しています。

### 生産 排出物(廃棄物)の低減

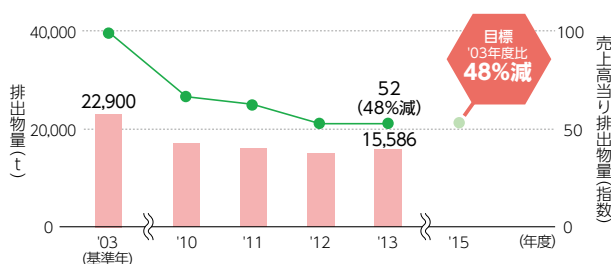
豊田合成グループは、発生源対策とリサイクルの推進によって排出物の低減活動を進めています。

2013年度は前年度に引き続き社内外の優れた低減事例の共有化による活動の促進や、不良対策・歩留まり対策によるゴム・樹脂屑の低減、廃液の低減に取り組みました。また、国内関係会社についても現地・現物で改善指導を行い、リサイクルの拡大を図りました。さらに本年度からグローバルでの低減活動をスタートさせました。目標展開にあたっては、排出物低減活動のねらいや日本の取り組み事例の紹介を積極的に行いました。これらによって豊田合成本体、国内連結、海外関係会社のいずれも年度目標を達成することができました。今後も2015年度目標達成に向けて低減活動の活性化が図れるように、海外関係会社を含めたグループ全体での取り組みを強化・拡充していきます。

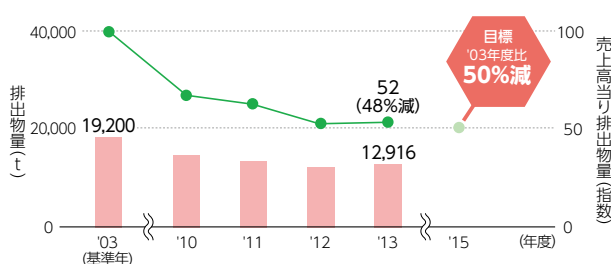
■ 廃棄物発生量・処理状況(2013年度実績:豊田合成)



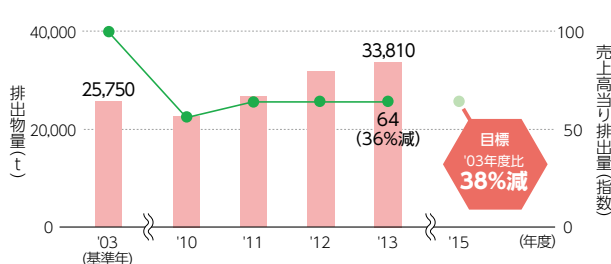
■ 排出物量・売上高当り排出物量(指数)\*の推移(国内連結)



■ 排出物量・売上高当り排出物量(指数)\*の推移(豊田合成)



■ 排出物量・売上高当り排出物量(指数)\*の推移(海外関係会社)



\*売上高当り排出物量(指数)は'03年度を100とした数値

## 物流 製品梱包材の低減

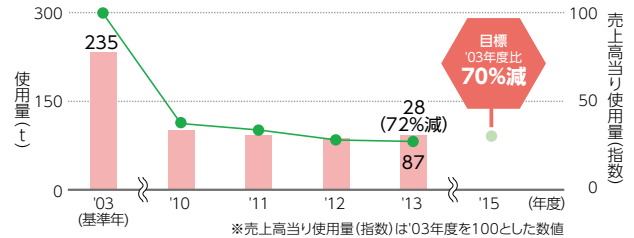
製品輸送時の通い箱に使用する梱包材の使用量を低減するために、毎年目標を設定し、最終目標である「使い捨て梱包材ゼロ」を目指し、改善活動を推進しています。

2013年度は、前年度に引き続き、通い箱への蓋の設置や再利用可能な仕切り(保護材)を、通い箱内に設置するなどの活動を行いました。また、尾西工場、森町工場に洗浄機、稲沢工場に清掃機を導入、箱を清潔に保つことによって汚れ防止の梱包材削減に努めるとともに、クリーン化基準の策定を行い、サプライヤー各社にも汚れ防止の自主活動を定着させました。その結果、売上高当りの梱包材使用量を2003年比72%低減し

ました。今後も通い箱のクリーン化を推進し、汚れ防止と梱包材削減を図ります。

### 製品梱包材の使用量・売上高当り使用量(指数)\*の推移(豊田合成)

(範囲: 納入物流、工程内物流、調達物流)



## 製品 リサイクル技術

当社は車のライフサイクル全体を考えたリサイクルを意識した製品の開発・設計、リサイクル技術の開発を推進しています。高分子材料の再生利用をはじめ、数種類のゴムやゴムと異なる素材が複合した製品のリサイクルに関する技術を確認しています。2013年度は前年度に引き続き、資源の有効活用に向けて継続的に再生ゴム活用の取り組みを行いました。今後は、国内関係会社も含めて再生ゴムの安定供給に努めます。

### ELV\*部品のリサイクルに向けた技術開発

重点項目	取り組み方策
新規リサイクル	・新規再生処理技術(高品質マテリアルリサイクル) ・複合素材分離技術
リサイクル材の車両搭載	・リサイクル材用途開発 ・ELV部品再生処理技術
リサイクルしやすい製品設計	・リサイクル容易な素材、構成への変更 ・解体容易な製品設計

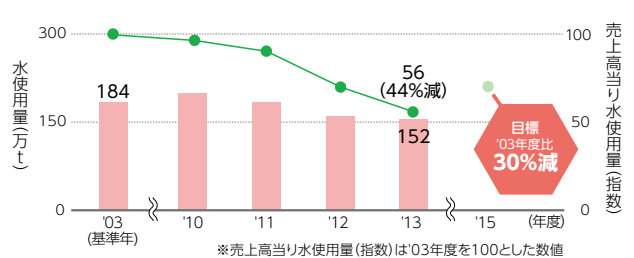
\*ELV: End of Life Vehicle(使用済車両)

## 水使用量の低減

当社は、資源である水の最適利用、ムダの発見・改善などを行い、水使用量の低減に取り組んでいます。2013年度は平和町工場において生産で用いる純水で不用となった水を冷却塔の補給水に利用し、同工場における水の全使用量(年間)の7%にあたる2万㎡を低減しました。さらに、春日工場では水使用量を「見える化」して、使用先の調査を行い漏水対策を実施し、同工場における水の全使用量(年間)の8%にあたる2.5万㎡の水を低減しました。これらの取り組みを通して水使用量を昨年と比べ全社で5%低減しました。今後も節水や水の有効

利用を徹底するとともに、水使用量の「見える化」を順次行い、ムダの発見・改善に取り組めます。

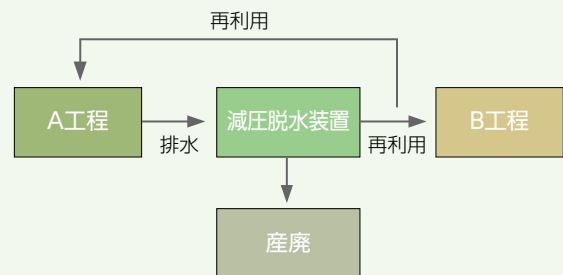
### 水使用量・売上高当り水使用量(指数)\*の推移(豊田合成)



### 事例紹介

#### めっき工程における減圧脱水装置による排水再利用

北九州工場では、水の循環利用によってめっき工程の水使用量を60%低減しました。同工程で発生する排水を減圧脱水装置で水と固形物に分離することで得られた水を排ガス有害物質処理装置(スクラバー)や塗装製品の品質に影響を与えない工程に再利用しています。この取り組みによって産業廃棄物として処理される廃液も従来比7分の1に減量化することができました。



# 環境負荷物質管理・低減

世界的に強化されている環境負荷物質規制に適切に対応し、使用材料及び製造工程の見直しを進めています。

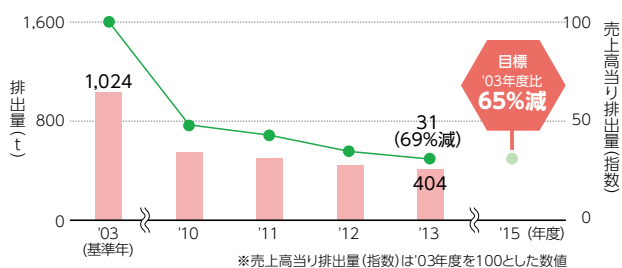
## 生産工程における環境負荷物質の低減

生産工程では、塗料の水系化やガラスランの塗装レス化適用製品の拡大などに取り組み、PRTR※1やVOC※2対象物質を低減しています。また、生産環境分科会の下部組織であるVOC低減ワーキンググループを中心に部署間の情報交換や好事例の紹介

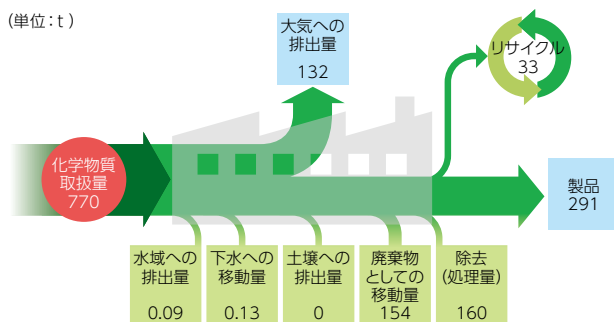
などを行い、環境負荷物質の低減活動を全社で推進しています。今後も塗料や洗浄シンナーの使用量低減を図っていきます。

※1 PRTR:Pollutant Release and Transfer Register (環境汚染物質排出・移動登録制度)  
 ※2 VOC:Volatile Organic Compounds (揮発性有機化合物)

### VOC排出量・売上高当り排出量(指数)※の推移(豊田合成)

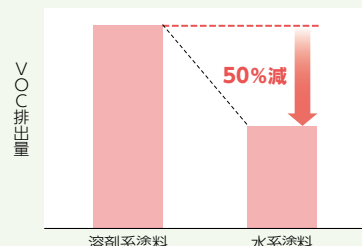


### PRTR対象物質の排出・移動状況(2013年度実績:豊田合成)



## 事例紹介 水系表面処理の適用拡大

車のドアやサンルーフに用いるゴム製のシールド製品に塗布する塗料の水系化を拡大し、溶剤使用量を2003年比50%低減しました。シールド製品は使用場所により求められる性能が異なるため複数の塗料が必要となり適用製品の拡大が困難でした。今回の水系塗料は共通のベース材に機能別の成分を加えることによって、様々な要求性能に適應できるようにしました。また、各国・地域の輸出規制に適應した原料を採用し、海外展開も順次進めています。



## 製品含有化学物質の管理充実

欧州REACH規則※1をはじめとする環境負荷物質に対する規制は年々厳しさが増すとともに、新たに規制を設ける国や地域も増えています。さらに、自動車メーカーの自主規制も加わり、当社もグローバルサプライヤーとして、確実な化学物質管理が求められています。

当社では、国内外の法規制物質や自動車メーカーの自主規制物質、当社独自の規制物質を合わせた約5,000物質を対象に、化学物質管理を行っています。また、将来の規制強化に対する準備として、海外関係会社とも連携し積極的に情報収集を行い、規制改正後、速やかな対応ができるようにしています。

さらに、各国自動車メーカーからの要求に、確実に対応するため、化学物質管理の専門チームを組織するとともに、化学物質を一括管理するためのシステムを開発し、日本と中国へ展開しました。2014年度以降、タイや北米、その他の地域へ順次展開していきます。

自動車メーカーに製品を納入する当社にとって、各国・地域の厳しい規制への対応は不可欠であり、今後も海外関係会社と連携し、化学物質管理を充実・強化していきます。

※1 REACH 規制：化学物質とその安全な使用・取扱・用途に関する法律

### 製品含有化学物質の規制

法規制	2010	2011	2012	2013
欧州	◆ EU ELV指令 Annex II 見直し	Annex II 見直し ◆ EU RoHS指令見直し	◆ EU REACH規則 SVHC31物質追加	◆ EU REACH規則 2020年までにSVHC200物質
法規制		◆ EU CLP規則 分類、ラベリング届出	41物質追加 6物質要認可指定	54物質追加 13物質追加
北米	◆ USA EPAアクションプラン 4物質群検討公表	◆ USA EPAアクションプラン 2物質群検討公表	◆ USA EPAアクションプラン 今後順次検討物質追加	◆ USA EPAアクションプラン 今後順次検討物質追加
アジア	◆ 中国新化学物質 環境管理弁法		◆ 韓国版REACH規則 ◆ 韓国版ELV・RoHS規則改正	◆ 中国危険化学品安全管理条例
日本	◆ 日本 化審法改正			

# 環境経営

豊田合成グループ全社が連携して、環境管理の徹底と環境負荷の低減を推進しています。

## 豊田合成グループで環境活動を推進

豊田合成グループ全体で環境管理と環境負荷低減の活動を積極的に推進しています。

グループ各社の環境データを国内関係会社は2001年度から、海外関係会社は2003年度から集計し、その環境データ(CO<sub>2</sub>

排出量、排出物量)を基に、豊田合成グループの目標と行動をまとめ、実践してきました。2013年度は2011年度スタートした「第5次環境取り組みプラン」の目標達成に向けて、グループ各社との連携強化を図り、活動を推進しました。

### 環境連結対象(生産事業所)

豊田合成	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 春日工場</li> <li>● 西溝口工場</li> <li>● 岩手工場</li> <li>● 瀬戸工場</li> <li>● 稲沢工場</li> <li>● 尾西工場</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 北九州工場</li> <li>● 佐賀工場</li> <li>● 森町工場</li> <li>● 平和町工場</li> <li>● 神奈川工場</li> <li>● 福岡工場</li> </ul>	海外 関係会社	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 北米</li> <li>● TGミズーリ(株)</li> <li>● TGケンタッキー(有)</li> <li>● TGオートモーティブシーリングケンタッキー(有)</li> <li>● TGフルイドシステムズUSA(株)</li> <li>● 豊田合成テキサス(有)</li> <li>● タベックスメキシカーナ(株)</li> <li>● ウォータービルTG(株)</li> <li>● TGミント(株)</li> <li>● TGオートモーティブシーリングメキシコ(株)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 豊田合成ミンダ・インディア(株)</li> <li>● 豊裕股份有限公司</li> <li>● 台裕橡膠工業股份有限公司</li> <li>● 豊田合成オーストラリア(株)</li> <li>● 天津豊田合成有限公司</li> <li>● 天津星光橡膠有限公司</li> <li>● 豊田合成(張家港)科技有限公司</li> <li>● 豊田合成(張家港)塑料製品有限公司</li> <li>● 豊田合成(佛山)橡膠有限公司</li> <li>● 豊田合成(佛山)汽車部品有限公司</li> <li>● 福州福裕橡膠工業有限公司</li> <li>● 豊田合成(天津)精密製品有限公司</li> </ul>
	国内 関係会社	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 一榮工業(株)</li> <li>● 日乃出ゴム工業(株)</li> <li>● 豊田合成インテリア・マニュファクチャリング(株)</li> <li>● 海洋ゴム(株)</li> <li>● ティージーオプシード(株)</li> <li>● 豊信合成(株)</li> <li>● TGAP(株)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 豪亜</li> <li>● 豊田合成タイランド(株)</li> <li>● 豊田合成ラバータイランド(株)</li> <li>● 豊田合成ハイフォン社</li> <li>● TGキルロスカーオートモーティブ(株)</li> <li>● 株豊田合成セーフティシステムズインドネシア</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 欧州・アフリカ</li> <li>● 英国豊田合成(株)</li> <li>● 豊田合成チエコ(有)</li> <li>● 豊田合成南アフリカ(株)</li> </ul>

● ISO14001 取得済 新会社、主力工場については稼働3年を目前に ISO14001 取得

## 環境監査を実施

当社の内部環境監査は監査対象事業所以外のメンバーで構成したチームで実施します。また、豊田合成グループでは(一財)日本品質保証機構(JQA)に審査を依頼、環境マネジメントシステムがISO14001(2004年度版)に従い、適切に運営されているかを確認しています。2013年度も外部環境審査における当社及び国内関係会社への指摘はありません。現在はISO14001の改正(2015年度版)に向けてシステムの再構築準備を進めています。



内部環境監査



外部環境審査

## 豊田合成グループで環境教育を推進

豊田合成グループの従業員に対して、自然破壊や環境汚染などの環境問題をはじめ、生産活動に伴う環境への影響、環境法令の順守などに関する教育を行っています。また、その教材に

ついては毎年、法律の動向を踏まえ理解と実践に重点を置いた事例などを入れ、受講者の理解がより深まる内容に改訂しています。

### 豊田合成グループ環境教育体系

対象者	豊田合成	関係会社	
		国内	海外
全社共通	新任管理者教育		
	海外赴任者教育		
	環境キーマン教育		
	環境関係資格取得		
	新入社員教育		
	環境月間啓発活動		

対象者	豊田合成	関係会社	
		国内	海外
ISO14001 関連	環境スタッフ教育		
	内部監査員レベルアップ教育		
	内部監査員登録教育		
	管理監督者教育		
	環境重要設備業務従事者教育		
	一般従業員教育		



## 環境啓発活動を展開

従業員一人ひとりがしっかりとした環境意識を持つとともに、それを行動に移すことができるように、参加型の取り組みを

中心にした活動を展開しています。

### ◆ 環境月間に啓発活動を実施

2013年度は6月の環境月間に合わせて、豊田合成グループ全社でポスターの掲示や社内報に環境意識の向上を図る記事など、環境に関する情報を掲載しました。また、全従業員が環境に対する「エコ宣言」を行い、宣言通りに行動できたのかを自己評価する取り組みを展開しました。その中で効果が高いエコ宣言活動を行った従業員8名を「優秀エコ宣言賞」として表彰しました。このほか6月25日に当社と国内関係会社から20名が参加し、エコ先進企業の豊田メタル(株)様の見学会を実施。使用済み自動車の解体工程や開発されたリサイクル技術・装置を見学し、当社製品が最終的にどのようにリサイクルされるのかを知るとともに、循環型社会形成に寄与することの重要性を学びました。さらに実りある活動に重点を置き、豊田合成本体及び国内関係会社において現地現物で「環境管理点検」を行いました。



社内報(TG Times)



環境月間見学会

金賞受賞者の  
エコ宣言

エアリーク「0」をめざし、設備・治工具の  
点検整備を実施します。(中勢ゴム)

※銀・銅賞受賞者の省エネは、34～40ページの下に記載

### ◆ 環境貢献表彰制度を新設

環境意識の向上と環境活動の促進を図るため、2013年度から「環境貢献表彰制度」を新設しました。これは工場・事業所、生産準備部門を対象に、環境活動で大きな成果を挙げた部門を表彰するものです。工場・事業所部門では、すべての項目で環境負荷を低減するとともに、「みどりの日」を設定して地域を巻き込んだ環境促進活動を行った尾西工場、生産準備部門では、温室効果

ガスであるSF<sub>6</sub>\*の代替ガスへの切り替えを実施したSS生産準備部を表彰しました。なお、2014年度以降は審査の対象を拡大する予定です。

※SF<sub>6</sub>: 六フッ化硫黄



尾西工場、SS生産準備部を表彰

### ◆ グリーンカーテンの取り組み

平和町工場では社員の環境意識の向上や夏場のエネルギー削減を目的につる性植物のゴーヤを栽培して建物を覆い、室内の温度を下げるグリーンカーテンを実施。1時間当りの使用電力を3.8kWh低減することができました。

なお8月には、グリーンカーテンで実をつけたゴーヤを材料に、沖縄料理「ゴーヤチャンプル」の試食会も行いました。



グリーンカーテン



試食会

## 海外関係会社の環境管理体制の整備と環境監査の実施

豊田合成グループは国内外の環境管理レベルの統一化を図るために、当社本体で蓄積した技術やノウハウを活かして「グローバル環境マネジメント」を策定し、国内外関係会社の管理体制の向上や情報共有、順法管理を着実に実施しています。特に環境法規制が強化されている中国では、同地区の環境統括拠点が中心となって環境管理体制の強化を図っています。また、海外関係会社における現地環境監査も順次実施しています。2013年度は、事業のグローバル化の急進への対応として海外関係会社環境連絡会において、環境リスクや順法管理、環境負荷低減など環境保全の取り組みの必要性を全拠点長と再度共有化しました。また、環境マネジメントシステムの運用状

況の確認とさらなる相互レベルアップを目指し、北米3拠点、欧州2拠点、中国全拠点を訪問し環境監査を実施しました。2014年度もグローバル環境管理の充実に向け、継続的に現地環境監査を実施するなど、環境マネジメントシステム運用の徹底と連携強化を図ります。



海外環境監査

## 環境「異常・苦情ゼロ」活動で管理を強化

豊田合成グループは、コンプライアンスの徹底を図るため環境「異常・苦情ゼロ」活動を行っています。2013年度も他社不具合事例を分析し、同様の不具合を発生させないように全社の同類設備の点検と対策を図りました。さらに環境保全ワーキング

グループを立ち上げ、年4回各工場・事業所の排水処理設備の相互点検を実施。異常・苦情の未然防止を図った結果、国内外ともに環境違反はありませんでした。

## PCB含有機器の適正処分と保管

有害で難分解性のPCB(ポリ塩化ビフェニル)を含む使用済み変圧器や蛍光灯安定器を厳重に保管しています。これまでに高濃度PCB廃棄物の電力コンデンサ65台を適正に処分しています。2013年度より微量PCB廃棄物の変圧器、電



変圧器・電力コンデンサの搬出

力コンデンサなどの処理を開始しました。順次、適正処理を実施していきます。

区分	処理状況
高濃度PCB廃棄物	'06年度に電力コンデンサ(65台)を日本環境安全事業(株)豊田事業所で適正処理。
微量PCB廃棄物	'13年度に変圧器、電力コンデンサ(5台)を適正処理。

## 土壌・地下水の保全

過去に洗浄剤などで使用していたトリクロロエチレンなどの有害物質や敷地外からの汚染の監視と浄化に取り組んでいます。また、観測井戸を各工場に設置し、土壌汚染対策法の対象物質や油脂類による土壌・地下水の汚染がないことを定期的に確認しています。稲沢工場は過去2年間にわたり基準値を下回ったため、2012年度で行政への報告が終了しました。今後も監視活動を継続していきます。そのほか豊田合成グループの事業所について

土地履歴調査を行い、豊田合成及び国内関係会社の調査を完了しました。

事業所	対象	対策状況
春日工場	地下水	浄化中(敷地外からの汚染の可能性もあるが積極的に浄化)
稲沢工場	地下水	過去、使用実績のない物質が検出されたことから、測定結果のみ定期的に行政へ報告 ※2010年以降は、基準未達(行政報告終了)

## 「工場の森づくり」活動を国内外の拠点・関係会社に展開

豊田合成グループは、会社創立60周年を機に2009年から「工場の森づくり」活動を推進しています。この活動は生態系保護や地球温暖化対策という基本姿勢にとどまらず、①工場緑化の推進、②社員の環境意識(エコマインド)の向上と全員参加による一体感の醸成、③地域の人々と一緒に取り組むことによる地域社会との融合の3つを柱に、人と自然が共生できる環境を地域とともに作りあげることが目的としており、国内外約60拠点に約60万本の植樹を目標に活動しています。合わせて地域の自然環境に合った樹木をどんぐりから育て、自然の姿に戻す「本物の森づくり」を進めています。

植樹会は、地域の人々や従業員とその家族も楽しめるようにイベントを盛り込むなど工夫をこらし、参加された方々が一体となる植樹を行っています。さらに植樹した拠点では、定点観測を行って育成状況を記録し、従業員が草取りを行うなど、拠点ごと

に管理を続けています。

2013年度は、国内では瀬戸工場と関係会社の日乃出ゴム工業(株)、海外ではTG ケンタッキー(有)(アメリカ)で植樹会を実施しました。植樹本数は累計で約23万7,000本、植樹面積は約5万2,250平方メートル、延べ参加者は約2万7,400名に達しました。



瀬戸工場 2013年11月(日本)



日乃出ゴム工業(株) 2013年12月(日本)



TG ケンタッキー(有) 2014年3月(アメリカ)

### 育成状況

(平和町工場)



2009年11月植樹



2014年4月

(豊田合成タイランド(株))



2010年2月植樹



2014年4月

## [ 関係会社の取り組み事例 ]

### 豊信合成株式会社

安全・品質・環境を一体化した「ものづくり」を推進。安全衛生・福利厚生にも積極的に取り組む。

インストルメントパネルまわりの製品やマットクリップなど自動車の内装樹脂製品の製造・加工を行う豊信合成(株)は、生産面における環境保全活動とともに会社周辺の清掃活動など地域と連携した活動にも取り組んでいます。

省エネ活動では、射出成形機やコンプレッサーの集約、蛍光灯照明のLED化を行っています。また、冬場には蒸気配管に電熱線や断熱材を巻き保温することで、ボイラーの連続運転を停止させ、灯油使用量を約35%低減しました。排出物の低減活動では、樹脂製品の色替えで発生する廃材の削減、リサイクルに向けたリペレット化の拡大などを行っています。水使用量の低減では、成形機などの設備を冷却する水を循環使用することで使用量を最小限に留めています。

近隣地域への活動では、環境保全と社会貢献活動の両面から、毎月会社周辺の清掃活動を実施するほか、会社近くの通学路で交通安全のための立哨を行っています。

同社では、安全面や健康面の強化が生産不具合の未然防止(品質向上)に寄与し、省エネや排出物の低減など環境面にもつなが

っていると考え、安全・品質・環境保全を一体化させた「ものづくり」を実施しています。また、この考えを定着させるため、社内に「教育道場」を設け、定期的に周知を図っています。さらに従業員への安全・健康指導に加え、リフレッシュスペースとして屋外にウッドデッキなどを設置しました。こうした「安全な職場づくり」と「安全な人づくり」を柱とした安全衛生活動が評価され、2013年度長野労働局長優良賞を受賞しました。



豊信合成株式会社



「長野労働局長優良賞」受賞

DATE

- 所在地/長野県上伊那郡中川村
- 設立/1974年8月(昭和49年)
- 資本金/2億3,000万円
- 事業内容/自動車関連樹脂製品の製造・加工
- ISO14001 認証取得/2003年6月
- ISO9001 認証取得/2004年1月
- OSHMS 認証取得/2008年10月

### 豊田合成(張家港)塑料製品有限公司(張家港TGP)

環境規制の厳しい張家港市で事業を継続。労使関係でも高い評価を受ける。

自動車の樹脂部品の成形、めっき、塗装などを行う豊田合成(張家港)塑料製品有限公司(張家港TGP)は、上海市から北西へ約2時間の張家港市に立地しています。揚子江の下流という土地柄から厳しい環境規制を打ち出し、国の環境保護モデル都市(全国環保模範都市)に指定されている張家港市で、約10年事業を継続し、地元から環境と共存する優良企業として認められています。

省エネ活動では、成形機の冷水ポンプ改造やめっき給気装置のインバータ制御、2つある変電室を生産量に合わせて1つの変電室に統合するなどの取り組みによって使用電力を前年比9%低減しました。水使用量の低減では、めっき工程の排水を「減圧脱水装置」により、真空蒸留・固液分離し得られた凝縮回収水を再利用し、水使用量の低減を図っています。排出物の低減活動では、発生源対策とともにめっき製品も含めた樹脂端材・廃材などのリサイクルに取り組んでいます。環境保全活動では、有害な排水を出したり、土壌を汚染したりすることがないようにめっき工程の床面の定期的な補修を行っているほか、排水成分の監視システムなども導入しています。同社では設備異常や品質面での問題点を発見した従業員を表彰するブルーカード制度や改善に向けた提案制度を導入。こうした不具合の未然防止活動も環境保全活動につながっています。

社会貢献活動では、地域清掃や献血、寄附などを行っています。2012年3月、張家港TGSSと合同で「工場の森づくり」を実施。従業員とその家族や地域住民など約2,300名が参加し、

2万7,000本の植樹を行いました。2013年には良好な労使関係が高く評価され、張家港市人民政府から「労働関係優良企業」の表彰を受けました。



豊田合成(張家港)塑料製品有限公司(張家港TGP)



減圧脱水装置



清掃活動



工場の森づくり



「労働関係優良企業」受賞

DATE

- 所在地/Zhangjiagang Free Trade Zone, Jiangsu Province, 215634, China
- 設立/2003年11月(平成15年)
- 資本金/2300万ドル
- 従業員数/455名
- 事業内容/内外装部品の製造
- ISO14001 認証取得/2008年12月
- ISO/TS16949 認証取得/2011年10月

# 環境効率の高いLEDの普及を推進

環境にやさしいLED製品を一貫生産。  
普及活動を推進し、地球温暖化防止に貢献しています。

## 社内におけるLEDの利用拡大

当社では社内照明のLED化を進めています。前年度までに蛍光灯タイプ約7万本のLED化を完了し、新たに2015年度までに国内全事業所の高天井照明をLED照明に変更する取り組みを進めています。現在、九州地区やエコ先端工場を中心に8工場1事業所960台の切り替えを完了しました。これにより、平和工場など国内5事業所全ての照明をLEDに切り替えました\*。

今後もLEDメーカーとして地球環境保全と省エネルギーに貢献できるように、さらなる利用拡大と啓発活動に力を注いでいく考えです。

\*一部の特殊照明と特殊工程を除く



高天井LED照明

## LED事業の拡大

当社は「省電力」「長寿命」など優れた特性を持つ、環境効率の高いLED製品を素子から光源モジュールまで一貫して開発・生産しています。また、自動車用にランプ全体が均一に光る面発光LEDルームランプユニットを開発。電球に比べ2.5倍の照度と約84%の消費電力低減を実現しています。これまではノートパソコンやタブレット端末、自動車メーターなどの液晶ディスプレイ用の

バックライト光源に広く使われてきました。最近では照明用LED光源にも力を入れ、照明分野をバックライトに次ぐ第2の柱に育てる計画です。



オーバーヘッドコンソール



面発光LEDルームランプユニット

## ◆ イベントや展示会で積極的にPR

2013年度も、上海モーターショーをはじめ各種展示会の出展ブースの照明をオールLED化し省エネとLED技術をアピールしました。東京モーターショーでは直管2本分の照度となるスリムベースライトで全体を明るく省エネなブースを実現。業界初の3mLED直管ランプにもトライしました。メッセナゴヤでは豊臣機工(株)様と共同開発した植物育成専用LED照明を使った「ベジフルスタジオ」を紹介。また、11月にはNAGOYAアカリナイトに協賛し、4.8mの調光調色LEDランプを使った

大型ツリーを展示し、魅力的な夜を演出しました。



東京モーターショー 2013



床にLEDランプを使用



ベジフルスタジオ

## ◆ 工場・施設などへの導入を推進

LEDメーカーとしてLEDの利用拡大を促進するために、LED照明の自社導入を積極的に進めるとともに、トヨタグループを中心にオフィス・工場・施設などへのLED照明導入を提案しています。2013年度はトヨタ紡織九州(株)様のオフィスや中立電機(株)様の豊明工場をはじめ各社にLED照明が採用されました。



トヨタ紡織九州(株)様



中立電機(株)様 豊明工場

## ◆ 植物栽培や色温度の研究

当社はLED製品の評価・研究にも取り組んでいます。その1つとして野菜工場での実証実験に専用のLEDを提供しています。また、快適で効率的な照明空間のために照度と色温度の研究を実施。その成果として製品化されたのが「調光調色ベースライト」です。これは多目的室をシーンに合わせて照度と色温度を簡単に再現できることが評価され、グッドデザイン賞をサンケン電気(株)様と共同で受賞しました。(本社・美和技術センター・平和町工場に展示中)



調光調色ベースライト(NVR2ZA)



会議やイベントには昼白色で演出



飲食やパーティには電球色で演出

# 環境コスト

事業活動において環境保全にかかったコストを正しく把握し、適切な環境保全活動を行っていきます。

2013年度の環境コストは、研究開発、事業エリア内(高天井照明のLED化、リサイクル、温室効果ガス低減)、社会活動(工場の森づくり)のコストに重点を置いています。経済効果としては、廃

材の発生源対策やリサイクルなどにより、廃棄物処理費用を低減できたほか、ユーティリティ設備の効率化などで電力費用の低減を実現しています。

## 環境コスト

(単位：億円)

コスト分類	豊田合成	国内関係会社計
研究開発コスト <sup>※1</sup>	7.0	—
事業エリア内コスト <sup>※2</sup>	14.5	1.2
管理活動コスト <sup>※3</sup>	1.2	0.2
社会活動コスト <sup>※4</sup>	1.1	0.1
環境損傷対応コスト <sup>※5</sup>	0.1	0
合計	23.9	1.5

※1 環境負荷低減に資する製品の研究開発に要したコスト

※2 公害防止、省エネ、廃棄物処理など生産で生じる環境負荷低減に要したコスト

※3 教育、環境マネジメントシステム維持、測定等管理に要したコスト

※4 緑化、美化など社会的取り組みに関するコスト

※5 企業などの事業活動が環境に与える損傷に対応して生じたコスト

## 効果

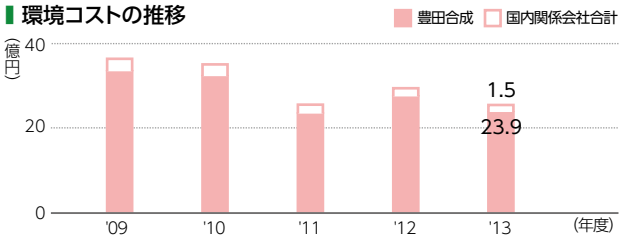
(単位：億円)

項目	経済効果 <sup>※6</sup>	
	豊田合成	国内関係会社計
エネルギー費用	1.5	0.5
廃棄物処理費用	2.0	1.0
合計	3.5	1.5
項目	物量効果 <sup>※7</sup>	
温暖化防止(CO <sub>2</sub> 削減量)	5,500t-CO <sub>2</sub>	
排出物低減(排出物削減量)	895t	
順法活動	P41に掲載 (国内工場データはホームページに掲載)	

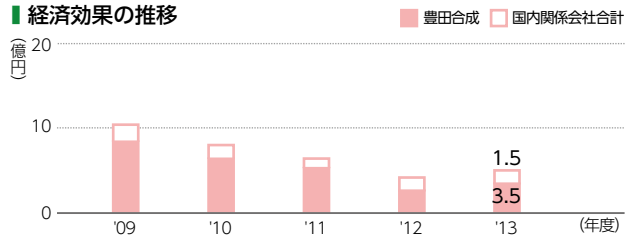
※6 効果の算出は確実な根拠に基づき把握が可能なものについての効果集計分です

※7 物量効果は、豊田合成単独分のみで算出

## 環境コストの推移



## 経済効果の推移



環境データはwebサイトをご参照ください。なお、CO<sub>2</sub>排出量については第三者検証を受審しています。 <http://www.toyoda-gosei.co.jp/csr/>

## 第三者意見



名古屋大学  
大学院環境学研究所 教授  
佐野 充

本レポートの目的は、ステークホルダーの皆さんに高分子・光半導体分野の製品・サービスのグローバルサプライヤーとしての豊田合成の活動を報告することにあり、環境報告の観点から第三者意見を述べます。

環境基本方針に基づいて作られた2011年から2015年までの環境取り組みの実行計画である第5次環境取り組みプランの進捗状況は、すべての評価項目で年度目標を達成するとともに、既に2015年目標を達成した項目もあり、順調に経過しています。それぞれのテーマに記載された実施事項は、従業員一人ひとりの活動の成果でしょう。ステークホルダーの皆さんが応援していることを忘れずに、今後も活動を継続して下さい。

研究開発面では、環境負荷を低減するために樹脂化による軽量化部品の開発を一層進めており、具体例としてインタークーラー冷却配管について報告。また、従来に比べて質量(体積)を半分にした金型のコンパクト化で確立した、ノウハウを盛り込み開発した技術情報を、仕入先にも公開するといった、生産面での環境負荷低減と国内における競争力強化の両立を図るという興味深い内容でした。

体制面では、製品含有化学物質の管理充実について、どの取り組みをいつ行ったのかが分かりやすく図示されており、グローバルサプライヤーとして化学物質の確実な管理をしていることに感心しました。また、海外関係会社の環境管理体制の整備なども十分に行われており、環境マネジメントシステムの運用徹底と強化が分かります。

残り2年となった第5次環境取り組みプランの目標を完全に達成するため、これまでの活動を継続するとともに、時代を先取りし業界をリードするために、価格競争力とより一層の特長を持った豊田合成の製品・サービスを実現されることを今後も期待します。

# 経営成績及び財政状態の報告・分析

## 経営成績に関する分析

当期の世界経済は、一部の新興国で景気の減速感がみられましたものの、米国や日本などの先進国を中心に、景気は総じて緩やかな回復基調となりました。

自動車業界におきましても、これまで成長を続けてきた東南アジアなどの新興国で生産台数の伸びの鈍化がありました。好調な北米や中国市場の下支えと国内市場の新型車投入効果などにより、世界市場全体としては、堅調に推移してまいりました。

また、LED業界におきましては、スマートフォンやタブレットなどのモバイル端末やLED照明の普及拡大により市場の成長が続く一方で、新興企業の市場参入により、価格競争はより一層激化してまいりました。

このような情勢の中で当社グループは、お客様に満足いただけるサプライヤーを目指し、昨年に引き続き「顧客満足度を高める一層の品質改善」を会社方針の第一に掲げ、全従業員を挙げて「品質こだわり活動」を推進し、さらなる品質向上に努めてまいりました。

将来の持続的成長に向けては、「製品競争力の向上による事業拡大」と「伸びる市場での積極的な事業展開」を重点として取り組んでまいりました。

「製品競争力の向上による事業拡大」として自動車部品事業では、高精度の成形技術を用いて高い意匠性を実現した「アクリル透明ラジエータグリル」を開発し、トヨタ自動車(株)の新型ハリアーに搭載されました。また、エアバッグの展開速度を従来よりも速くする等、性能を大幅に向上させたニーエアバッグを開発しました。この製品開発にあたっては、設計仕様を共通化するとともに、シンプルで作り易い製品構造を実現することで、部品の種類を大幅に削減しております。この取り組みにより複数車種間の装着を可能としたことが評価され、お客様から表彰を受けました。オプトエレクトロニクス事業では、設置が容易な工場向けのLED蛍光灯「スリムベースライト」を開発し販売を開始しました。従来の蛍光灯に比べ、寿命は約6倍になり、消費エネルギーや重量は約半減という特長を持ってあります。さらに、工場や体育館などの高天井施設に使用される水銀灯と同等の明るさを持つ「大光量LED光源」を開発し、「高天井LED照明」の販売も開始しました。

また、性能面の向上のみならず、広く一般消費者の皆様にも親しまれる製品づくりにも力を注いでおり、その取り組みが評価され、快適な照度・色への調整が容易なLED蛍光灯「サンケンネオビュー」が、2013年度「グッドデザイン賞」を受賞しました。

さらに新製品の開発にとどまらず、事業を支える物流の効率化にも取り組んでまいりました。物流子会社であるTGロジスティクス(株)が、トヨタ生産方式の柱である「ジャストインタイム」と積載効率向上の両立を図った物流方式の改善に取り組んだ結果、物流業界で権威のある「ロジスティクス大賞」を受賞しました。

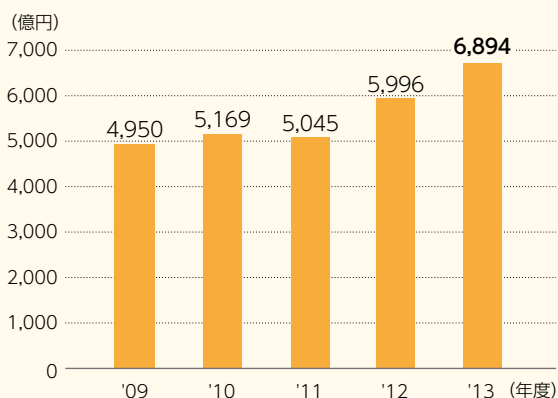
「伸びる市場での積極的な事業展開」では、海外市場の重要性がますます高まるなか、グローバルでの投資を積極的に進めてまいりました。

欧州地域では、欧州自動車メーカーとのビジネス拡大と収益基盤の強化を図るため、ドイツのメテオール社からゴム事業を譲り受けて新会社を設立しました。これにより当社グループはウエザーストリップ製品において、日・米・欧の先進国市場で開発・製造・販売の機能を持つ唯一の自動車部品メーカーとなりました。

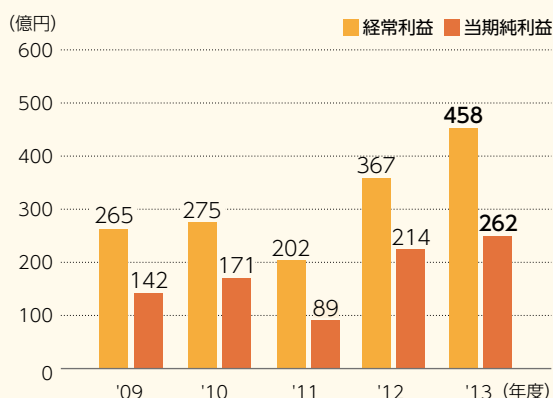
米州地域では、ゴムホースの競争力と製品供給体制を強化することを狙いに、メキシコに3番目の生産子会社となる豊田合成ラバーメキシコ(株)を設立しました。

豪亜地域では、インドネシアの(株)豊田合成セーフティシステム

### 売上高



### 経常利益・当期純利益



ズインドネシアで、現在のエアバッグ生産能力を5倍に引き上げる工場拡張と設備の能力増強投資を行いました。また、中国ではオートモーティブシーリング製品のさらなる拡販に向けて、天津星光橡塑(株)の工場を1.5倍に拡張するとともに、効率性の高い生産ラインを導入しました。

この結果、当期の売上高につきましては、自動車部品事業が自動車生産台数増加や欧米系カーメーカーへの積極的な拡販に

加え、円高修正による為替影響もあり大幅な増収となり、全体では6,894億円(前期比 15.0%増)と、過去最高の売上となりました。利益につきましても、自動車部品事業の増販効果とグループの総力を挙げた原価低減活動などの合理化効果により、営業利益は437億円(前期比 19.3%増)、経常利益は458億円(前期比 24.7%増)、当期純利益は262億円(前期比 22.3%増)となり、いずれの利益も増益を確保することができました。

## 財政状態に関する分析

### ◆ 資産、負債及び純資産の状況

当期末における総資産は、主に有形固定資産や現金及び預金の増加に伴い、前期末に比べ522億円増加し、5,418億円となりました。また、負債は主に借入金の増加により、前期末に比べ

240億円増加し、2,415億円となりました。

純資産につきましては、主に利益剰余金の増加により前期末に比べ281億円増加し、3,002億円となりました。

### ◆ キャッシュ・フローの状況

当期末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、前期789億円に比べ130億円増加し、920億円となりました。

当期における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、以下のとおりであります。

#### ■ 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、前期524億円の収入に比べ、554億円の収入となり、29億円増加しました。これは、税金等調整前当期純利益や減価償却費などによるものです。

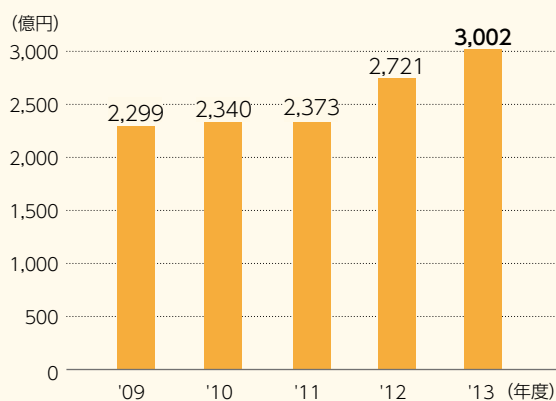
#### ■ 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、前期61億円の支出に比べ、7億円の支出となり、53億円減少しました。これは、配当金の支払や長期借入とその返済による収支によるものです。

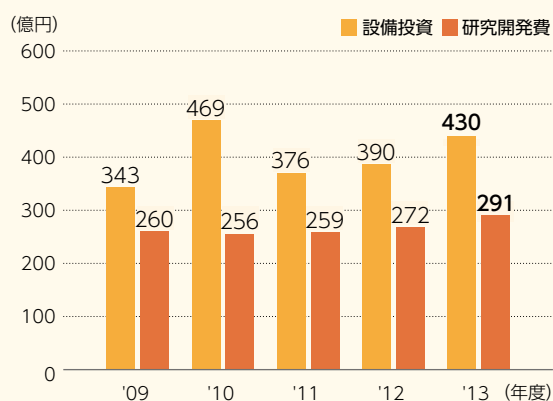
#### ■ 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、前期409億円の支出に比べ、456億円の支出となり、46億円増加しました。これは、有形固定資産の取得による支出が増加したことによるものです。

#### ■ 純資産



#### ■ 設備投資・研究開発費



# 5年間の連結財務サマリー

(単位 百万円) (百万円未満切り捨て)

	2013年度	2012年度	2011年度	2010年度	2009年度
<b>会計年度</b>					
売上高	689,477	599,615	504,518	516,982	495,002
営業利益	43,798	36,706	20,415	29,952	26,202
経常利益	45,847	36,777	20,287	27,549	26,574
当期純利益	26,214	21,429	8,971	17,116	14,255
海外売上高	387,152	303,063	233,650	242,158	233,425
減価償却費	38,743	38,633	41,964	44,481	43,007
資本的支出	43,085	39,097	37,623	47,832	35,190
研究開発費	29,170	27,279	25,936	25,617	26,066
<b>1株当たりデータ(円)</b>					
当期純利益	202.54	165.63	69.33	132.27	110.19
当期純利益(潜在株式調整後)	202.53	—	—	132.27	110.17
純資産	2,161.58	1,955.47	1,708.41	1,680.96	1,650.90
配当金	56	44	36	36	36
<b>会計年度末</b>					
総資産	541,877	489,644	454,794	416,562	434,344
純資産	300,279	272,144	237,367	234,074	229,915
資本金	28,027	28,027	28,027	28,027	28,027
発行済株式数(自己株式を除く)(千株)	129,437	129,406	129,407	129,407	129,399
<b>キャッシュ・フロー</b>					
営業活動によるキャッシュ・フロー	55,448	52,451	51,112	62,586	68,199
投資活動によるキャッシュ・フロー	△45,680	△40,989	△37,027	△52,579	△36,574
財務活動によるキャッシュ・フロー	△732	△6,128	2,224	△18,785	△7,426
現金及び現金同等物	92,020	78,924	69,914	54,326	67,490
<b>指標等</b>					
自己資本当期純利益率(ROE)(%) <sup>注1</sup>	9.8	9.0	4.1	7.9	6.9
総資産経常利益率(ROA)(%) <sup>注1</sup>	8.9	7.8	4.7	6.5	6.4
売上高営業利益率(ROS)(%)	6.4	6.1	4.0	5.8	5.3
デットエクイティレシオ(%) <sup>注2</sup>	24.9	23.4	24.3	21.2	27.7
インタレストカバレッジ(倍) <sup>注3</sup>	39.4	44.7	21.3	35.7	24.2
<b>従業員数</b>	31,672	30,190	29,108	26,964	26,084

注1 1株当たり当期純利益、ROE、ROAは、それぞれ各連結会計年度における平均の株式数、純資産、総資産に基づいて算定しています。

注2 デットエクイティレシオ=有利子負債÷純資産

注3 インタレストカバレッジ=(営業利益+受取利息および配当金)÷支払利息



# 連結貸借対照表 / 連結損益計算書

## 連結貸借対照表

	(単位 百万円) (百万円未満切り捨て)			(単位 百万円) (百万円未満切り捨て)	
	2013年度	2012年度		2013年度	2012年度
<b>資産の部</b>	<b>541,877</b>	<b>489,644</b>	<b>負債の部</b>	<b>241,598</b>	<b>217,500</b>
流動資産	279,281	244,798	流動負債	168,136	157,748
現金預金 等	92,364	79,073	支払手形及び買掛金	75,928	72,287
受取手形及び売掛金	114,821	102,281	短期借入金 等	43,565	40,470
棚卸資産	48,583	48,785	その他	48,642	44,989
その他	23,511	14,658	固定負債	73,462	59,751
固定資産	262,596	244,846	長期借入金	31,138	23,329
有形固定資産	210,214	196,163	その他	42,324	36,422
無形固定資産	2,291	2,524	純資産の部	300,279	272,144
投資その他の資産	50,090	46,158	株主資本	275,840	255,201
資産合計	541,877	489,644	資本金	28,027	28,027
			資本剰余金	29,882	29,844
			利益剰余金等	217,930	197,329
			その他の包括利益累計額	3,949	▲2,192
			新株予約権	128	447
			少数株主持分	20,359	18,688
			負債純資産合計	541,877	489,644

## 連結損益計算書

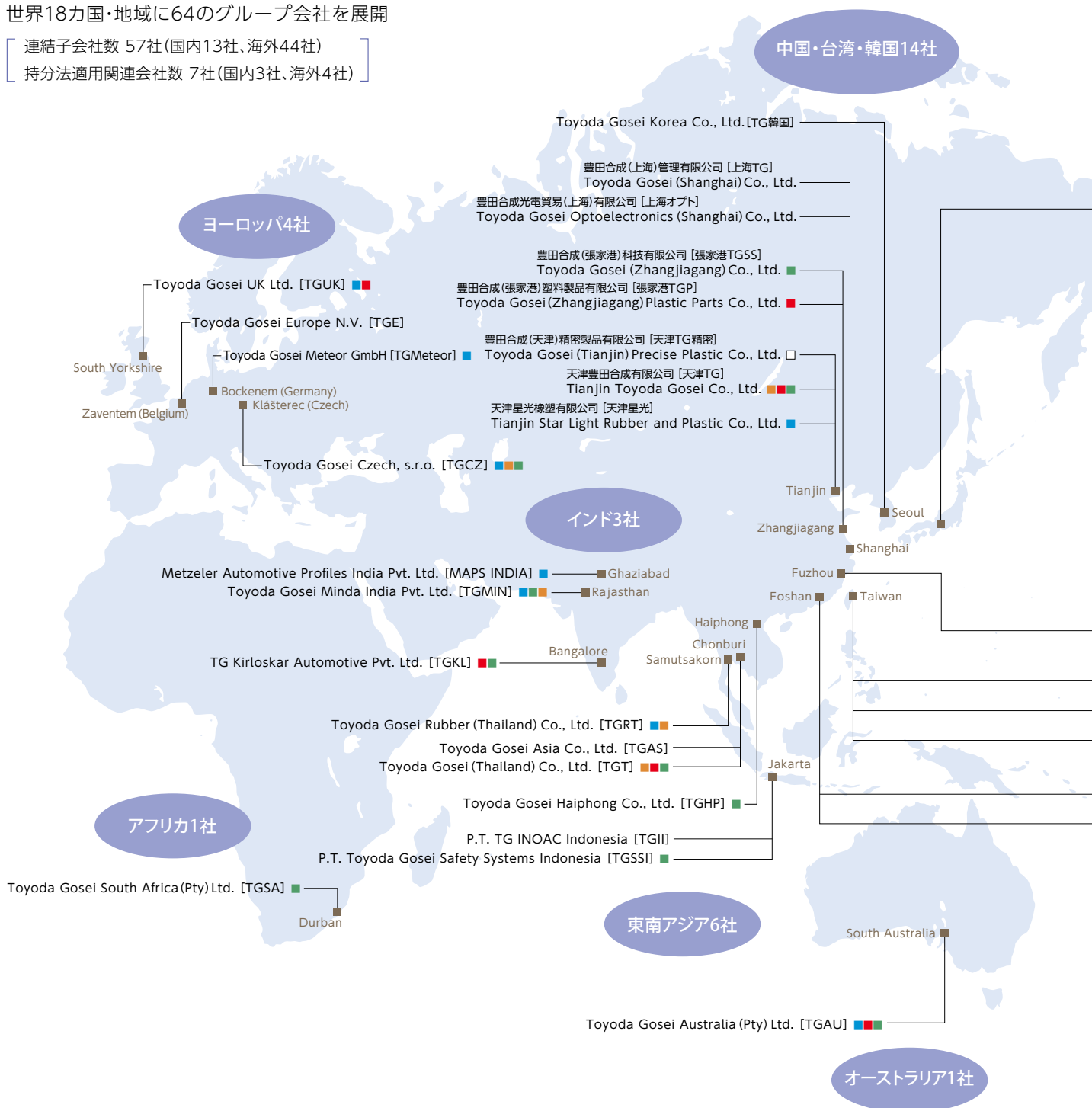
	(単位 百万円) (百万円未満切り捨て)			(単位 百万円) (百万円未満切り捨て)	
	2013年度	2012年度		2013年度	2012年度
売上高	689,477	599,615	特別利益	287	224
売上原価	597,062	521,051	新株予約権戻入益	287	224
売上総利益	92,415	78,563	特別損失	33	430
販売費及び一般管理費	48,616	41,857	減損損失	-	427
営業利益	43,798	36,706	その他の特別損失	33	3
営業外収益	5,494	5,083	税金等調整前当期純利益	46,101	36,571
受取利息及び配当金	1,299	823	法人税、住民税及び事業税	16,162	12,998
その他	4,195	4,259	法人税等調整額	953	457
営業外費用	3,445	5,012	少数株主持分調整前当期純利益	28,985	23,115
支払利息	1,144	838	少数株主利益	2,771	1,685
その他	2,301	4,173	当期純利益	26,214	21,429
経営利益	45,847	36,777			

# コーポレートデータ

## グローバルネットワーク 2014年6月現在

世界18カ国・地域に64のグループ会社を展開

連結子会社数 57社(国内13社、海外44社)  
 持分法適用関連会社数 7社(国内3社、海外4社)



本社



Toyoda Gosei North America Corporation



Toyoda Gosei Asia Co., Ltd.



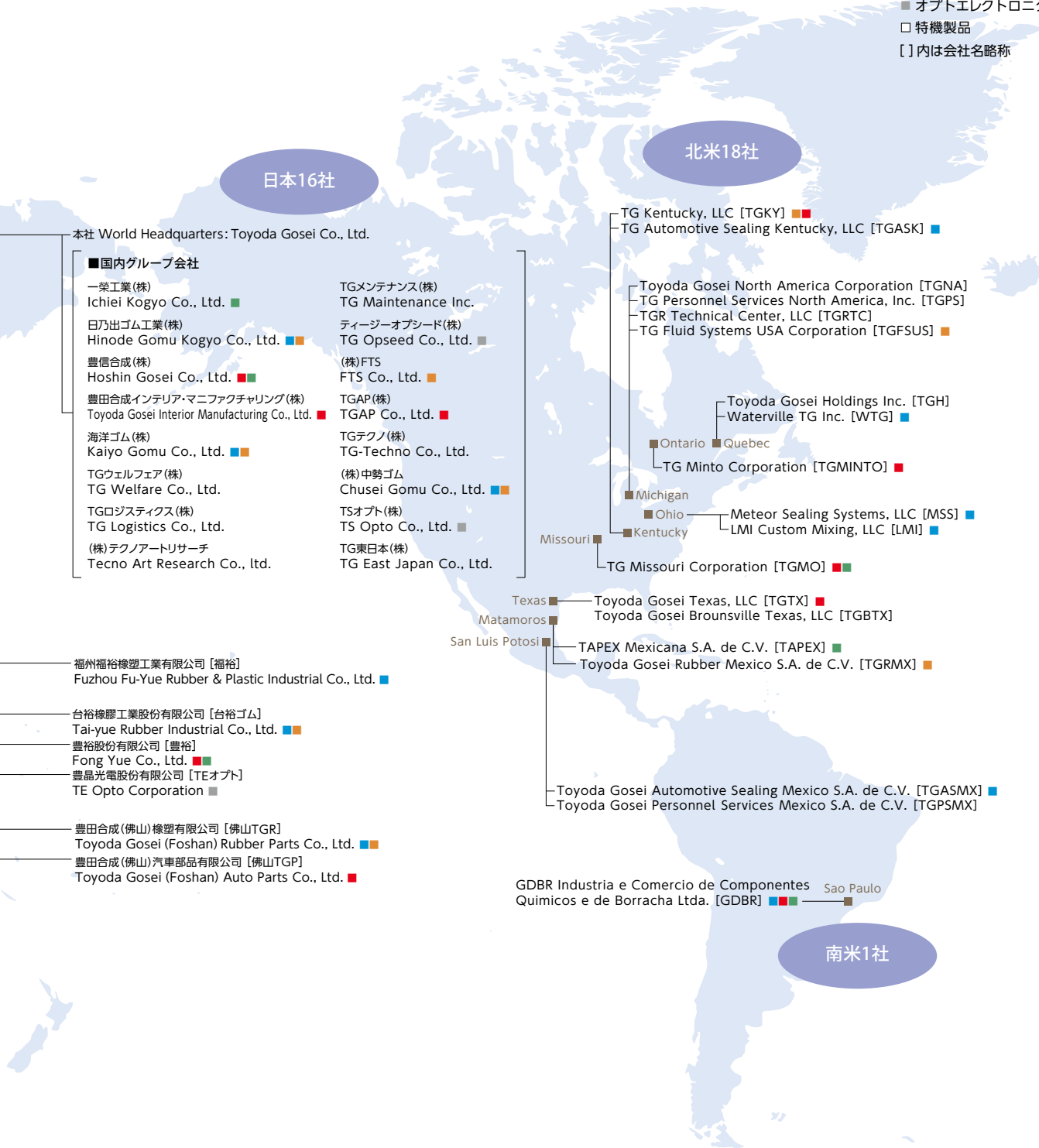
Toyoda Gosei Europe N.V.



TG Missouri Corporation

生産品目

- オートモーティブシーリング製品
- 機能部品
- 内外装部品
- セーフティシステム製品
- オプトエレクトロニクス製品
- 特機製品
- [ ] 内は会社名略称



日本16社

北米18社

南米1社

本社 World Headquarters: Toyoda Gosei Co., Ltd.

■国内グループ会社

- |  |   |
|--|---|
| 一榮工業(株)<br>Ichiei Kogyo Co., Ltd. ■  | TGメンテナンス(株)<br>TG Maintenance Inc. ■    |
| 日乃出ゴム工業(株)<br>Hinode Gomu Kogyo Co., Ltd. ■                                | ティージーオープシード(株)<br>TG Opseed Co., Ltd. ■ |
| 豊信合成(株)<br>Hoshin Gosei Co., Ltd. ■  | (株)FTS<br>FTS Co., Ltd. ■               |
| 豊田合成インテリア・マニファクチャリング(株)<br>Toyoda Gosei Interior Manufacturing Co., Ltd. ■ | TGAP(株)<br>TGAP Co., Ltd. ■             |
| 海洋ゴム(株)<br>Kaiyo Gomu Co., Ltd. ■  | TGテクノ(株)<br>TG-Techno Co., Ltd. ■       |
| TGウェルフェア(株)<br>TG Welfare Co., Ltd. ■                                      | (株)中勢ゴム<br>Chusei Gomu Co., Ltd. ■      |
| TGロジスティクス(株)<br>TG Logistics Co., Ltd. ■                                   | TSオプト(株)<br>TS Opto Co., Ltd. ■         |
| (株)テクノアートリサーチ<br>Tecno Art Research Co., Ltd. ■                            | TG東日本(株)<br>TG East Japan Co., Ltd. ■   |

- TG Kentucky, LLC [TGKY] ■
- TG Automotive Sealing Kentucky, LLC [TGASK] ■
- Toyoda Gosei North America Corporation [TGNA]
- TG Personnel Services North America, Inc. [TGPS]
- TGR Technical Center, LLC [TGRTC]
- TG Fluid Systems USA Corporation [TGFSUS] ■
- Toyoda Gosei Holdings Inc. [TGH]
- Waterville TG Inc. [WTG] ■
- Ontario
- Quebec
- TG Minto Corporation [TGMINTO] ■
- Michigan
- Ohio
- Meteor Sealing Systems, LLC [MSS] ■
- Kentucky
- LMI Custom Mixing, LLC [LMI] ■
- Missouri
- TG Missouri Corporation [TGMO] ■

- Texas
- Matamoros
- San Luis Potosi
- Toyoda Gosei Texas, LLC [TGTX] ■
- Toyoda Gosei Brounsville Texas, LLC [TGBTX]
- TAPEX Mexicana S.A. de C.V. [TAPEX] ■
- Toyoda Gosei Rubber Mexico S.A. de C.V. [TGRMX] ■
- Toyoda Gosei Automotive Sealing Mexico S.A. de C.V. [TGASMEX] ■
- Toyoda Gosei Personnel Services Mexico S.A. de C.V. [TGPSMX]

- GDBR Industria e Comercio de Componentes Quimicos e de Borracha Ltda. [GDBR] ■
- Sao Paulo

- 福州福裕橡塑工業有限公司【福裕】  
Fuzhou Fu-Yue Rubber & Plastic Industrial Co., Ltd. ■
- 台裕橡膠工業股份有限公司【台裕ゴム】  
Tai-yue Rubber Industrial Co., Ltd. ■
- 豊裕股份有限公司【豊裕】  
Fong Yue Co., Ltd. ■
- 豊晶光電股份有限公司【TEオプト】  
TE Opto Corporation ■
- 豊田合成(佛山)橡塑有限公司【佛山TGR】  
Toyoda Gosei (Foshan) Rubber Parts Co., Ltd. ■
- 豊田合成(佛山)汽車部品有限公司【佛山TGP】  
Toyoda Gosei (Foshan) Auto Parts Co., Ltd. ■



Toyoda Gosei Automotive Sealing Mexico S.A. DE C.V.



Tianjin Toyoda Gosei Co., Ltd.



Toyoda Gosei Minda India Pvt. Ltd.



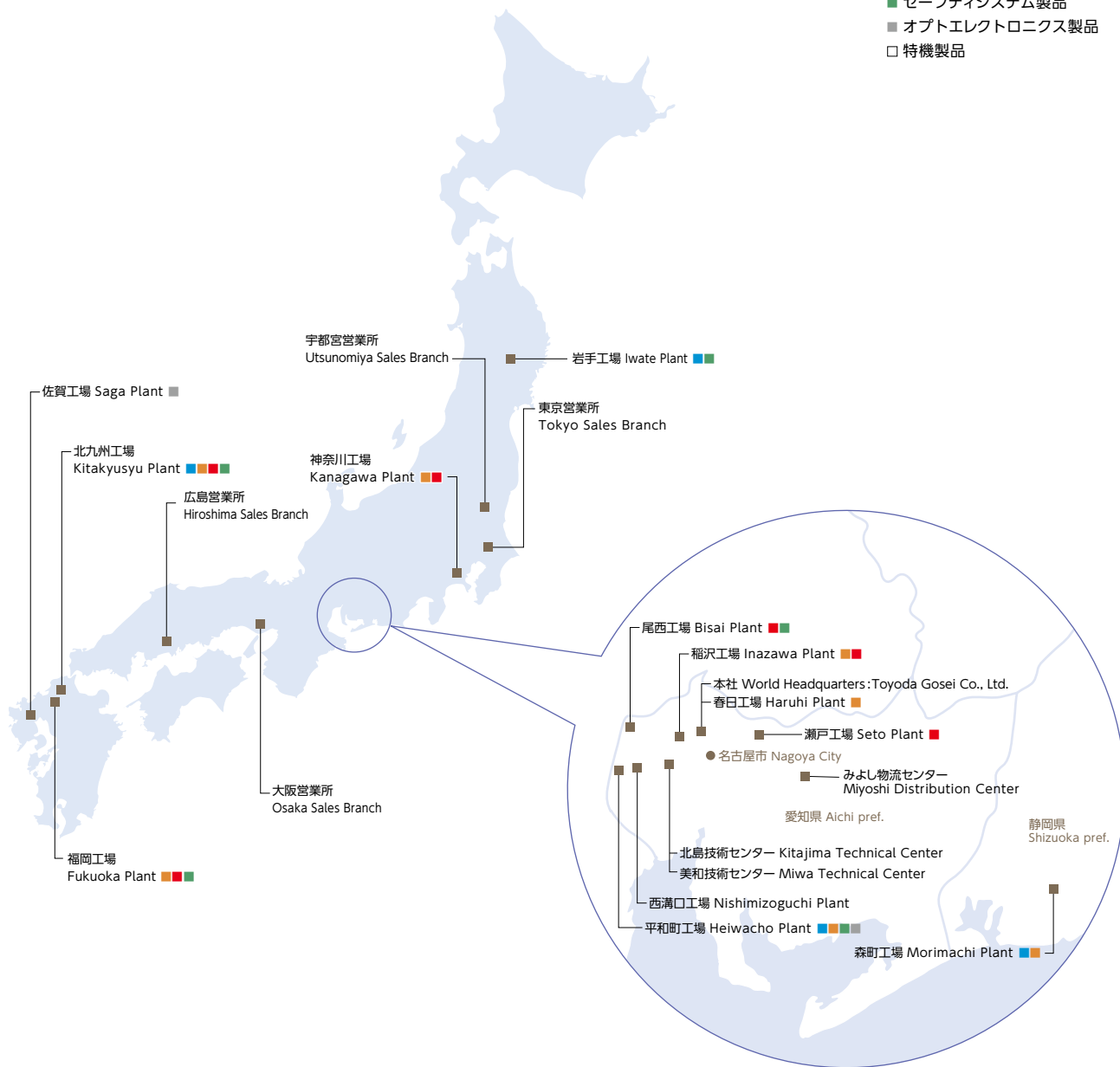
TG Kirloskar Automotive Pvt. Ltd.



Toyoda Gosei Czech, s.r.o.

生産品目

- オートモーティブシーリング製品
- 機能部品
- 内外装部品
- セーフティシステム製品
- オプトエレクトロニクス製品
- 特機製品



北島技術センター



美和技術センター



みよし物流センター



本社/春日工場



稲沢工場



森町工場



尾西工場



平和町工場



瀬戸工場

社章/商号  **豊田合成株式会社**  
TOYODA GOSEI CO., LTD.

本社所在地 愛知県清須市春日長畑1番地

設立 1949年6月15日

資本金 28,027百万円

従業員数 連結 31,672名  
単独 6,663名

決算期 3月31日

取締役・監査役・執行役員 2014年6月19日現在

取締役社長

荒島 正

取締役副社長

宮崎 直樹 清水 信行 藤原 信夫

取締役・専務執行役員

市川 昌好 大竹 一美

取締役・常務執行役員

小林 大祐

常勤監査役

松井 靖 小栗 達

監査役

佐々木 眞一 林 芳郎 葉玉 匡美

常務執行役員

宮本 康司 隅田 淳 森 三夫  
橋本 正一 山田 友宣

執行役員

後藤 眞一 田中 元雄 前田 寿昭  
横井 俊広 安田 洋 小山 享  
田辺 勝巳 石川 卓 堀江 亮  
大西 亮 藤田 佳幸

株式の状況 2014年3月31日現在

株式の総数 発行可能株式総数 200,000,000株  
発行済株式の総数 130,010,011株

上場取引所 東京証券取引所及び名古屋証券取引所

株主数 14,935名

株主名簿 三菱UFJ信託銀行株式会社  
管理人 〒137-8081  
東京都江東区東砂七丁目10番11号  
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
TEL.0120-232-711 (通話料無料)

大株主 (上位10名)

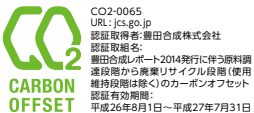
株主名	持株数 (千株)	出資比率 (%)
トヨタ自動車株式会社	55,459	42.65
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	7,183	5.52
株式会社三井住友銀行	5,049	3.88
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	4,600	3.53
日本生命保険相互会社	1,611	1.23
第一生命保険株式会社	1,493	1.14
三井住友海上火災保険株式会社	1,162	0.89
大榮産業株式会社	1,031	0.79
豊田合成従業員持株会	1,008	0.77
株式会社デンソー	1,002	0.77



「人と地球に優しい環境づくり」に向け、地球環境保護、資源の有効活用の観点から環境の負荷になるものを「つぐらない(つかわない)」「すてない」「まかせない」の3点を活動の基本とし、3つの“ない”を合言葉にして“ナイスリー”としました。「人と地球にナイスリー」は、豊田合成の環境活動のトレードマークです。



- 印刷用紙は適切に管理された森林で生産されたことを示すFSC認証紙を使用しています。
- インキはVOC(揮発性有機化合物)を含まない植物油インキを使用しています。
- 印刷は有害な廃液を出さない水なし印刷を採用しています。
- グリーン基準に適合した印刷資材を使用して、グリーンプリンティング認定工場が印刷した環境配慮製品です。
- 視認性、判読性に優れたユニバーサルデザインフォント(書体)を使用しています。
- 色覚の個人差を問わず、多くの人たちが見やすいよう表示を配慮するカラーユニバーサルデザインを採用しています。



- 豊田合成レポートの作成において、原材料調達から印刷、廃棄・リサイクルの工程(使用維持段階は除く)で発生するCO<sub>2</sub>をカーボンオフセットしています。

オフセット数量: 4tCO<sub>2</sub>

プロジェクト実施国: インド共和国

プロジェクト名: インド・カルナタカ州 NSL27.65MW 風力発電プロジェクト

## 豊田合成株式会社

総務部 広報室

〒452-8564

愛知県清須市春日長畑1番地

Tel: 052-400-1055

Fax: 052-409-7491

<http://www.toyoda-gosei.co.jp/>

この印刷物を回収・リサイクルに出しましょう。

2014.07.3.700 TP Japan



# 環境データ

【期 間】 ・13年4月～14年3月

【大 気】 ・単位はNOx:ppm、ばいじん:mg/m<sup>3</sup>N・ND:定量下限値以下(検出されない)・実績の値は測定実績の平均値を示しています。

【水 質】 ・単位はpHを除きmg/L・pH:水素イオン濃度・BOD:生物化学的酸素要求量・SS:水中の懸濁物質濃度・ND:定量下限値以下(検出されない)・実績の値は測定実績の平均値を示しています。

【地 下 水】 ・単位はmg/L・ND:定量下限値以下(検出されない)

【PRTR※データ】 ・単位はkg※1kg以下の数値は四捨五入しています。総量と取扱量の数値が一致しない場合があります。

【資源利用・排出量データ】 ・単位は廃棄物:t/年、温室効果ガス:t-CO<sub>2</sub>/年、水:万m<sup>3</sup>/年

※Pollutant Release and Transfer Register(環境汚染物質排出・移動登録制度)

## ■ 主な国内工場データ

**春日工場**

愛知県清須市  
春日長畑1番地

主要製品

- 機能部品

### ■ 大気(大気汚染防止法、県条例等)

測定項目	規制値	実績
ばいじん	0.1	ND
コーゼネ(都市ガス)	0.05	ND
NOx	150	48
コーゼネ(都市ガス)	600	105

### ■ 地下水

測定項目	環境基準	実績
トリクロロエチレン	0.03	ND
シス-1,2-ジクロロエチレン	0.04	ND～0.028

※豊田合成レポートP41を参照

■ 法律等違反なし ■ 苦情なし

### ■ PRTRデータ

物質名	物質番号(号番号)	取扱量	排出量			移動量		リサイクル量	除去(処理)の合計	消費(製品)の合計
			大気	水域	土壌	下水道への移動	廃棄物としての移動量			
2-イミダゾリジンチオン	42	2,058	0	0	0	0	305	1	0	1,751
トルエン	300	1,343	1,114	0	0	0	228	0	0	0
フタル酸ジノルマルブチル	354	1,395	0	0	0	0	209	0	0	1,186

### ■ 資源利用・排出量データ

区分	実績	
廃棄物	発生量	1,995
	排出物量	1,456
	最終処分量	0
温室効果ガス	CO <sub>2</sub> 排出量	8,200
水	使用量	35

### ■ 水質(水質汚濁防止法、県条例等)

測定項目	規制値	実績
pH	5.8～8.6	7.3
BOD	25	5.1
SS	30	1.8
油	5	0.1
全窒素	120	1.4
全リン	16	0.5
チウラム	0.06	ND
ふっ素	8	0.3

**森町工場**

静岡県周智郡森町  
睦実1310番地の128

主要製品

- オートモーティブシーリング製品
- 機能部品

### ■ 大気(大気汚染防止法、県条例等)

測定項目	規制値	実績
ばいじん	0.3	0.01
NOx	260	99

■ 法律等違反なし ■ 苦情なし

### ■ PRTRデータ

物質名	物質番号(号番号)	取扱量	排出量			移動量		リサイクル量	除去(処理)の合計	消費(製品)の合計
			大気	水域	土壌	下水道への移動	廃棄物としての移動量			
アンチモン及びその化合物	31	4,662	0	0	0	0	233	47	0	4,382
2-イミダゾリジンチオン	42	2,783	0	0	0	0	111	111	0	2,561
エチルベンゼン	53	12,497	8,398	0	0	0	1,550	1,950	0	600
キシレン	80	14,355	9,671	0	0	0	1,804	2,227	0	653
ジスルフィラム	259	1,406	0	0	0	0	76	0	0	1,330
テトラメチルチウラムジスルフィド	268	12,274	0	0	0	0	663	0	0	11,611
トルエン	300	65,586	33,166	0	0	0	11,721	18,939	0	1,760
ビス(N,N-ジメチルジチオカルバミン酸)亜鉛	328	6,494	0	0	0	0	260	260	0	5,975
フタル酸ジノルマルブチル	354	14,454	0	0	0	0	723	145	0	13,587
フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	355	2,850	0	0	0	0	99	21	0	2,730
無水フタル酸	413	1,083	0	0	0	0	50	10	0	1,023
メチルナフタレン	438	20,297	101	0	0	0	0	0	20,196	0
メチルビス(4,1-フェニル)イソシアネート	448	3,874	0	0	0	0	387	0	0	3,486
2-メルカプトベンゾチアゾール	452	41,144	0	0	0	0	2,222	0	0	38,923

### ■ 資源利用・排出量データ

区分	実績	
廃棄物	発生量	4,914
	排出物量	3,765
	最終処分量	0
温室効果ガス	CO <sub>2</sub> 排出量	26,600
水	使用量	19

### ■ 水質(水質汚濁防止法、県条例等)

測定項目	規制値	実績
pH	5.8～8.5	7.7
BOD	25	5.8
SS	50	6.2
油	5	ND
チウラム	0.06	ND
亜鉛	0.5	0.18

## 平和町工場

愛知県稲沢市平和町  
下三宅折口710

### 主要製品

- ・オートモーティブシーリング製品
- ・機能部品
- ・セーフティシステム製品
- ・オプトエレクトロニクス製品

### ■大気(大気汚染防止法、県条例等)

測定項目	規制値	実績	
ばいじん	ボイラー(重油)	0.15	ND
	ボイラー(都市ガス)	0.05	ND
	コージェネ(都市ガス)	0.05	ND
NOx	ボイラー(重油)	140	69
	ボイラー(都市ガス)	120	36
	コージェネ(都市ガス)	200	94

■法律等違反なし ■苦情なし

### ■PRTRデータ

物質名	物質番号(号番号)	取扱量	排出量			移動量		リサイクル量	除去(処理)の合計	消費(製品)の合計
			大気	水域	土壌	下水道への移動	廃棄物としての移動量			
2-アミノエタノール	20	36,981	4	0	0	74	36,903	0	0	0
メチルナフタレン	438	1,969	10	0	0	0	0	0	1,959	0

### ■資源利用・排出量データ

区分	実績	
廃棄物	発生量	1,776
	排出物量	1,549
	最終処分量	0
温室効果ガス	CO <sub>2</sub> 排出量	20,000
	PFC排出量	1,200
	HFC排出量	400
水	使用量	27

### ■水質(下水道法、県条例等)

測定項目	規制値	実績
pH	5~9	7.8
BOD	600	132
SS	600	55.8
油	30	4.6
全窒素	240	25.5
全リン	32	1.8
ふっ素	8	0.3

## 稲沢工場

愛知県稲沢市北島町  
米屋境1番地

### 主要製品

- ・内外装部品
- ・機能部品

### ■大気(大気汚染防止法、県条例等)

測定項目	規制値	実績	
NOx	ボイラー(都市ガス)	150	62
	コージェネ(都市ガス)	600	134

### ■地下水

測定項目	環境基準	実績
トリクロロエチレン <sup>※1</sup>	0.03	ND
シス-1,2-ジクロロエチレン <sup>※1</sup>	0.04	ND~0.013

※1 使用実績のない物質

※豊田合成レポートP41を参照

■法律等違反なし ■苦情なし

### ■PRTRデータ

物質名	物質番号(号番号)	取扱量	排出量			移動量		リサイクル量	除去(処理)の合計	消費(製品)の合計
			大気	水域	土壌	下水道への移動	廃棄物としての移動量			
エチルベンゼン	53	2,416	1,449	0	0	0	604	97	0	266
キシレン	80	9,725	5,835	0	0	0	2,431	389	0	1,070
クロム及び三価クロム化合物	87	3,898	0	31	0	0	3,087	0	0	780
六価クロム化合物	88	3,898	0	0	0	0	0	0	3,898	0
銅水溶性塩(錯塩を除く)	272	4,444	0	44	0	0	0	0	4,400	0
トルエン	300	38,786	21,562	0	0	0	12,603	2,064	0	2,557
ニッケル	308	78,742	0	0	0	0	0	0	78,742	0
ニッケル化合物	309	89,874	0	18	0	0	11,666	0	0	78,191
フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	355	5,040	0	0	0	0	353	0	0	4,687
ペルオキシ二硫酸の水溶性塩	395	4,875	0	0	0	0	0	0	4,875	0

### ■資源利用・排出量データ

区分	実績	
廃棄物	発生量	2,998
	排出物量	1,713
	最終処分量	0
温室効果ガス	CO <sub>2</sub> 排出量	10,800
水	使用量	48

### ■水質(水質汚濁防止法、県条例等)

測定項目	規制値	実績
pH	5.8~8.6	7.0
BOD	25	6.8
SS	30	1.2
油	5	ND
全窒素	120	13.3
全リン	16	0.7
六価クロム	0.5	ND
全クロム	2	0.2
銅	1	0.2
ふっ素	8	0.1
ほう素	10	4.9



## 尾西工場

愛知県一宮市  
明地字東下城40番

### 主要製品

- ・内外装部品
- ・セーフティシステム製品

### ■大気(大気汚染防止法、県条例等)

測定項目	規制値	実績	
ばいじん	ボイラー(重油)	0.3	0.003
	ボイラー(都市ガス)	0.05	ND
	コージェネ(都市ガス)	0.05	ND
NOx	ボイラー(重油)	180	78
	ボイラー(都市ガス)	150	56
	コージェネ(都市ガス)	600	105

■法律等違反なし ■苦情なし

### ■PRTRデータ

物質名	物質番号 (号番号)	取扱量	排出量			移動量		リサイクル量	除去(処理) の合計	消費(製品) の合計
			大気	水域	土壌	下水運への移動	廃棄物としての移動量			
エチルベンゼン	53	13,133	7,880	0	0	0	3,283	525	0	1,445
キシレン	80	17,834	10,700	0	0	0	4,458	713	0	1,962
1,3,5-トリメチルベンゼン	297	1,043	626	0	0	0	261	42	0	115
トルエン	300	32,285	19,492	0	0	0	8,029	1,270	0	3,493
メチルナフタレン	438	2,715	14	0	0	0	0	0	2,701	0
メチルピス(4,1-フェニル)ニソシアネート	448	31,565	0	0	0	0	3,157	0	0	28,409

### ■資源利用・排出量データ

区分	実績	
廃棄物	発生量	2,902
	排出物量	1,038
	最終処分量	0
温室効果ガス	CO <sub>2</sub> 排出量	12,600
	SF <sub>6</sub> 排出量	4,800
水	使用量	13

### ■水質(下水道法、県条例等)

測定項目	規制値	実績
pH	5.7~8.7	7.1
BOD	300	76.3
SS	300	22.8
油	30	2.2

## 瀬戸工場

愛知県瀬戸市惣作町  
141番地

### 主要製品

- ・内外装部品

### ■大気(大気汚染防止法、県条例等)

測定項目	規制値	実績	
ばいじん	ボイラー(灯油)	0.2	ND
NOx	ボイラー(灯油)	150	64

■法律等違反なし ■苦情なし

### ■PRTRデータ

物質名	物質番号 (号番号)	取扱量	排出量			移動量		リサイクル量	除去(処理) の合計	消費(製品) の合計
			大気	水域	土壌	下水運への移動	廃棄物としての移動量			
キシレン	80	6,068	50	0	0	0	8	1	6,005	4
1,2,4-トリメチルベンゼン	296	6,964	35	0	0	0	0	0	6,929	0
メチルピス(4,1-フェニル)ニソシアネート	448	49,710	0	0	0	0	4,971	0	0	44,739

### ■資源利用・排出量データ

区分	実績	
廃棄物	発生量	587
	排出物量	587
	最終処分量	0
温室効果ガス	CO <sub>2</sub> 排出量	4,800
水	使用量	1.9

### ■水質(水質汚濁防止法、県条例等)

測定項目	規制値	実績
pH	5.8~8.6	7.4
BOD	20	1.6
SS	20	0.2
全窒素	10	0.6
全リン	4	0.01

## 神奈川工場

神奈川県伊勢原市  
鈴川19番地5

### 主要製品

- ・内外装部品
- ・機能部品

■法律等違反なし ■苦情なし

### ■PRTRデータ

物質名	物質番号 (号番号)	取扱量	排出量			移動量		リサイクル量	除去(処理) の合計	消費(製品) の合計
			大気	水域	土壌	下水運への移動	廃棄物としての移動量			
トルエン	300	2,312	1,417	0	0	0	280	518	0	97

### ■資源利用・排出量データ

区分	実績	
廃棄物	発生量	102
	排出物量	102
	最終処分量	0
温室効果ガス	CO <sub>2</sub> 排出量	900
水	使用量	0.2

## 北九州工場

福岡県北九州市  
八幡東区大字前田  
北洞岡1番地2

### 主要製品

- ・内外装部品
- ・オートモーティブシーリング製品
- ・機能部品
- ・セーフティシステム製品

■法律等違反なし ■苦情なし

### ■PRTRデータ

物質名	物質番号(号番号)	取扱量	排出量			移動量		リサイクル量	除去(処理)の合計	消費(製品)の合計
			大気	水域	土壌	下水道への移動	廃棄物としての移動量			
エチルベンゼン	53	1,350	810	0	0	0	337	54	0	148
キシレン	80	1,970	947	0	0	0	404	468	0	152
クロム及び三価クロム化合物	87	4,390	0	0	0	0	3,512	0	0	878
六価クロム化合物	88	4,390	0	0	0	0	0	0	4,390	0
トルエン	300	13,291	6,319	0	0	0	2,647	3,348	0	977
ニッケル	308	30,589	0	0	0	0	0	0	30,589	0
ニッケル化合物	309	32,195	0	0	0	0	4,185	0	0	28,010

### ■資源利用・排出量データ

区分		実績
廃棄物	発生量	1,414
	排出物量	1,104
	最終処分量	0
温室効果ガス	CO <sub>2</sub> 排出量	7,600
水	使用量	2.5

## 福岡工場

福岡県宮若市倉久  
2223番地1

### 主要製品

- ・内外装部品
- ・機能部品
- ・セーフティシステム製品

■法律等違反なし ■苦情なし

### ■水質(水質汚濁防止法、県条例等)

測定項目	規制値	実績
pH	5.8~8.6	7.3
BOD	10	1.0
SS	25	0.5
油	2	ND

### ■PRTRデータ

物質名	物質番号(号番号)	取扱量	排出量			移動量		リサイクル量	除去(処理)の合計	消費(製品)の合計
			大気	水域	土壌	下水道への移動	廃棄物としての移動量			
トルエン	300	4,474	2,684	0	0	0	1,118	179	0	492

### ■資源利用・排出量データ

区分		実績
廃棄物	発生量	1,079
	排出物量	645
	最終処分量	0
温室効果ガス	CO <sub>2</sub> 排出量	3,300
水	使用量	1.7

## 佐賀工場

佐賀県武雄市若木町  
大字川古9966番地9

### 主要製品

- ・オプトエレクトロニクス製品

### ■大気(大気汚染防止法、県条例等)

測定項目	規制値	実績
ばいじん ボイラー(都市ガス)	0.1	ND
NOx ボイラー(都市ガス)	150	40

### ■水質(水質汚濁防止法、県条例等)

測定項目	規制値	実績
pH	5.8~8.6	7.4
BOD	20	2.5
SS	50	2.3
油	5	ND

■法律等違反なし ■苦情なし

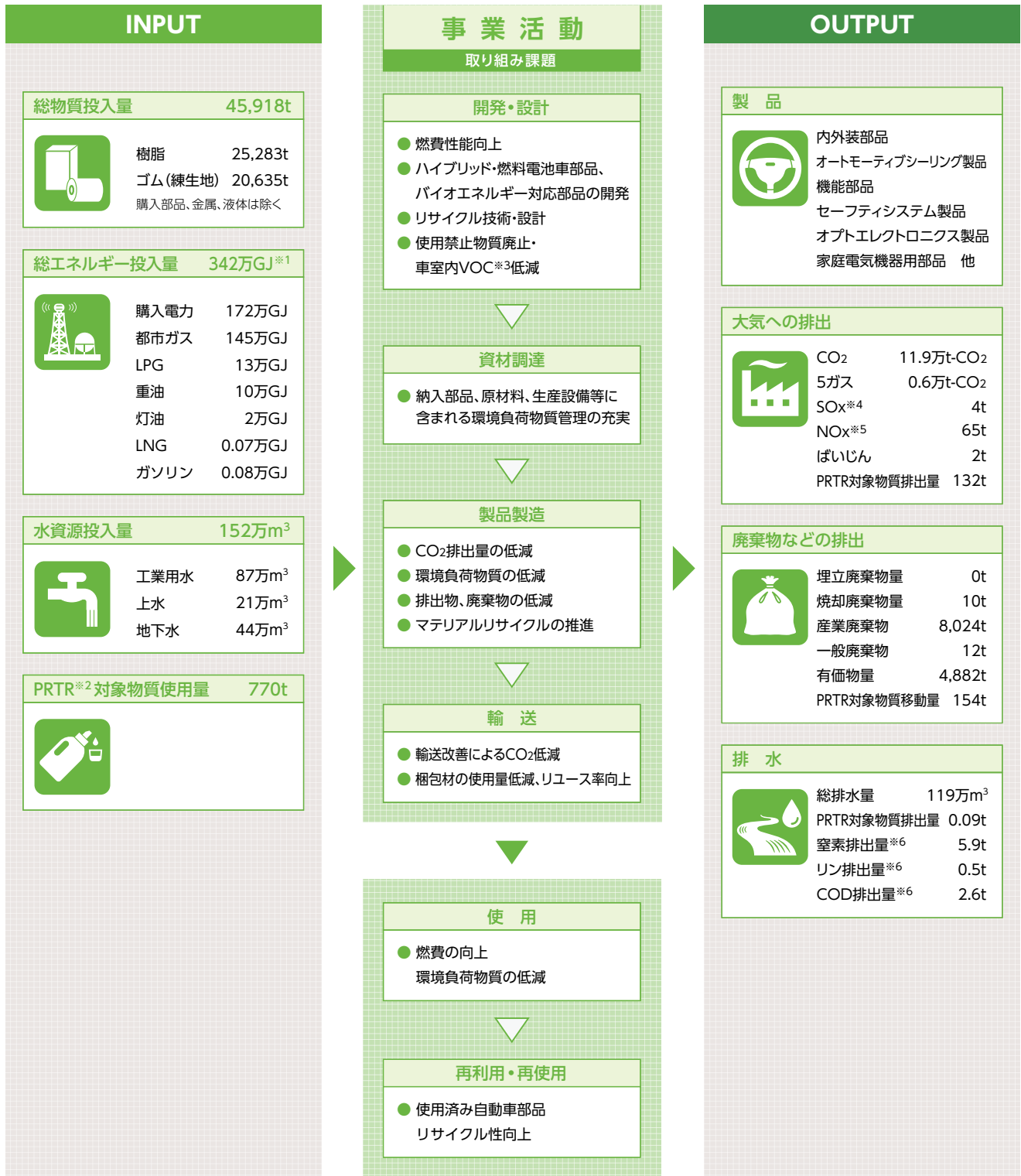
### ■PRTRデータ

物質名	物質番号(号番号)	取扱量	排出量			移動量		リサイクル量	除去(処理)の合計	消費(製品)の合計
			大気	水域	土壌	下水道への移動	廃棄物としての移動量			
2-アミノエタノール	20	25,975	3	0	0	52	25,920	0	0	0

### ■資源利用・排出量データ

区分		実績
廃棄物	発生量	373
	排出物量	373
	最終処分量	0
温室効果ガス	CO <sub>2</sub> 排出量	6,800
	PFC排出量	0
水	使用量	11

# 事業活動における2013年度の資源投入と環境への排出



※1 ギガジュール(1,000,000,000J) ※2 Pollutant Release and Transfer Register(環境汚染物質排出・移動登録制度)  
 ※3 Volatile Organic Compounds(揮発性有機化合物) ※4 硫酸化物 ※5 窒素酸化物  
 ※6 対象範囲: 春日・稲沢・平和町・瀬戸の4工場、北島技術センター、美和技術センター、サンコート井之口



## 検証意見書

2014年6月16日

豊田合成株式会社 御中

SGSジャパン株式会社(以下、当社)は、豊田合成株式会社(以下、組織)からの依頼に基づき、組織が作成した2013年度(2013年4月1日から2014年3月31日)の組織の温室効果ガス排出量(以下、GHGに関する主張)について、ISO14064-3:2006に基づいて検証を実施した。

このGHGに関する主張の作成責任は、組織にあり、当社の責任は、独立の立場からGHGに関する主張に対する意見を表明することである。

### 検証目的、範囲及び基準

本検証業務の目的は、組織の対象範囲にかかるGHGに関する主張について、組織が定めた算定方法に照らし適正に算定・報告されているかを確認し、第三者としての意見を表明することである。

対象範囲は、以下に示す通りである。

- 組織の北島技術センター、尾西工場、他国内16事業所における事業活動に伴うGHG排出量

本検証業務は、ISO14064-3:2006及び当社の検証手順に則り、限定的保証水準にて次の手続きを実施した。

- 算定体制の検証：検証対象の測定・集計・算定・報告方法に関する質問、及び関連資料の閲覧
- 排出量の検証：北島技術センター、尾西工場の現地検証及び証憑突合、検証対象範囲の全事業所に対する分析の方法及び質問

### 結論

前述の要領に基づいて実施した検証手続の範囲において、組織のGHGに関する主張(GHG排出量118,549t-CO<sub>2</sub>)が、判断規準に従って、算定及び報告されていないと認められる重要な事項は発見されなかった。

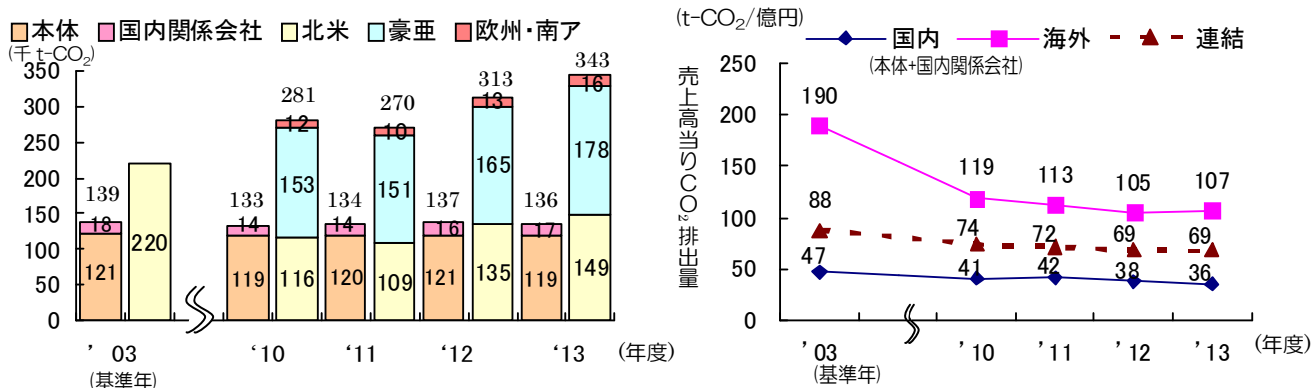
SGS ジャパン株式会社  
横浜市西区みなとみらい 2-2-1  
横浜ランドマークタワー 38 階  
代表取締役 鈴木信治



温暖化ガス、排出物、水資源使用量データ

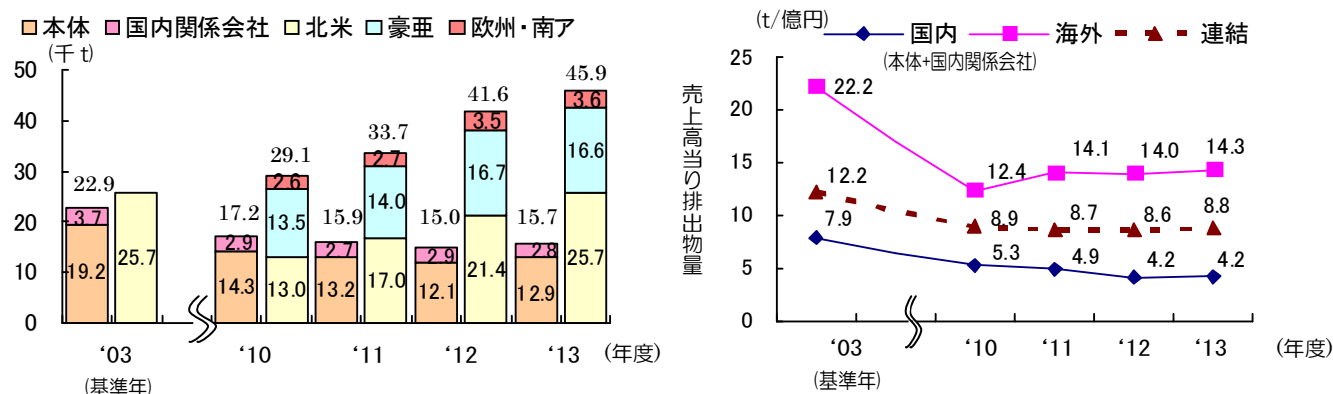
豊田合成レポート本紙より、対象会社を拡大して集計している為、データは一部異なります。

■温暖化ガス（CO<sub>2</sub>）排出量・原単位の推移 【エネルギー起因】

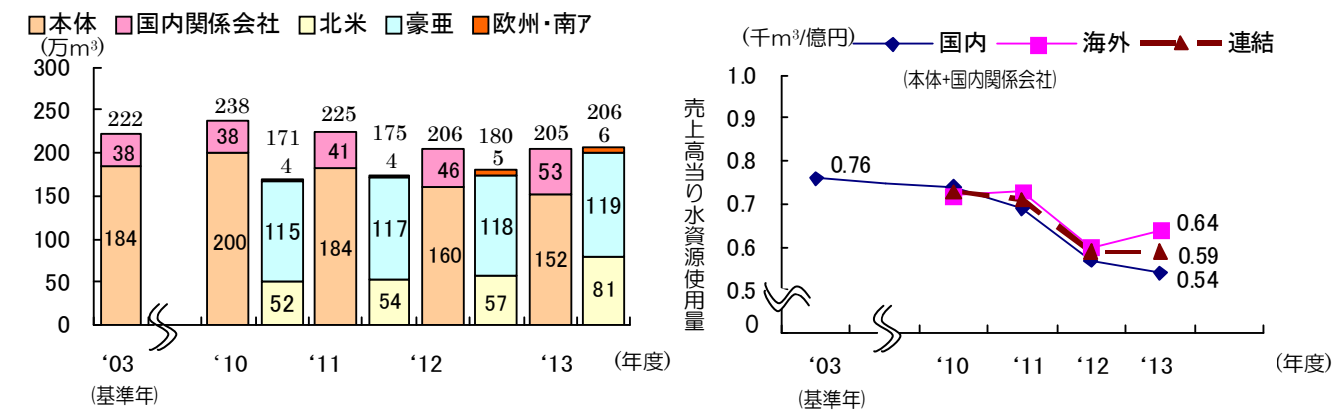


- ・CO<sub>2</sub>換算係数：海外拠点 GHGプロトコル（2001年）  
国内拠点 '90年経団連係数固定値（コージェネ補正あり）
- ・2020年原単位目標：2012年度比8%低減

■排出物量・原単位の推移



■水資源使用量・原単位の推移



- ・国内関係会社：'03年度データ推測値
- ・水資源使用量の削減は、'11年から取り組み(第5次環境取り組みプラン)を開始しました
- ・2015年グローバル連結原単位目標：2012年度比3%低減

## 化学物質取扱量及び排出量（国内外関係会社）

TG グループの国内外関係会社では各国の法令に基づき、化学物質取扱量、排出量、移動量、VOC 排出量を管理しています。下記に届出内容（13年度実績）を記載します。

## ■国内関係会社

## 【日本】 2社

適用法令：特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律

（単位：t/年）

化学物質名	政令番号	取扱量	排出量			移動量	
			大気	水域	土壌	下水道への移動量	廃棄物としての移動量
チウラム	268	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
キシレン	80	1.3	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0
1,2,4トリメチルベンゼン	296	1.5	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0

## ■海外関係会社

## 【アメリカ】 1社

適用法令：Toxic Release Inventory

（単位：t/年）

化学物質名	取扱量
スチレン	23
マンガン	63
ニッケル	98
クロム	28
銅	265
硝酸	31

## 【カナダ】 1社

適用法令：National Pollutants Release Inventory

（単位：t/年）

VOC排出量	173
--------	-----

## 【イギリス】 1社

適用法令：Pollution Prevention & Control Act 1999

（単位：t/年）

VOC排出量	6
--------	---

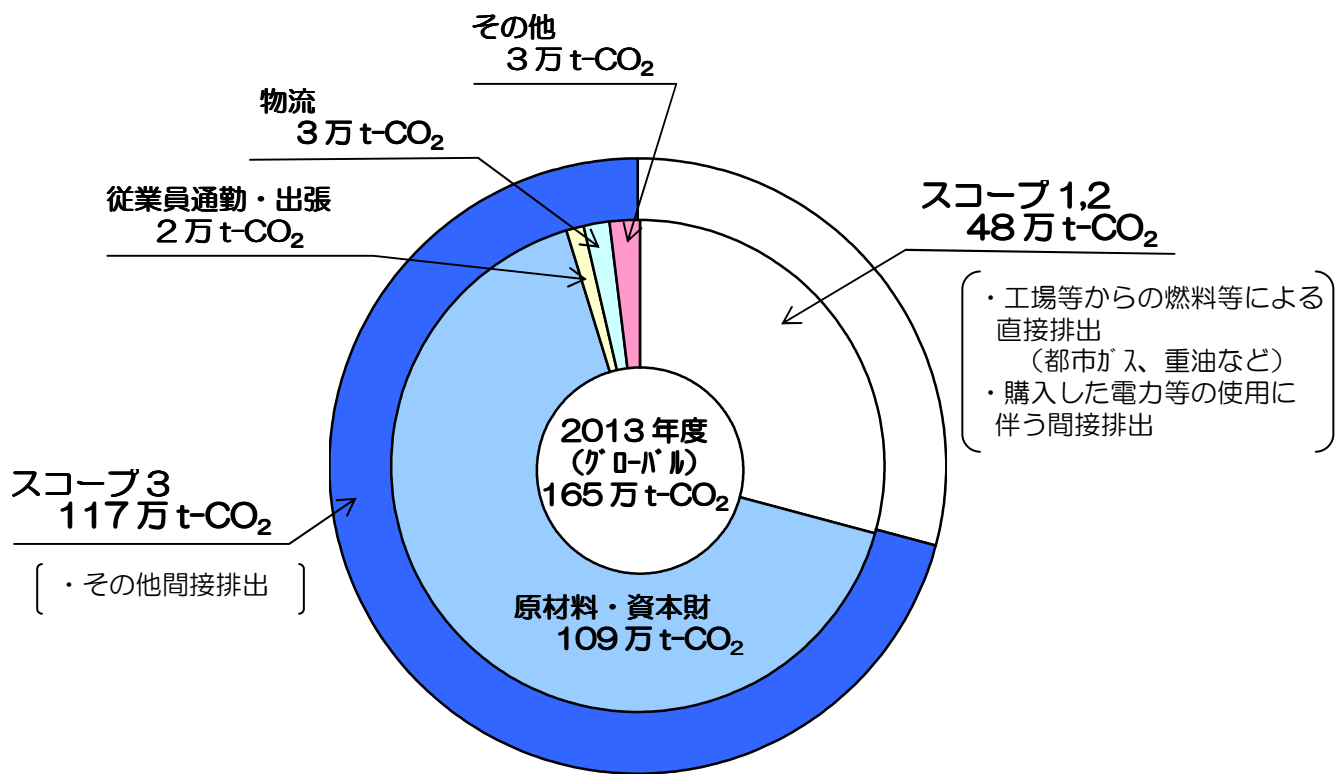
## 【台湾】 1社

適用法令：空氣污染防治費收費辦法

（単位：t/年）

VOC排出量	33
--------	----

スコープ別 CO<sub>2</sub>排出量



# GRI ガイドライン対照表

ガイドラインの項目	主な該当ページ
<b>1. 戦略および分析</b>	
1.1 組織にとっての持続可能性の適合性と、その戦略に関する組織の最高意思決定者 (CEO、会長またはそれに相当する上級幹部) の声明	P3-4
1.2 主要な影響、リスクおよび機会の説明	P3-4, 17
<b>2. 組織のプロフィール</b>	
2.1 組織の名称	P52
2.2 主要なブランド、製品および/またはサービス	P11
2.3 主要部署、事業会社、子会社および共同事業などの組織の経営構造	P49-51
2.4 組織の本社の所在地	P52
2.5 組織が事業展開している国の数および大規模な事業展開を行っている、あるいは報告書中に掲載されているサステナビリティの課題に特に関連のある国名	P49-51
2.7 参入市場 (地理的内訳、参入セクター、顧客/受益者の種類を含む)	P5-14
2.8 以下の項目を含む報告組織の規模 ・従業員数 ・事業(所)数 ・純売上高 (民間組織について) あるいは純収 (公的組織について) ・負債および株主資本に区分した総資本 (民間組織について) ・提供する製品またはサービスの量	P22, 45-46
2.10 報告期間中の受賞歴	P19
<b>3. 報告要素</b>	
<b>報告書のプロフィール</b>	
3.1 提供する情報の報告期間	P2
3.2 前回の報告書発行日	P2
3.3 報告サイクル	P2
3.4 報告書またはその内容に関する質問の窓口	P2
<b>報告書のスコープおよびバウンダリー (報告組織範囲)</b>	
3.5 以下を含め、報告書の内容を確定するためのプロセス ・重要性の判断 ・報告書内のおよびテーマの優先順位付け ・組織が報告書の利用を期待するステークホルダーの特定	P2
3.6 報告書のバウンダリー (国、部署、子会社、リース施設、共同事業、サプライヤー [供給者] など)	P2
3.7 報告書のスコープまたはバウンダリーに関する具体的な制限事項を明記する	P2
3.9 報告書内の指標およびその他の情報を編集するために適用された推計の基となる前提条件および技法を含む、データ測定技法および計算の基盤	P2
3.11 報告書に適用されているスコープ、バウンダリーまたは測定方法における前回の報告期間からの大幅な変更	P2
<b>GRI 内容索引</b>	
3.12 報告書内の標準開示の所在場所を示す表以下の項目を検索できるように、ページ番号またはWebリンクを明らかにする	P2
<b>4. ガバナンス、コミットメントおよび参画</b>	
<b>ガバナンス</b>	
4.1 戦略の設定または全組織の監督など、特別な業務を担当する最高統治機関の下にある委員会を含む統治構造 (ガバナンスの構造)	P15
4.2 最高統治機関の長が執行役員をかねているかどうかを示す (兼ねている場合は、組織の経営におけるその役割と、このような人事になっている理由も示す)	P15
4.6 最高統治機関が利益相反問題の回避を確保するための実施されているプロセス	P15
4.8 経済的、環境的、社会的パフォーマンス、さらにその実践状況に関して、組織内で開発したミッション (使命) およびバリュー (価値) についての声明、行動規範および原則	P1
4.9 組織が経済的、環境的、社会的パフォーマンスを特定し、マネジメントしていることを最高統治機関が監督するためのプロセス。関連のあるリスクと機会および国際的に合意された基準、行動規範および原則への支持または遵守を含む	P15
4.10 最高統治機関のパフォーマンスを、特に経済的、環境的、社会的パフォーマンスという観点で評価するためのプロセス	P32-33

ガイドラインの項目	主な該当ページ
<b>外部のイニシアティブへのコミットメント</b>	
4.11 組織が予防的アプローチまたは原則に取り組んでいるかどうか、およびその方法はどのようなものかについての説明	P17
<b>ステークホルダーの参画</b>	
4.14 組織に参画したステークホルダー・グループのリスト	P2
4.16 種類ごとのおよびステークホルダー・グループごとの参画の頻度など、ステークホルダー参画へのアプローチ	P18-30
4.17 その報告を通じた場合も含め、ステークホルダー参画を通じて浮かび上がった主要なテーマおよび懸案事項と、それらに対して組織がどのように対応したか	P18-30
<b>5. マネジメント・アプローチおよびパフォーマンス指標</b>	
<b>経済的パフォーマンス</b>	
EC1 収入、事業コスト、従業員の給与、寄付およびその他のコミュニティへの投資、内部留保および資本提供者や政府に対する支払いなど、創出および分配した直接的な経済的価値	P45-48
EC2 気候変動による組織の活動に対する財務上の影響およびその他のリスクと機会	P44
<b>市場での存在感</b>	
EC6 主要事業拠点での地元サプライヤー (供給者) についての方針、業務慣行および支出の割合	P27
<b>間接的な経済的影響</b>	
EC8 商業活動、現地支給、または無料奉仕を通じて、主に公共の利益のために提供されるインフラ投資およびサービスの展開図と影響	P28-30
<b>環境パフォーマンス指標</b>	
<b>原材料</b>	
EN1 使用原材料の重量または量	webサイト
EN2 リサイクル由来の使用原材料の割合	P36, webサイト
<b>エネルギー</b>	
EN3 一次エネルギー源ごとの直接的エネルギー消費量	webサイト
EN4 一次エネルギー源ごとの間接的エネルギー消費量	webサイト
EN5 省エネルギーおよび効率改善によって節約されたエネルギー量	P34-35
EN6 エネルギー効率の高いあるいは再生可能エネルギーに基づく製品およびサービスを提供するための率先取り組み、およびこれらの率先取り組みの成果としてのエネルギー必要量の削減量	P34-35, 43
EN7 間接的エネルギー消費量削減のための率先取り組みと達成された削減量	P34
<b>水</b>	
EN8 水源からの総取水量	P37, webサイト
EN9 取水によって著しい影響を受ける水源	webサイト
EN10 水のリサイクルおよび再利用量が総使用水量に占める割合	P37, webサイト
<b>生物多様性</b>	
EN12 保護地域および保護地域外で、生物多様性の価値が高い地域での生物多様性に対する活動、製品およびサービスの著しい影響の説明	P41
EN14 生物多様性への影響をマネジメントするための戦略、現在の措置および今後の計画	P41
<b>排出物、廃水および廃棄物</b>	
EN16 重量で表記する直接および間接的な温室効果ガスの総排出量	P32, 34, 36, webサイト
EN17 重量で表記するその他の関連ある間接的な温室効果ガス排出量	P32, 35
EN18 温室効果ガス排出量削減のための率先取り組みと達成された削減量	P32, 34-36
EN19 重量で表記するオゾン層破壊物質の排出量	webサイト
EN20 種類別および重量で表記するNOx、SOxおよびその他の著しい影響を及ぼす排気物質	webサイト
EN21 水質および放出先ごとの総排水量	webサイト
EN22 種類および廃棄方法ごとの廃棄物の総重量	P36, webサイト
EN23 著しい影響を及ぼす漏出の総件数および漏出量	webサイト
<b>製品およびサービス</b>	
EN26 製品およびサービスの環境影響を緩和する率先取り組みと影響削減の程度	P43
EN27 カテゴリー別の再生利用される販売製品およびその梱包材の割合	P37



ガイドラインの項目	主な該当ページ
<b>遵守</b>	
EN28 環境規制への違反に対する相当な罰金の金額および罰金以外の制裁措置の件数	webサイト
<b>輸送</b>	
EN29 組織の業務に使用される製品、その他物品、原材料の輸送および従業員の移動からもたらされる著しい環境影響	P35
<b>総合</b>	
EN30 種類別の環境保護目的の総支出および投資	P44
<b>労働慣行とディーセント・ワーク(公正な労働条件)パフォーマンス指標</b>	
<b>労働安全衛生</b>	
LA8 深刻な疾病に関して、労働者、その家族またはコミュニティのメンバーを支援するために設けられている教育、研修、カウンセリング、予防および危機管理プログラム	P24
LA9 労働組合との正式合意に盛り込まれている安全衛生のテーマ	P25
<b>研修および教育</b>	
LA11 従業員の継続的な雇用適性を支え、キャリアの終了計画を支援する技能管理および生涯学習のためのプログラム	P21-22
<b>多様性と機会均等</b>	
LA13 性別、年齢、マイノリティグループおよびその他の多様性の指標に従った、統治体(経営管理職)の構成およびカテゴリ別の従業員の内訳	P23

ガイドラインの項目	主な該当ページ
<b>人権パフォーマンス指標</b>	
<b>投資および調達への慣行</b>	
HR2 人権に関する適性審査を受けた主なサプライヤー(供給者)、請負業者およびその他のビジネス・パートナーの割合と取られた措置	P27
<b>社会パフォーマンス指標</b>	
<b>不正行為</b>	
SO3 組織の不正行為対策の方針および手順に関する研修を受けた従業員の割合	P16
SO4 不正行為事例に対応して取られた措置	—
<b>公共政策</b>	
SO5 公共政策の位置づけおよび公共政策立案への参加およびロビー活動	裏表紙
<b>製品責任のパフォーマンス指標</b>	
<b>顧客の安全衛生</b>	
PR1 製品およびサービスの安全衛生の影響について、改善のために評価が行われているライフサイクルのステージ、ならびにそのような手順の対象となる主要な製品およびサービスのカテゴリの割合	P18-19
<b>製品およびサービスのラベリング</b>	
PR5 顧客満足度を測る調査結果を含む、顧客満足に関する実務慣行	P19

## 環境報告ガイドライン(2012年版)対照表

ガイドラインの項目	主な該当ページ
<b>環境報告の基本的事項</b>	
<b>1. 環境報告の基本的事項</b>	
報告対象組織の範囲・対象期間	P2
対象範囲の補足率と対象期間の差異	P2
報告方針	P2
公表媒体の方針等	P2
<b>2. 経営責任者の緒言</b>	P3-4
<b>3. 環境報告の概要</b>	
環境配慮経営等の概要	P31
KPIの時系列一覧	P32-33
個別の環境課題に対する対応総括	P32-33
<b>4. マテリアルバランス</b>	webサイト
<b>環境マネジメント等の環境配慮経営に関する状況</b>	
<b>1. 環境配慮の方針、ビジョン及び事業戦略等</b>	
環境配慮の方針	P31
重要な課題、ビジョン及び事業戦略	P3-4
<b>2. 組織体制及びガバナンスの状況</b>	
環境配慮経営の組織体制等	P31
環境リスクマネジメント体制	P41
環境に関する規制等の遵守状況	P41
<b>3. ステークホルダーへの対応の状況</b>	
ステークホルダーへの対応	P28-30, 42
環境に関する社会貢献活動等	P28-30, 42
<b>4. バリューチェーンにおける環境配慮等の取組方針、戦略等</b>	
バリューチェーンにおける環境配慮の取組方針・サービス等	P27
グリーン購入・調達	P27

ガイドラインの項目	主な該当ページ
環境負荷低減に資する製品・サービス等	P38
環境関連の新技術・研究開発	P43
環境に配慮した輸送	P35
環境に配慮した資源・不動産開発/投資など	P37
環境に配慮した廃棄物処理/リサイクル	P36-37
<b>事業活動に伴う環境負荷及び環境配慮等の取組に関する状況</b>	
<b>1. 資源・エネルギーの投入状況</b>	
総エネルギー投入量及びその低減対策	P34-35, webサイト
総物質投入量及びその低減対策	P36-37, webサイト
水資源投入量及びその低減対策	P37, webサイト
<b>2. 資源等の循環的利用の状況(事業エリア内)</b>	P36-37, webサイト
<b>3. 生産物・環境負荷の産出・排出等の状況</b>	
総製品生産量又は総商品販売量等	webサイト
温室効果ガスの排出量及びその低減対策	P36, webサイト
総排水量及びその低減対策	webサイト
大気汚染、生活環境に掛かる負荷量及びその低減対策	webサイト
化学物質の排出量、移動量及びその低減対策	P38, webサイト
廃棄物等の総排出量、廃棄物最終処分量及びその低減対策	P36-37, webサイト
有害物質等の漏出及びその防止対策	P41
<b>4. 生物多様性の保全と生物資源の持続可能な利用の状況</b>	P41
<b>環境配慮経営の経済・社会的側面に関する状況</b>	
<b>1. 環境配慮経営の経済的側面に関する状況</b>	
事業者における経済的側面の状況	P44
社会における経済的側面の状況	P44
<b>2. 環境配慮経営の社会的側面に関する状況</b>	P3-4